

令和5年度

病虫害発生予察事業年報

和歌山県農作物病虫害防除所

目 次

I. 事業目的	1
II. 事業実施方針	1
III. 対象病害虫の種類	1
IV. 職員	4
V. 病害虫発生予察情報の提供等	
1. 発生予察情報の一覧	5
2. 病害虫の診断・同定の件数	8 8
VI. 病害虫の発生経過の概要	8 9
VII. 作物病害虫の発生状況調査	
1. 水稻の生育概況	9 5
2. 予察ほ場などにおける定点調査	9 7
3. 水稻巡回ほ場調査	9 8
1) 圃場における病害虫の発生状況	9 9
2) 主要病害虫の発生程度別面積	1 1 1
4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況	1 1 9
VIII. 野菜病害虫の発生状況調査	
1. 巡回調査における発生状況	1 2 5
2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況	1 3 3
3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況	1 3 8
IX. 果樹病害虫の発生状況調査	
1. 予察ほ場などにおける調査	1 3 9
2. 巡回調査結果	1 6 0

【年報内の用語について】

○平年（平年値）：過去10年の平均。本年度については、平成25年から令和4年の平均を示す。

令和5年度病害虫発生予察事業年報

I. 事業目的

農業生産の安定的発展と生産物の品質向上を図るため、指定有害動植物及び指定有害動植物以外の有害動植物（以下、「病害虫」という）について、その繁殖、気象、農作物の生育状況等を調査し、病害虫の発生とそれによる損害を予測し、適期適正な防除実施に必要な情報を関係機関等に提供することを目的とする。

II. 事業実施方針

病害虫発生予察事業の調査実施基準に基づいて、その目的、性質等を考慮して設置された県予察ほ場、地区予察ほ場及び害虫誘殺施設等による定点調査のほか、一般ほ場における巡回調査を実施し、定期または適期に関係機関等に発生予察情報を提供して、適切な防除の推進を図る。その他、県内で問題となる病害虫や侵入病害虫、新規発生病害虫に関する調査および情報提供なども実施する。

III. 対象病害虫の種類

作物名	対象病害虫
水 稲	(指 定) いもち病、紋枯病、縞葉枯病、もみ枯細菌病、ばか苗病、稲こうじ病、白葉枯病、ごま葉枯病、ヒメトビウンカ、トビイロウンカ、セジロウンカ、ツマグロヨコバイ、ニカメイガ、コブノメイガ、フタオビコヤガ、斑点米カメムシ類（クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ、ミナミアオカメムシ、シラホシカメムシ、トゲシラホシカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメ、イネカメムシ）、イネミズゾウムシ (指定外) 萎縮病、内穎褐変病、疑似紋枯病、イチモンジセセリ、イネゾウムシ、イナゴ類、イネシンガレセンチュウ、スクミリンゴガイ
キャベツ	(指 定) 黒腐病、菌核病、アブラムシ類（ニセダイコンアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ、シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、モンシロチョウ (指定外) ベと病、灰色かび病、軟腐病、ハイマダラノメイガ、ウワバ類
ハクサイ	(指定外) ベと病、黒斑病、軟腐病、白斑病
タマネギ	(指 定) 白色疫病、ベと病 (指定外) ボトリチス属菌による葉枯病、軟腐病、さび病
スイカ	(指 定) アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、シロイチモジヨトウ (指定外) つる枯病、うどんこ病、疫病、炭疽病、ハダニ類（カンザワハダニ、ナミハダニ）、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）
キュウリ	(指 定) ベと病、うどんこ病、灰色かび病、褐斑病、炭疽病、斑点細菌病、アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ）、アブラムシ類（ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ）、コナジラミ類（オンシツコナジラミ、タバココナジラミ）、ハダニ類（ナミハダニ、カンザワハダニ）

作物名	対 象 病 害 虫
キュウリ	(指定外) 疫病、モザイク病、黄化えそ病
ナス	(指 定) うどんこ病、すすかび病、灰色かび病、アブラムシ類(ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、ネギアザミウマ)、ハスモンヨトウ、オオタバコガ (指定外) モザイク病、疫病
トマト ミニトマ ト	(指 定) うどんこ病、黄化葉巻病、灰色かび病、葉かび病、疫病、すすかび病、アブラムシ類(モモアカアブラムシ)、コナジラミ類(オンシツコナジラミ、タバココナジラミ)、オオタバコガ、ハスモンヨトウ (指定外) モザイク病、ハモグリバエ類、ハダニ類
エンドウ	(指 定) シロイチモジヨトウ、オオタバコガ、ハスモンヨトウ、ヨトウガ (指定外) 褐紋病、褐斑病、うどんこ病、灰色かび病、つる枯細菌病、ウラナミシジミ、ナモグリバエ、ハモグリバエ類、アブラムシ類(マメアブラムシ、エンドウヒゲナガアブラムシ)、ウワバ類、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)
イチゴ	(指 定) 灰色かび病、うどんこ病、アブラムシ類(ワタアブラムシ)、ハダニ類(ナミハダニ、カンザワハダニ)、アザミウマ類(ミカンキイロアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ)、コナジラミ類(タバココナジラミ、オンシツコナジラミ)、ハスモンヨトウ
カンキツ	(指 定) かいよう病、黒点病、そうか病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ)、アブラムシ類(ワタアブラムシ、ミカシクロアブラムシ、ユキヤナギアブラムシ)、ハダニ類(ミカンハダニ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) 灰色かび病、褐色腐敗病、青・緑かび病、ミカンサビダニ、カイガラムシ類(ヤノネカイガラムシ、ナシマルカイガラムシ)、ロウムシ類(ツノロウムシ、ルビーロウムシ)、ゴマダラカミキリ、ミカンハモグリガ
キウイフ ルーツ	(指 定) かいよう病
カキ	(指 定) 炭疽病、アザミウマ類(チャノキイロアザミウマ、カキクダアザミウマ)、カイガラムシ類(フジコナカイガラムシ)、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類(チャハマキ、チャノコカクモンハマキ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) うどんこ病、灰色かび病、角斑落葉病、円星落葉病、落葉病、すす点病、コガシラアワフキ
モモ	(指 定) せん孔細菌病、ハダニ類(クワオオハダニ、ナミハダニ、カンザワハダニ)、シンクイムシ類(ナシヒメシンクイ、モモノゴマダラノメイガ、モモシンクイガ)、果樹カメムシ類(チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) 黒星病、灰星病、アブラムシ類(モモアカアブラムシ)、モモハモグリガ、コスカシバ、カイガラムシ類(ウメシロカイガラムシ、クワシロカイガラムシ)

作物名	対 象 病 害 虫
ウ メ	(指 定) かいよう病、黒星病、果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ) (指定外) すず斑病、アブラムシ類 (ムギワラギクオマルアブラムシ)、ウメシロカイガラムシ、コスカシバ
ブ ド ウ	(指 定) 果樹カメムシ類 (チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ)

IV. 職員

区 分	所 在 地	職 名	氏 名
本 所	和歌山県紀の川市貴志川町高尾 160 (農業試験場内) TEL 0736(64)2300 FAX 0736(65)2016	所 長 主 任 主 任 主 査 主 査 主 査 技 師 技 師	林 恭弘 久田 紀夫 岡本 崇 岡本 晃久 井沼 崇 中野 沙織 木村 響 南方 千景
有田川 駐在	和歌山県有田郡有田川町奥 751-1 (果樹試験場内) TEL 0737(52)4320 FAX 0737(53)2037	主 任 主 任 副主査 技 師	播磨 真志 衛藤 夏葉 直川 幸生 松山 尚生
紀の川 駐在	和歌山県紀の川市粉河 3336 (果樹試験場かき・もも研究所内) TEL 0736(73)2274 FAX 0736(73)4690	主 任 主 任 主 査 副主査	井口 雅裕 大谷 洋子 弘岡 拓人 増田 吉彦
みなべ 駐在	和歌山県日高郡みなべ町東本庄 1416-7 (果樹試験場うめ研究所内) TEL 0739(74)3780 FAX 0739(74)3790	主 任 主 任 技 師 技 師	土田 靖久 菱池 政志 柏木 悠里 裏垣 翔野

・病虫害発生予察情報の提供等

1．発生予察情報の一覧

1) 特殊報

令和5年12月27日

令和5年度病虫害発生予察特殊報（第1号）

和歌山県農作物病虫害防除所

1. 病虫害名：クロテンコナカイガラムシ *Phenacoccus solenopsis* Tinsley

2. 作物名：キンギョソウ、ミニトマト

3. 発生地域：岩出市、日高郡印南町

4. 発生確認の経過および県内外での発生状況

令和5年10月中旬、岩出市の施設栽培キンギョソウおよび日高郡印南町の施設栽培ミニトマトや周辺雑草においてコナカイガラムシ類の発生が認められた。農林水産省神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、本県では未発生のクロテンコナカイガラムシであることが確認された。

本種は平成21年に沖縄県で発生が初めて確認された後、大阪府、奈良県、京都府、兵庫県、滋賀県などの19府県においてトマト、ナス、キュウリ、ズッキーニ、オクラ、ハウレンソウ、食用トレニア、食用キンギョソウ等で発生が確認されている。

5. 形態および生態

1) 形態

雌成虫には翅がなく、体型は楕円形。体長は3～5mm程度。背面に白色のロウ物質を分泌するため、全体としては白く見えるが、背面の前方と後方に各1対の明瞭な黒斑が見られる（写真1）。

2) 生態

繁殖は、交尾後産卵する有性生殖と雌成虫が交尾しない単為生殖の両方が知られており、ワタ状のロウ物質の卵のう内に350個程度産卵する。ふ化幼虫は数日間卵のうで過ごした後、歩いて分散する。雌は2齢、3齢幼虫を経て成虫となり（写真2）、雄では2齢幼虫の終わりに繭を作り、前蛹、蛹を経て羽化し翅を持つ成虫となる。

3) 寄主植物

本種は広食性で、ナス科やウリ科、キク科等多くの作物や雑草に寄生する。

6. 被害

葉、茎、花芽等に寄生し、吸汁により寄主植物を衰弱させることから、発生が多いと生育不良になる（写真3）。また、甘露（糖分を多く含む排泄物）による果実や葉等の汚れやすさ症状を引き起こす。

7. 防除対策

1) 本種の茎葉等への寄生と、本種が分泌する甘露によるすす症状の早期発見に努める。

- 2) 除去できる寄生部位はビニール袋等に入れ、ほ場外に持ち出して適切に処分する。
- 3) スベリヒユ等の雑草にも寄生するため、ほ場内および周辺の除草を徹底する。
- 4) 作付けを開始する際には、本種の寄生のない健全な苗を選定する。
- 5) 令和5年12月1日現在、花き類のカイガラムシ類に対する登録農薬はあるが、ミニトマトでは登録のある農薬はない。農薬散布にあたっては、最新の情報を確認し、使用基準を遵守する。



写真1 クロテンコナカイガラムシ雌成虫
(背中に特徴的な黒斑)



写真2 ミニトマトの株元付近に寄生する
雌成虫と幼虫



写真3 キンギョウソウの被害

和歌山県農作物病虫害防除所
電話：0736(64)2300

2) 注意報

令和5年6月20日

令和5年度病害虫発生予察注意報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：スイカ炭疽病
2. 対象作物：スイカ
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 発生時期：梅雨時期（5～7月）
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は17%（平成3%）、発病葉率は1.1%（平成0.1%）であり、いずれも平成と比べて高い（表1）。
 - 2) 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は83%（平成13%）、発病葉率は8.3%（平成1.6%）であり、いずれも平成と比べて高い（表1）。
 - 3) 大阪管区气象台発表の1か月予報（予報期間：6月17日～7月16日）によると、曇りや雨の日が多い見込みで、発病に好適な条件が続くと予想される。

表1 6月の県北部および県中部におけるスイカ炭疽病の発生状況

	平成	平成	平成	平成	平成	平成	令和	令和	令和	令和	令和5年	平年	
	25年	26年	27年	28年	29年	30年	元年	2年	3年	4年	(本年)		
県北部	発生ほ場率 (%)	0	0	0	0	0	10	0	0	20	0	17	3
	発病葉率 (%)	0	0	0	0	0	0.3	0	0	0.3	0	1.1	0.1
県中部	発生ほ場率 (%)	7	0	0	7	0	0	0	0	100	12	83	13
	発病葉率 (%)	4.4	0	0	4.1	0	0	0	0	7.4	0	8.3	1.6

注) 平年：平成25～令和4年の平均

7. 防除上の注意事項

- 1) 発生を確認した場合、発病茎葉や果実（写真1、2）を速やかに取り除き、ほ場の外に持ち出すとともに、5～7日間隔で薬剤防除を梅雨明けまで続ける。
- 2) 未発生ほ場においても降雨前の予防散布に努める。
- 3) ほ場の排水性を改善するとともに、降雨の跳ね上がり防止に努める。
- 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。



写真1 スイカ葉の病斑



写真2 スイカ果実の病斑

和歌山県農作物病害虫防除所
電話：0736(64)2300

令和5年9月13日

令和5年度病害虫発生予察注意報（第2号）

和歌山県農作物病害虫防除所

1. 病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、クサギカメムシ）
2. 対象作物：カキ、カンキツ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ
3. 対象地域：県内全域
4. 発生量：多
5. 加害期間：8月下旬～
6. 注意報発表の根拠
 - 1) 8月中旬以降、県内3地点（紀の川市粉河、有田川町奥、みなべ町東本庄）の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺数が平年を上回る傾向が続いており、9月上旬にかけて増加傾向となっている。クサギカメムシも8月中旬以降の誘殺数が平年より多い傾向が続いている。
 - 2) 紀の川市粉河の予察灯における8月26日～9月5日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1,844頭（平年355.7頭）、クサギカメムシが848頭（平年77.9頭）であった（図1、図2）。
 - 3) 有田川町奥の予察灯における8月26日～9月5日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが465頭（過去9年の平均448.1頭）、クサギカメムシが117頭（過去9年の平均33.9頭）であった（図3、図4）。
 - 4) みなべ町東本庄の予察灯における8月26日～9月5日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが8,168頭（平年1,627.0頭）、クサギカメムシが552頭（平年148.3頭）であった（図5、図6）。
7. 防除上の注意事項
 - 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きい。ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
 - 2) 山林に隣接するほ場では飛来が多く、集中して加害される傾向がある。
 - 3) カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生ウンシュウミカンで被害が大きい。
 - 4) 台風通過後や強風後には、一時的にほ場への飛来が多くなることもある。

5) 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報

(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>) や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にする。

6) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。特に収穫が近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

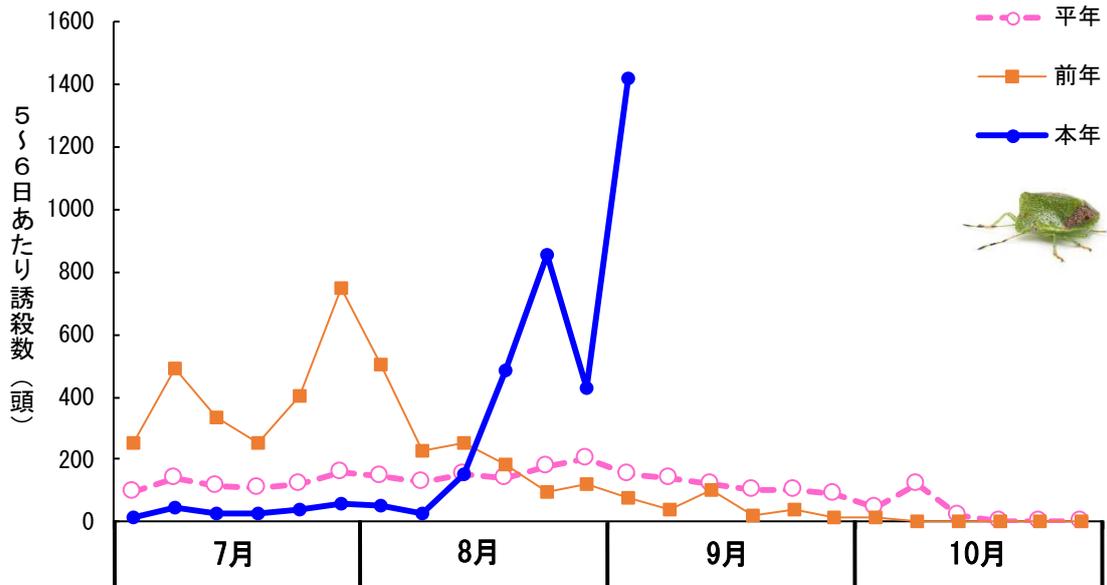


図1 紀の川市粉河の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺消長

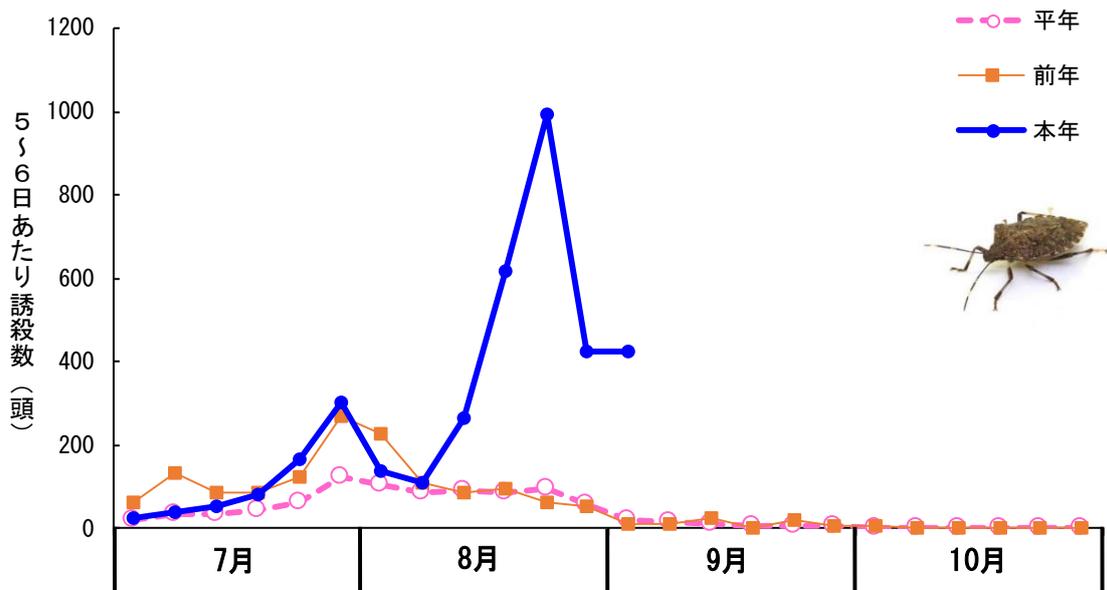


図2 紀の川市粉河の予察灯におけるクサギカメムシの誘殺消長

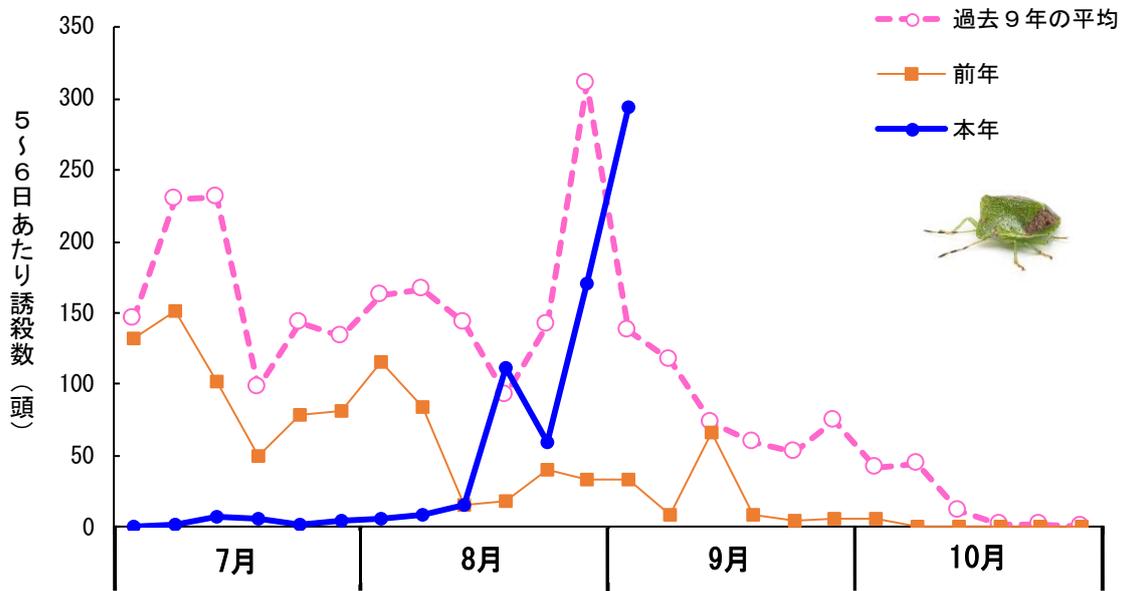


図3 有田川町奥の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺消長

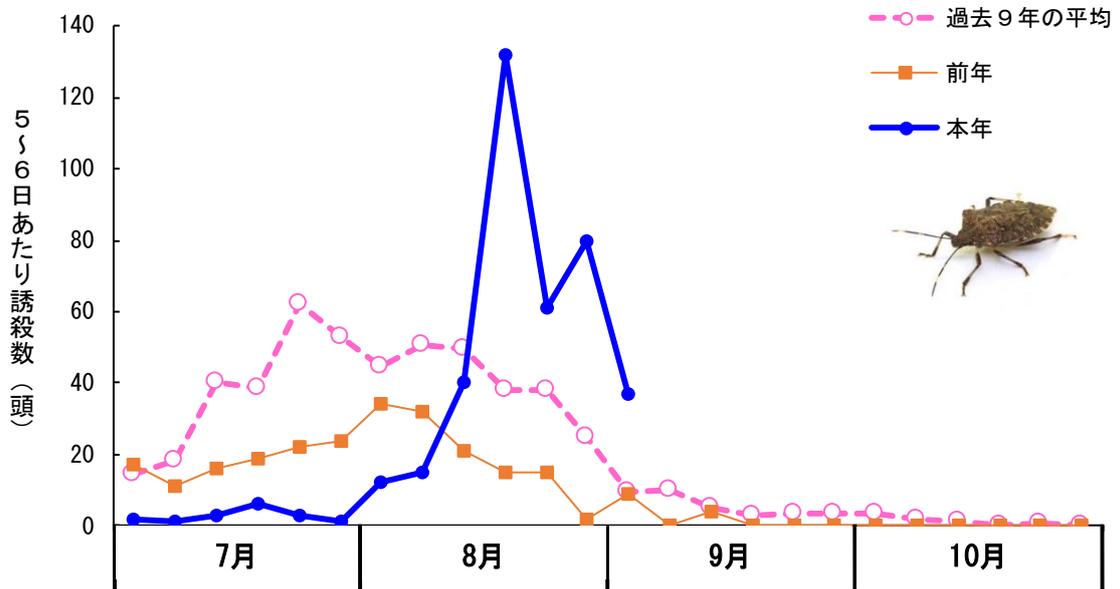


図4 有田川町奥の予察灯におけるクサギカメムシの誘殺消長

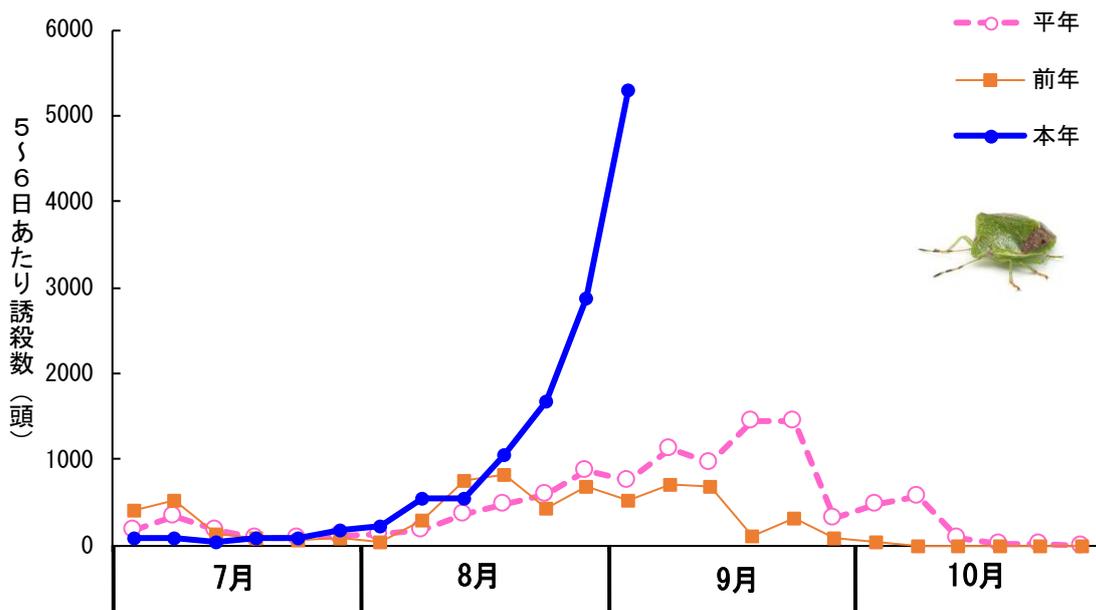


図5 みなべ町東本庄の予察灯におけるチャバネアオカメムシの誘殺消長

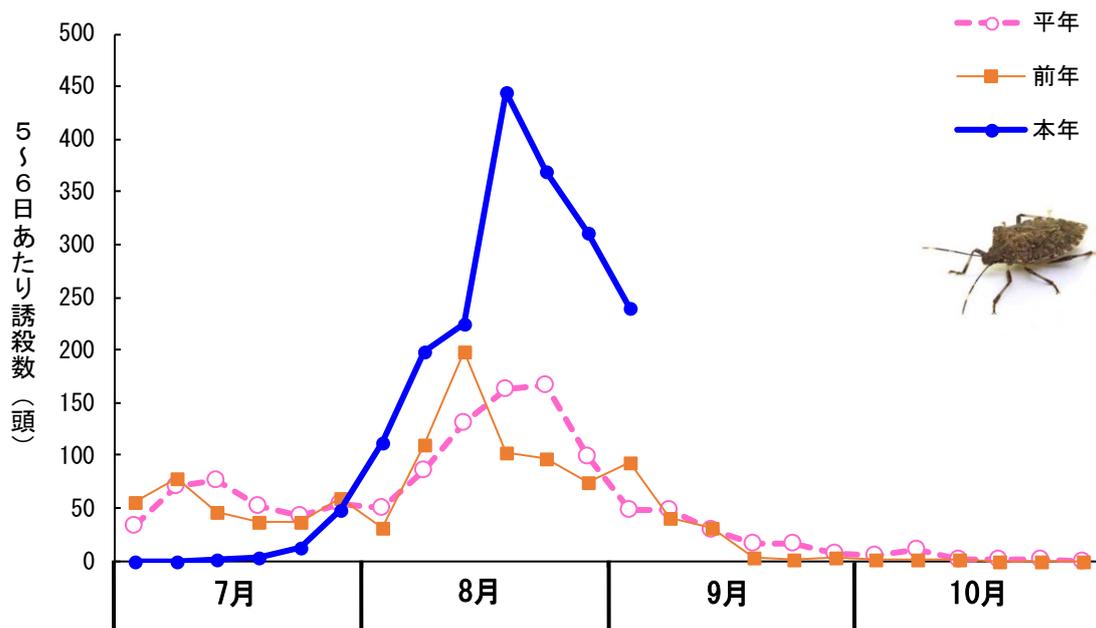


図6 みなべ町東本庄の予察灯におけるクサギカメムシの誘殺消長

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在(0736-73-2274)
 有田川駐在(0737-52-4320)
 みなべ駐在(0739-74-3780)

3) 防除技術情報

令和5年4月28日

令和5年度病害虫防除技術情報（第1号）

和歌山県農作物病害虫防除所

モモ、カンキツ、カキ、キウイフルーツの防除を徹底しましょう

向こう1か月の季節予報（大阪管区气象台4月27日発表）によると、近畿地方の降水量は多い確率が40%と予想されています。モモでは4～5月に強風雨の日が多いとせん孔細菌病の発生が多くなります。カンキツでは5月の多雨により灰色かび病、黒点病、そうか病の発生が多くなります。カキやキウイフルーツでは開花期の多雨は灰色かび病の発生を助長します。また、キウイフルーツでは開花10～30日前に花腐細菌病の感染が起こり、多雨で助長されます。多雨が予想される場合は、予防散布を徹底しましょう。

<モモ>

1. せん孔細菌病

- 1) 発生時期：4～8月
- 2) 防除対策
 - (1) 葉や果実への感染を防止するため、伝染源となる発病枝を見つけたら除去しましょう。
 - (2) 袋掛け前まで殺菌剤散布を徹底しましょう。抗生物質剤を中心に降雨前の予防散布を心掛け、7～10日間隔で丁寧に散布します。
 - (3) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行ってください。
 - (4) 風雨による果実への感染を防止するため、袋掛けは丁寧にいきましょう。
 - (5) 強風により防風ネットが破損した場合はすぐに補修しましょう。また、防風樹の管理に努めましょう。

<カンキツ>

1. 灰色かび病

- 1) 発生時期：5月
- 2) 防除対策
 - (1) 開花期から落弁期にかけて降雨、曇天が多いと枯死花弁上で病原菌が繁殖し、これが幼果に付着、感染して傷果の原因となります。特に、ウンシュウミカンやレモンなど花弁が残りのやすい品目では被害が大きくなりやすいため、注意が必要です。
 - (2) 薬剤防除は満開期に行います。満開期以降、花弁に発病がみられ、落弁が終わるまでに降雨が多い場合は落弁期に追加散布を実施します。なお、そうか病に適用がある薬剤を選定すると同時防除ができるので効率的です。
 - (3) 多湿は本病の発生を助長するため、整枝、剪定を行いほ場内の通風を良くしましょう。

2. 黒点病

- 1) 発生時期：5月下旬～10月
- 2) 防除対策
 - (1) 5月下旬から8月下旬にかけてマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤を散布します。散布後の累積降水量が200～250mmとなった時点、または1か月を経過した時点のどちらかの早いタイ

- ミングで追加散布を行います。
- (2) 長雨や集中豪雨となった場合、次の散布時期までに累積降水量が 250mm を超えて薬剤の効果が低下するおそれがあります。耐雨性の向上にはパラフィン系展着剤（商品名：アピオンE、希釈倍数：1,500 倍）の加用が有効です。また、ウンシュウミカンでは、ジマンダイセン水和剤を 400 倍で散布することも有効です。
 - (3) カンキツの枯れ枝が伝染源となるため、枯れ枝は切除してほ場外に持ち出しましょう。

3. そうか病

- 1) 発生時期：4月～8月上旬
- 2) 防除対策
 - (1) 発生が問題となるのは主にウンシュウミカンです。果実での発生を防ぐためには7月下旬まで感染を抑える必要があります。
 - (2) 発芽直後（新梢長約 10mm の頃）の初期防除が重要です。開花期以降は灰色かび病や黒点病との同時防除を行います。
 - (3) 発病した春枝や果実は伝染源となるため、可能な限り除去しましょう。

<カキ、キウイフルーツ>

1. 灰色かび病

- 1) 発生時期：5～6月
- 2) 防除対策
 - (1) カキでは花やがく片が発病すると、落花後、果実の表面に小黑点を生じます。発病が著しい場合は落果することもあります。
 - (2) キウイフルーツでは落弁期の花弁や雄ずいに発病し、分生子が幼果に付着すると果実に傷を付けます。発病が著しい場合は落果することもあります。
 - (3) 開花期に多雨が予想される場合は、開花直前～満開期に薬剤防除を行います。
 - (4) 罹病葉や罹病花弁は早めに除去しましょう。
 - (5) 多湿は本病の発生を助長するため、整枝、剪定を行いほ場内の通風を良くしましょう。
 - (6) 窒素過多は樹を軟弱にし、発病しやすくするので、肥培管理に留意してください。

<キウイフルーツ>

1. 花腐細菌病

- 1) 発生時期：5～6月
- 2) 防除対策
 - (1) がく割れ期に病原菌が花蕾内に侵入すると、がく及び花弁が褐変し、激発すると落蕾します。
 - (2) 本病に対しては、開花 20～30 日前の主幹の環状剥皮が有効であり、通常は薬剤散布の必要性は低いです。ただし、開花期前後に多雨が予想される場合には、降雨前に適用農薬を散布しましょう。

和歌山県農作物病害虫防除所 モモ・カキ・キウイフルーツ 紀の川駐在 電話：0736(73)2274 カンキツ 有田川駐在 電話：0737(52)4320

令和5年9月22日

令和5年度病虫害防除技術情報（第2号）

和歌山県農作物病虫害防除所

果樹カメムシ類の発生が急増しています！

果樹カメムシ類については9月13日付けで、県内全域のカキ、カンキツ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツを対象に病虫害発生予察注意報（第2号）を発表したところですが、依然として平年を上回る飛来が認められています。ほ場内での発生および被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行いましょう。

1. 病虫害名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシ）
2. 対象作物：カキ、カンキツ、ナシ、ブドウ、キウイフルーツ
3. 対象地域：県内全域
4. 加害期間：8月下旬～
5. 誘殺状況（予察灯）

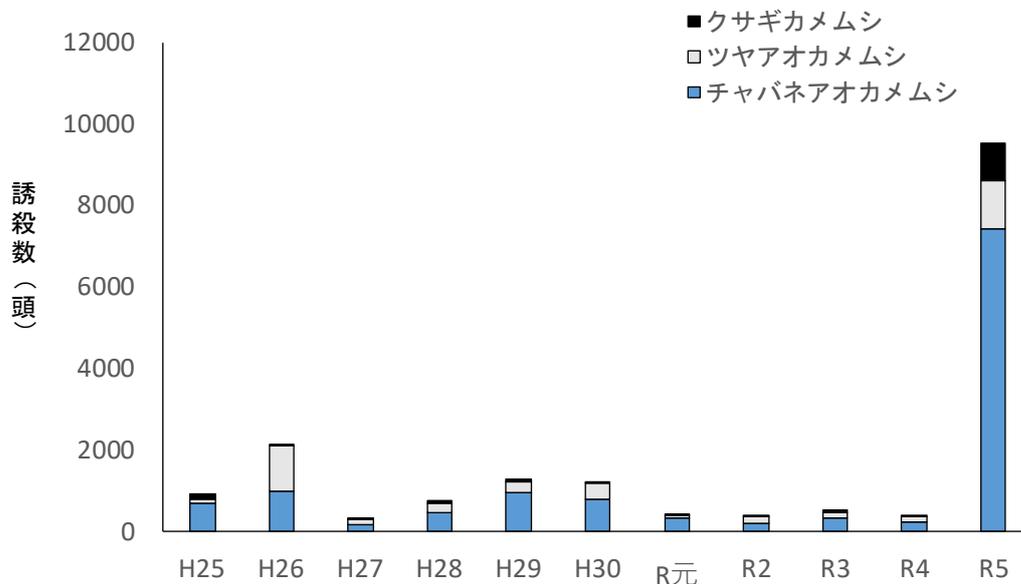


図1 紀の川市粉河の予察灯における9月1日～20日の果樹カメムシ類の誘殺数

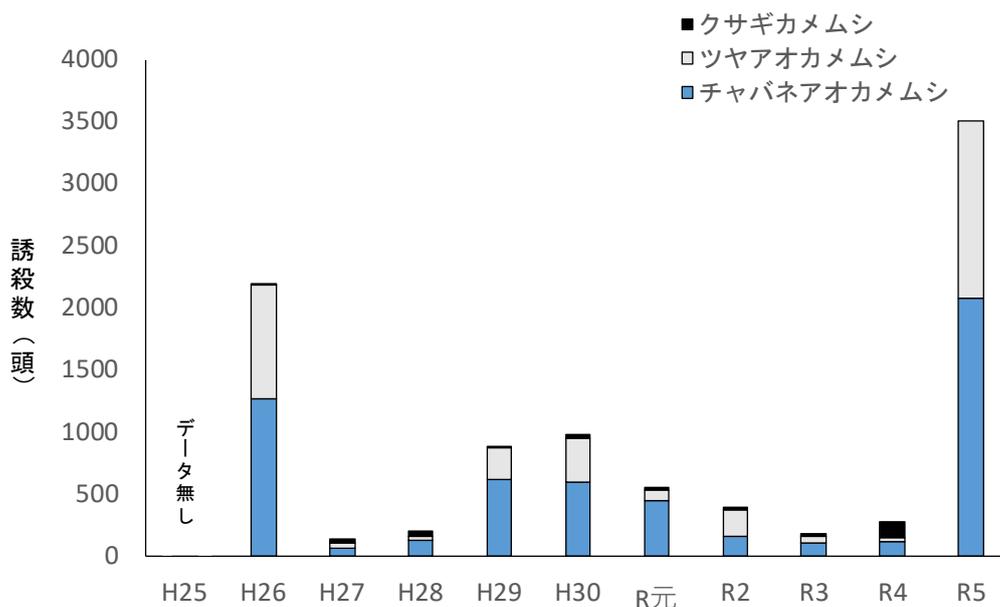


図2 有田川町奥の予察灯における9月1日～20日の果樹カメムシ類の誘殺数

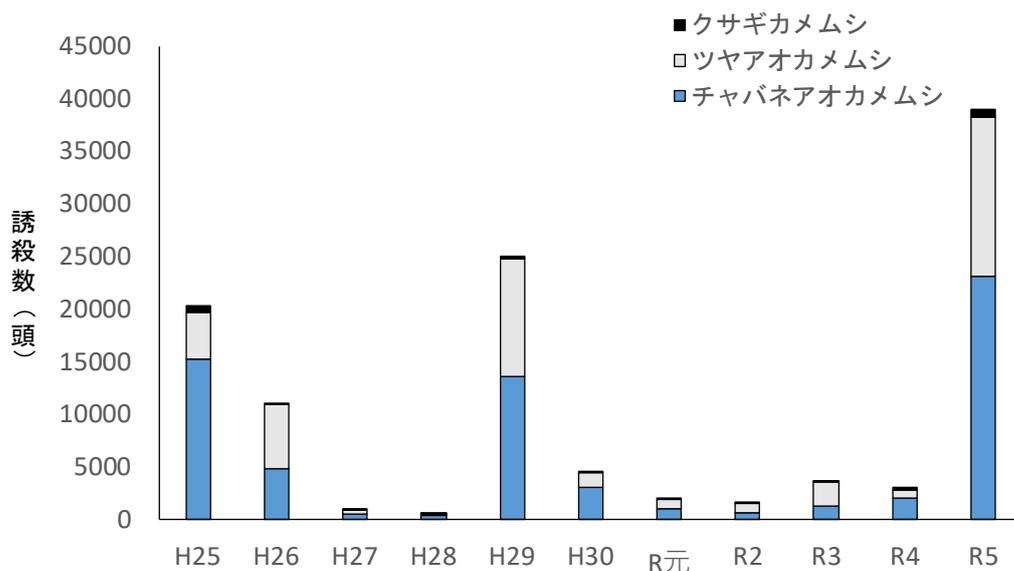


図3 みなべ町東本庄の予察灯における9月1日～20日の果樹カメムシ類の誘殺数

6. 防除上の注意事項

- 1) 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きい。ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- 2) 山林に隣接するほ場では飛来が多く、集中して加害される傾向がある。
- 3) カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生ウンシュウミカンで被害が大きい。

- 4) 台風通過後や強風後には、一時的には場への飛来が多くなることもある。
- 5) 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報
(<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>) や各地域の振興局、JA 等の情報を参考にする。
- 6) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。特に収穫に近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

和歌山県農作物病害虫防除所	紀の川駐在 (0736-73-2274)
	有田川駐在 (0737-52-4320)
	みなべ駐在 (0739-74-3780)

令和6年3月6日

令和5年度病害虫防除技術情報（第3号）

和歌山県農作物病害虫防除所

タマネギベと病の発生に注意して下さい

県北部のタマネギにおいて、べと病の越年罹病株の発生が多く認められました。気象予報（大阪管区气象台、令和6年2月29日発表）によると、向こう1か月の平均気温が平年並または高い見込みであることから、今後の降雨の状況によっては発生の増加が懸念されます。ほ場をよく観察し、防除を徹底しましょう。

1. 対象作物：タマネギ
2. 対象地域：県北部
3. 発生時期：2～6月
4. 発生状況

- 1) 3月上旬の県北部におけるタマネギベと病越年罹病株（写真1）の発生ほ場率は10%、発病株率は0.26%であった。発生ほ場率は、3月上旬の平均（4%）と比べて高く、3月中下旬の平均（9%）と同程度であった。発病株率は、3月上旬の平均（0.03%）、3月中下旬の平均（0.11%）と比べて高かった（表1）。

表1 3月上旬および中下旬の県北部におけるタマネギベと病越年罹病株の発生状況

	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	平均	令和6年 (本年)
3月上旬												
発生ほ場率 (%)	-	-	0	0	-	6	3	10	-	-	4	10
発病株率 (%)	-	-	0	0	-	0.04	0.04	0.09	-	-	0.03	0.26
3月中下旬												
発生ほ場率 (%)	3	7	0	8	9	6	10	10	27	13	9	-
発病株率 (%)	0.01	0.01	0	0.07	0.03	0.05	0.12	0.12	0.51	0.21	0.11	-

注) -はデータなし

5. 防除上の注意事項

- 1) 前年に発生が多かったほ場は、本年も発生しやすい。
- 2) 本病は、気温15℃前後で曇雨天が続くと多発する。気温が高く降水量が多い場合は、本病の発生および増加に注意する。
- 3) ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。二次感染株（写真2）を確認した場合は発病葉を除去する。抜き取った株や発病葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。
- 4) 越年罹病株や二次感染株を確認した場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても孢子飛散による感染拡大を防ぐため、予防散布を徹底する。
- 5) 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
- 6) 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

7) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用する。

和歌山県農作物病虫害防除所
電話：0736(64)2300



写真1 タマネギベと病越年罹病株

10～12月頃に苗床や本ぽで感染し、翌年の2～3月頃に発病が認められる株。葉の光沢がなくなり黄化・湾曲し、生育が悪く、草丈が低くなることが多い。



写真2 タマネギベと病二次感染株の病斑

越年罹病株上に形成された分生子により感染し発病する。葉に淡黄色の楕円形～長卵形の病斑を生じる。また、二次感染株上にも分生子が作られ、適した条件になると分生子による感染と発病を繰り返す。4～5月に発生が多くなる。

令和6年3月28日

令和5年度病害虫防除技術情報（第4号）

和歌山県農作物病害虫防除所

チャバネアオカメムシの越冬量について

県内全域でチャバネアオカメムシの越冬量が平年よりも多くなっています。

1. 病害虫名：チャバネアオカメムシ越冬成虫
2. 対象地域：県内全域
3. 越冬量：多
4. 加害期間：4月下旬～
5. 越冬状況
 - 1) 落葉中のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は、落葉50リットル当たり2.9頭（前年0.0頭、平年0.5頭）と過去10年と比較して最も多かった（第1表）。
 - 2) 越冬成虫の捕獲地点率は48.9%（前年2.1%、平年21.9%）と、平年よりやや高かった（第1表）。

第1表 チャバネアオカメムシの越冬調査の結果

年次	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	平年値
捕獲頭数/地点	2.1	0.3	0.5	0.0	1.5	0.1	0.2	0.1	0.3	0.0	2.9	0.5
捕獲地点率(%)	51.1	23.4	31.0	0.0	61.7	6.4	13.0	8.5	21.7	2.1	48.9	21.9
調査か所数	47	47	47	47	47	47	47	47	46	47	47	—

注1) 定点の落葉50リットルを1～2月に採集。平年値：過去10年の平均値

注2) 捕獲地点率は全調査地点のうち越冬成虫が捕獲された地点の百分率

6. 今後の対応
 - 1) 4月以降の発生動向については、果樹カメムシ類の予察灯での誘殺数データを鳥獣害対策課のウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報 (<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>) に掲載します。これらの情報や各地域の振興局、JA等の情報を参考にしてください。
 - 2) 4月以降、気温の上昇とともに越冬成虫が果樹ほ場に飛来し、果実に被害が出始めるので注意が必要です。
 - 3) 飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行いましょう。
 - 4) 防除薬剤は最新の登録情報（農林水産省 農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用しましょう。

和歌山県農作物病害虫防除所 紀の川駐在(0736-73-2274)
有田川駐在(0737-52-4320)
みなべ駐在(0739-74-3780)

病虫害発生予報 第1号（4月予報）

和歌山県農作物病虫害防除所

＜予報の概要＞

作物名	病虫害名	発生量	作物名	病虫害名	発生量
水稲	ヒメトビウンカ ツマグロヨコバイ	並多	野菜全般	灰色かび病 アザミウマ類	並並
タマネギ	白色疫病 べと病	やや少 やや多	カンキツ	かいよう病 そうか病	並並
エンドウ	褐紋病 うどんこ病	やや少 並		ミカンハダニ	やや多
キャベツ	コナガ	並	カキ	うどんこ病	並
キュウリ	べと病 褐斑病 タバココナジラミ ミナミキイロアザミウマ	やや多 少 やや多 やや多	ウメ	かいよう病	並
			果樹全般	カメムシ類	やや少

気象予報

近畿地方 1か月予報（03/25～04/24）

2023年03月23日14時30分 大阪管区気象台 発表		
向こう1か月 03/25～04/24	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 03/25～03/31	気温	1週目は、高い確率60%です。
2週目 04/01～04/07	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目 04/08～04/21	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



低い（少ない）
 平年並
 高い（多い）

I. 水 稲

1. ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生時期 早
発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市4.0頭、成虫率100%（平年8.3頭、成虫率67%）、紀の川市11.5頭、成虫率100%（平年5.9頭、成虫率53%）、かつらぎ町1.3頭、成虫率100%（平年5.1頭、成虫率46%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ヒメトビウンカはイネ縞葉枯ウイルスを媒介する。イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、休閑田や雑草地付近での育苗を避ける。
② は種時（覆土前）～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。
③ 田植え前から作期を通して、ヒメトビウンカの生息場所となる水田周辺雑草の除草管理を徹底する。

2. ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生時期 早
発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 3月下旬の休閑田の捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市98.8頭、成虫率100%（平年6.4頭、成虫率73%）、紀の川市26.0頭、成虫率99%（平年0.9頭、成虫率36%）、かつらぎ町92.5頭、成虫率100%（平年24.7頭、成虫率59%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① は種時（覆土前）～移植当日に育苗箱施薬剤を施用する。

※ 水稻害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 白色疫病

- (1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は3%（平年22%）、発病株率は0.03%（平年2.5%）であった。

- ② 4月の気象予報による

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一のほ場内でも発病に偏りがみられることがあるので、ほ場全体を見回り、発病が集中しているところは特に丁寧に薬剤散布を行う。
② 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。

2. ベと病

- (1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での3月中旬の越年罹病株の発生ほ場率は13%（平成9%）、発病株率は0.2%（平成0.1%）であった。二次感染株の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率7%、発病株率0.1%）であった。
- ② 4月の気象予報による
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 前年の発生が多かったほ場では、本年も発生しやすいので注意する。
 - ② 本病は、気温15℃前後で曇雨天が続くと多発する。
 - ③ ほ場をこまめに見回り、越年罹病株の早期発見と抜き取りを徹底する。二次感染株を確認した場合は発病葉を除去する。抜き取った株や発病葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。
 - ④ 越年罹病株や二次感染株が認められた場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても孢子飛散による感染拡大を防ぐため、予防散布を徹底する。
 - ⑤ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
 - ⑥ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
 - ⑦ 令和4年度病害虫防除技術情報第5号（令和5年3月20日発表）を参照する。

<エンドウ>

1. 褐紋病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培における3月中旬の発生ほ場率は8%（平成27%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 雨が多いと多発するので薬剤散布は早めに行う。
 - ② 多湿条件で発病が助長されるので、排水対策や通風対策に努める。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部の露地栽培での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成3%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発生初期から薬剤防除を行う。

<キャベツ>

1. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部での3月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率3%、1株当たり発生密度0.0頭）であった。
 - ② フェロモントラップによる3月1～20日の誘殺数は、和歌山市6頭（平成21.3頭）、紀の川市1頭（平成5.3頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ジアミド系、IGR剤などの薬剤は殺虫効果の低下が認められている。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は連用しない。

＜キュウリ＞

1. ベと病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部での3月下旬の発生ほ場率は39%（過去9年の平均29%）、発病葉率は11.5%（過去9年の平均6.0%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。
 - ② 病原菌は気孔から侵入するので、薬液は葉の表裏にムラなくかかるように散布する。
 - ③ 肥効が低下したり草勢が衰えたりすると発病が助長されるので、適切な肥培管理に努める。
 - ④ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。

2. 褐斑病

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部での3月下旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均：発生ほ場率33%、発病葉率5.4%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 多発すると防除が難しくなるため、初期防除を徹底する。
 - ② 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
 - ③ ボスカリド剤、チオファネートメチル剤、アゾキシストロビン剤に対する感受性低下菌が認められている。

3. タバココナジラミ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は60%（過去9年の平均29%）、生息葉率は9.9%（過去9年の平均2.3%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① タバココナジラミはウリ類退緑黄化ウイルスを媒介する。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県中部での3月中旬の発生ほ場率は33%（過去9年の平均14%）、生息葉率は3.3%（過去9年の平均1.2%）であった。
 - ② 4月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 気温の上昇とともに発生が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

<野菜全般>

1. 灰色かび病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培キュウリでの3月下旬の発生ほ場率は0%（平成2%）であった。

② 県中部の施設栽培ミニトマトでの3月中旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均4%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設の湿度低下を図り、過灌水や滞水しないように注意する。

② 発病部位を除去し、発病初期から薬剤防除を行う。

③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。

2. アザミウマ類（ミナミキイロアザミウマを除く）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の施設栽培イチゴでの3月中旬の発生ほ場率は、ヒラズハナアザミウマ11%（過去7年の平均10%）、ミカンキイロアザミウマ11%（平成0%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリでの3月中旬の発生ほ場率は、ミカンキイロアザミウマ0%（過去9年の平均3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 気温の上昇とともに発生が増加するので、発生初期に防除する。多発ほ場では追加防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 初発日 やや早

発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）の3月中旬における春葉の越冬病斑の発病葉率は15.3%（平成9.5%）であった。

② 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は19%（平成19%）、発病葉率は0.5%（平成0.5%）であった。

③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 罹病性品種植栽ほ場や常発ほ場では、伝染源となる罹病枝葉の剪除や防風施設の整備に努めるとともに、新梢伸長期に銅水和剤（薬害軽減のための措置を講じる）を散布する。

2. そうか病

(1) 予報内容 発生時期 やや早

発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）におけるウンシュウミカンの果実発病の発生ほ場率は5%（平成4%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 常発ほ場や前年多発ほ場では、伝染源となる罹病葉の除去、発芽直後の薬剤防除に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（有田川町奥）における3月中旬の発生葉率は、無防除区9.0%（平成4.1%）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0%（平成0%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミカンハダニの防除は、12月下旬～1月上旬または3月中下旬、6月下旬のマシン油乳剤の散布、9月の化学合成殺ダニ剤の散布を基本とする。
- ② 殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

<カ キ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月中旬の「富有」の発生ほ場率は65%（平成79%）、発病葉率は10.0%（平成19.1%）であった。
- ② 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 子のう胞子飛散最盛期は4月下旬～5月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発したほ場では、この時期の防除を徹底する。
- ② 4～5月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。
- ③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

<ウ メ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 3月上中旬の予察ほ場（無防除、みなべ町東本庄）での2年生枝の潜伏越冬病斑形成枝率は0%（過去6年の平均1.1%）であった。
- ② 県南部（みなべ町、田辺市）の前年6月上旬の発生ほ場率は44%（平成47%）、発病果率は1.0%（平成1.8%）であった。
- ③ 4月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 強風雨により感染が助長されるため、常発ほ場では防風施設の整備等の防風対策を励行する。

- ② 生育期の薬剤防除は、発芽期からほぼ10日おきに数回、抗生物質剤を散布する。強風雨直前の散布で、より高い効果が得られる。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は落葉50リットル当たり0.0頭(前年0.3頭、平年0.5頭)、捕獲地点率は2.1%(前年21.7%、平年21.1%)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいため、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメ、モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。
- ③ ウメの被害は品種間差が大きいため、小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるため、これらの品種では特に注意が必要である。
- ④ カンキツでは蕾、花が加害されるため、被害が認められた場合は薬剤による防除を行う。
- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所(紀の川市、農業試験場内)

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在(有田川町、果樹試験場内)

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在(紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内)

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在(みなべ町、果樹試験場うめ研究所内)

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第2号（5月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

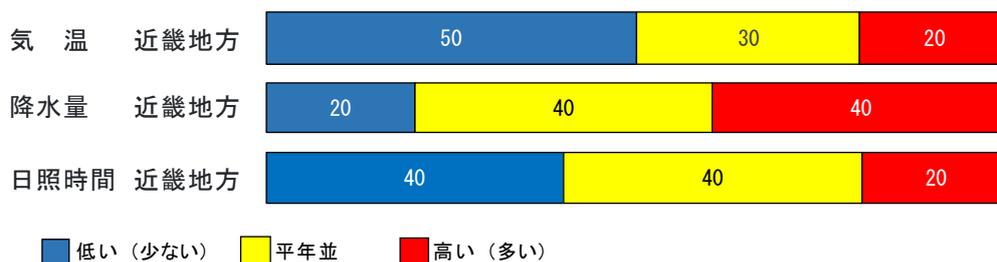
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	もみ枯細菌病による苗腐敗症	並	カンキツ	かいよう病	やや多
	ばか苗病	並		そうか病	やや多
	いもち病	並		黒点病	やや多
	ヒメトビウンカ	並		灰色かび病	やや多
	縞葉枯病	やや少		ミカンハダニ	並
	ツマグロヨコバイ	やや多		ヤノネカイガラムシ	やや少
	イネミズゾウムシ	並		チャノキイロアザミウマ	やや少
タマネギ	灰色かび病	並	カキ	うどんこ病	やや少
	べと病	やや多		円星落葉病	並
				角斑落葉病	並
キュウリ	べと病	並	モモ	せん孔細菌病	並
	うどんこ病	並		カイガラムシ類	やや少
	褐斑病	やや少	キウイフルーツ	かいよう病	並
野菜全般	アブラムシ類	並	果樹全般	カメムシ類	やや少
	ハダニ類	並			
	アザミウマ類	並			

気象予報

近畿地方 1か月予報（04/22～05/21）

2023年04月20日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		なし。
向こう1か月 04/22～05/21	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、低い確率50%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 04/22～04/28	気温	1週目は、低い確率70%です。
2週目 04/29～05/05	気温	2週目は、平年並の確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



I. 水 稲

1. もみ枯細菌病による苗腐敗症

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるもみ枯細菌病の本田での発生面積率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病ほ場から採種した種子は使用しない。

② 種子消毒を行う。

2. ばか苗病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年の県内全域におけるばか苗病の本田での発生面積率は4%（平年2%）であった。

② 種子消毒に用いる薬剤の効果は安定している。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① もみ枯細菌病による苗腐敗症に準じる。

3. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

4. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生時期 早 発生量 並
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 4月中旬の休閑田における捕虫網20回振りすくい取り調査では、和歌山市で3.0頭（平年10.9頭）、紀の川市で6.5頭（平年8.8頭）、かつらぎ町で4.0頭（平年3.5頭）であった。

② 越冬世代の50%成虫化時期は、紀の川市で3月9日以前（平年3月18日）であった。

③ 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市1.7%（平年5.8%）、かつらぎ町1.2%（平年6.9%）であった。

④ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 4月中旬の休閑田における20回振りすくい取り調査による平均生息数は、和歌山市81.5頭（平年12.1頭）、紀の川市で10.0頭（平年5.8頭）、かつらぎ町で21.3頭（平年39.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。

6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による4月1～20日の誘殺数は、上富田町で1頭（平成3.7頭）、那智勝浦町で0頭（平成0.4頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時に育苗箱施薬剤を施用する。
② 5月中旬までに田植えする地域のうち、多発地ではさらに田植え3～4週後に薬剤を処理する。
③ イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を超える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

II. 野 菜

<タマネギ>

1. 灰色かび病（白斑葉枯病）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くする。
② 発病葉や収穫後の残さは、ほ場から速やかに持ち出して適切に処分する。

2. べと病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部での4月中旬の二次感染株の発生ほ場率は40%（平成31%）、発病株率は0.3%（平成1.5%）であった。

- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場をこまめに見回り、発病葉を出来るだけ除去する。除去した発病葉は袋に入れ、ほ場の外に持ち出して適切に処分する。また、収穫後の残さに発病葉がある場合は、すき込むと翌年の発生源となるため、集めてほ場の外に持ち出して適切に処分する。
② 二次感染株を確認した場合は、早急に薬剤散布を行う。発生が認められないほ場においても、胞子の飛散による発病拡大を防ぐため予防散布を徹底する。
③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。
④ 排水を良好にし、降雨による浸冠水や停滞水をなくす。
⑤ 令和4年度病害虫防除技術情報第5号（令和5年3月20日発表）を参照する。

<キュウリ>

1. ベと病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は30%（平成29%）、発病葉率は2.3%（平成3.0%）であった。
 - ② 県中部での4月下旬の発生ほ場率は46%（平成43%）、発病葉率は18.5%（平成12.2%）であった。
 - ③ 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
 - ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は10%（平成1%）発病葉率0.1%（平成0.02%）であった。
 - ② 県中部での4月下旬の発生ほ場率は54%（平成75%）、発病葉率は10.2%（平成18.7%）であった。
 - ③ 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
 - ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。
 - ③ 薬剤の感受性低下を防ぐため、同一系統の薬剤は連用しない。

3. 褐斑病

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部での4月中旬の発生ほ場率は10%（平成4%）、発病葉率0.2%（平成0.1%）であった。
 - ② 県中部での4月下旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均：発生ほ場率45%、発病葉率10.7%）であった。
 - ③ 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
 - ② 発病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。
 - ③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける4月中旬の発生株率は、モモアカアブラムシ0.6%（平成6.5%）、ニセダイコンアブラムシ0%（平成0.3%）であった。
 - ② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月下旬のワタアブラムシの発生ほ場率は0%（過去9年の平均16%）であった。
 - ③ 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬のワタアブラ

ムシの発生ほ場率は62%（過去8年の平均41%）であった。

④ 黄色水盤（紀の川市）への4月1～20日までの飛来数は、25頭（平均100.6頭）であった。

⑤ 5月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 県北部のイチゴにおける4月中旬のナミハダニは発生ほ場率10%（平均48%）、生息葉率1.0%（平均19.0%）、カンザワハダニは発生ほ場率10%（平均16%）、生息葉率7.5%（平均3.0%）であった。

② 県中部の施設およびトンネル栽培スイカにおける4月中旬の発生ほ場率は77%（過去8年の平均68%）、1葉当たりの生息密度は0.8頭（過去8年の平均0.1頭）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① ハダニ類はほ場の周辺から侵入するので、外縁部の株において早期発見に努め、初期防除を行う。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

3. アザミウマ類

（1）予報内容 発生量 並

（2）予報の根拠

① 県北部のイチゴにおける4月中旬のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率10%（過去7年の平均56%）、1花当たり生息密度0.7頭（過去7年の平均0.7頭）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率0%（平均：発生ほ場率10%、1花当たりの生息密度0.1頭）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける4月下旬のミナミキイロアザミウマは発生ほ場率20%（過去9年の平均36%）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率20%（過去9年の平均4%）であった。

（3）防除上考慮すべき諸点

① 生息密度の低い時期から薬剤防除を行う。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. かいよう病

（1）予報内容 発生時期 やや早い（初発日の平均5月23日）
発生量 やや多

（2）予報の根拠

① 予察ほ場（有田川町奥）における「宮川早生」の展葉期は4月17日（平均4月21日）であった。

② 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は15.3%（平均9.5%）であった。

③ 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は19%（平均19%）、発病葉率は0.5%（平均0.5%）であった。

④ 5月の気象予報による。

（3）防除上考慮すべき諸点

年 0.4%) であった。

② 予察式によると、第 1 世代 1 齢幼虫初発日は 5 月 2 日 (実測値の平年 5 月 13 日) と予想される。

③ 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第 1 世代 1 齢幼虫初発日から約 40 日後の 2 齢幼虫最盛期が防除適期である。

7. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場 (無防除) における黄色粘着トラップによる 4 月 1 ~ 20 日の誘殺数は由良町 1 頭 (平年 9.4 頭)、有田川町 1 頭 (過去 9 年の平均 2.3 頭) であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

<カ キ>

1. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 前年 10 月の「富有」の発生ほ場率は 65% (平年 79%)、発病葉率は 10.0% (平年 19.1%) であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散最盛期は 4 月下旬 ~ 5 月上旬であり、この時期に水和硫黄剤を散布する。前年多発したほ場では、この時期の防除を徹底する。

② 4 ~ 5 月に降水量が少なく、乾燥気味に経過すると発病が助長される。

③ 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、薬液は葉裏をねらって丁寧に散布する。

2. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年 10 月の「富有」における発生ほ場率は 41% (平年 38%)、発病葉率は 6.1% (平年 3.5%) であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 子のう胞子飛散は、5 月上中旬から始まり、5 月下旬 ~ 7 月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。

② 薬剤防除は 5 月から 8 月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 前年 10 月の「富有」における発生ほ場率は 82% (平年 65%)、発病葉率は 13.9% (平年 10.4%) であった。

② 5 月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
- ② 薬剤防除は円星落葉病に準ずる。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月1～20日の誘殺数は1頭（平年3.8頭）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期～落弁期に防除する。
- ② 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（平年14%）、発病葉率は0%（平年0.4%）、発病枝の発生ほ場率は0%（平年24%）、発病枝率は0%（平年1.2%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 春型越冬病斑形成枝は葉への伝染源となるので剪除する。
- ② 果実発病は5月以降の風雨により多くなるので、降雨直前の予防散布を徹底する。予防散布ができなかった場合、降雨後できるだけ早く薬剤散布を行う。
- ③ 本病の防除薬剤のうち、マイコシールドは連用すると葉先の黄化を生じることがあるので注意する。

2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の4月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ雌成虫・クワシロカイガラムシ雌成虫・ナシマルカイガラムシ幼虫）の寄生枝の発生ほ場率は0%（平年24%）、寄生枝率は0%（平年1.0%）であった。
- ② 5月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 樹体生育期における防除適期は、第1世代のふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期の少し後に薬剤散布を実施する。
- ② 県北部のクワシロカイガラムシのふ化幼虫発生盛期は5月3日前後と予想している。

<キウイフルーツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における4月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（過去4年の平均

- 0%)であった。
- ② 5月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。
- ② 作業に使用した器具類(ハサミ、ノコギリ等)は70%エタノールで消毒する。
- ③ 風当たりの強いほ場では、防風対策を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県内47地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫の捕獲頭数は落葉50リットル当たり0.0頭(前年0.3頭、平年0.5頭)、捕獲地点率は2.1%(前年21.7%、平年21.1%)であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生及び被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメ・モモなどでは、収穫前に越冬成虫の飛来が確認された場合は速やかに薬剤による防除を実施する。
- ③ ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。
- ④ カンキツでは蕾、花が加害されるので、被害が認められた場合は薬剤による防除を行う。
- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所(紀の川市、農業試験場内)

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在(有田川町、果樹試験場内)

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在(紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内)

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在(みなべ町、果樹試験場うめ研究所内)

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第3号（6月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

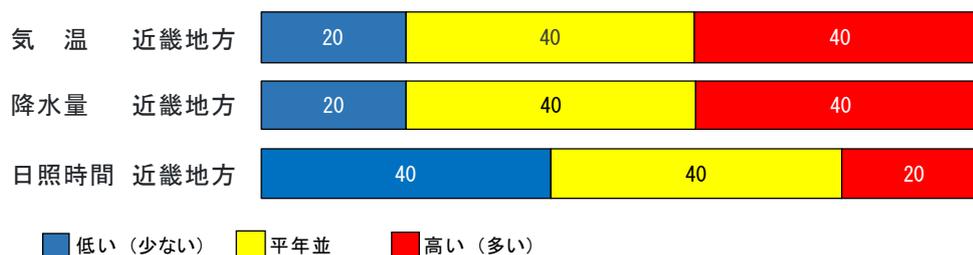
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並	カンキツ	黒点病	やや多
	ヒメトビウンカ	並		かいよう病	やや多
	縞葉枯病	やや少		ミカンハダニ	やや多
	ツマグロヨコバイ	並		ヤノネカイガラムシ	やや少
	セジロウンカ	並		チャノキイロアザミウマ	やや少
	トビイロウンカ	並		アブラムシ類	並
ウリ科野菜	イネミズゾウムシ	並	カキ	うどんこ病	やや多
	モザイク病	並		円星落葉病	並
	べと病	並		角斑落葉病	並
	褐斑病	やや少		カキクダアザミウマ	並
	うどんこ病	並	チャノキイロアザミウマ	並	
	疫病	並	フジコナカイガラムシ	並	
野菜全般	つる枯病	並	モモ	せん孔細菌病	並
	炭疽病	並	カイガラムシ類	やや多	
	アブラムシ類	並	キウイフルーツ	かいよう病	並
	ハダニ類	並		果樹全般	カメムシ類
	ミナミキイロアザミウマ	並			
	ミカンキイロアザミウマ	並			
シロイチモジヨトウ	並				

気象予報

近畿地方 1か月予報（05/27～06/26）

2023年05月25日14時30分 大阪管区気象台 発表		
向こう1か月 05/27～06/26	天候	期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 05/27～06/02	気温	1週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



I. 水 稲

1. いもち病（苗いもち、葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続く条件で発生しやすい。

② 県南部の早植え地域の常発地では気象条件に注意し、発生を認めたら直ちに薬剤防除を行う。

③ 県北部、県中部の普通期栽培地域では、「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」などの罹病性品種を作付けする場合には育苗箱施薬剤を施用する。

④ 田植え後の余り苗を水田に放置しない。

2. ヒメトビウンカおよび縞葉枯病

(1) 予報内容 ヒメトビウンカ 発生量 並
縞葉枯病 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市、上富田町および那智勝浦町でいずれも0頭（平年：紀の川市0頭、上富田町0頭、那智勝浦町0.2頭）であった。

② 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市1.7%（平年5.8%）、かつらぎ町1.2%（平年6.9%）であった。

③ 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年6%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① イネ苗へのヒメトビウンカの飛来を防ぐため、雑草地付近での育苗を避ける。

② 田植え時はヒメトビウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

③ 第2世代成虫は6月中旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は6月下旬頃と考えられることから、前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、この時期の幼虫を対象に追加防除を行う。

3. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、上富田町1頭（平年0.2頭）および那智勝浦町0頭（平年0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にツマグロヨコバイに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

4. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町、那智勝浦町）への飛来は認められていない（5月1～20日の誘殺数の平均：紀の川市0.1頭、上富田町0.3頭、那智勝浦町0.6頭。初飛来の平年：5月23日）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 田植え時にセジロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。

② フィプロニル剤に対する感受性低下が報告されている。

5. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生時期 並 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 5月20日現在、県内の予察灯（紀の川市、上富田町、那智勝浦町）への飛来は認められていない（5月1～20日の誘殺数の平均：紀の川市0頭、上富田町0.1頭、那智勝浦町0頭。初飛来の平年：6月23日）。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 田植え時にトビイロウンカに効果がある育苗箱施薬剤を施用する。
- ② イミダクロプリド剤、クロチアニジン剤、チアメトキサム剤に対する感受性低下が報告されている。

6. イネミズゾウムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察灯による5月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、上富田町12頭（平年25.1頭）、那智勝浦町25頭（平年15.0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① イネミズゾウムシに効果がある育苗箱施薬剤を施用していないほ場で、田植え3～7日後に成虫による食害株率が30%あるいは成虫が1株あたり0.5頭を超える場合は、直ちに薬剤防除を実施する。

※ 水稻害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

II. 野 菜

<ウリ科野菜>

1. モザイク病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：キュウリ1%、スイカ0%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリおよび露地栽培スイカにおける5月中下旬の発生ほ場率はいずれも0%（平年：いずれも0%）であった。
- ③ アブラムシ類の発生は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① アブラムシ類の防除を行う。

2. ベと病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は60%（平年42%）、発病葉率は3.1%（平年5.3%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は83%（平年59%）、発病葉率は14.6%（平年14.7%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 薬剤防除は予防散布を重点に、薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. 褐斑病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は10%（平成6%）、発病葉率0.2%（平成0.2%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は0%（過去7年の平均：発生ほ場率48%、発病葉率11.7%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培では換気を十分に行い、湿度低下を図る。
- ② 罹病葉や収穫後の残さは速やかに処分する。
- ③ 資材に付着した病原菌の胞子が伝染源になるので、支柱等再利用する資材は栽培終了後に消毒する。ネットやマルチ等は更新する。

4. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培キュウリにおける5月中旬の発生ほ場率は20%（平成17%）、発病葉率は0.6%（平成1.2%）であった。
- ② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は50%（平成85%）、発病葉率は11.9%（平成25.7%）であった。
- ③ 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ④ 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ⑤ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 施設栽培やトンネル栽培では風通しを良くし、薬剤防除は薬液が葉裏にも十分かかるよう丁寧に散布する。

5. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤防除は予防散布を重点に、6月上旬頃から定期的に行う。
- ② ほ場の排水を良くし、マルチ、敷わらを行う。

6. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。

- ③ 6月の気象予報による。
(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨期の降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

7. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率7%、発病葉率0.6%）であった。
③ 6月の気象予報による。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

① 6月以降の露地条件で降雨が続くと、病斑上の孢子が雨滴などで飛散するため被害が拡大しやすい。降雨前の予防散布に努める。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率3%、生息葉率0.2%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は75%（平成61%）、生息葉率は3.8%（平成5.5%）であった。
③ 黄色水盤（紀の川市）の5月1～20日の飛来数は77頭（平成186頭）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率11%、生息葉率1.3%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は63%（平成65%）、生息葉率は12.3%（平成8.9%）、ナミハダニの発生ほ場率は13%（平成16%）、生息葉率は1.9%（平成2.9%）であった。

- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率24%、生息葉率6.2%）であった。

② 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は55%（過去9年の平均47.2%）、生息葉率は4.7%（過去9年の平均4.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生の多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉して死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の施設栽培ナスにおける5月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率5%、生息葉率0.6%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は6%（平年1%）、生息葉率は0.1%（平年0.0%）であった。
- ③ 県中部の施設栽培キュウリにおける5月下旬の発生ほ場率は18%（過去9年の平均17%）、生息葉率は7.7%（過去9年の平均2.3%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培スイカにおける5月中旬の発生ほ場率は13%（平年3%）、生息葉率は0.1%（平年0.1%）であった。
- ② フェロモントラップによる5月1～20日の誘殺数は、紀の川市10頭（平年3.5頭）、御坊市33頭（平年27.7頭）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
- ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉の芯部に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。
- ③ 施設栽培では、栽培終了後に20日程度施設を密閉して死滅させ、後作の発生源にならないようにする。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 5月下旬までに薬剤散布を実施していないほ場では早急（6月上旬）に防除を行う。
- ② マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、散布後の累積降水量が200～250mmとなった時点または1か月を経過した時点のどちらかの早いタイ

ミングで次の散布を行う。

- ③ 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

2. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における春葉の越冬病斑の発病葉率は15.3%（平成9.5%）であった。

② 前年10月中旬の県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における春葉発病の発生ほ場率は19%（平成19%）、発病葉率は0.5%（平成0.5%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬害対策を講じた上で銅水和剤の予防散布を行う。

② 罹病枝葉の剪除と防風垣や防風ネットの整備に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場における5月中旬の100葉あたりの雌成虫数は、無防除区29頭（平成29.2頭、多発年であった令和元年を除いた過去9年の平均6.7頭）、マシン油乳剤を散布している慣行防除区0頭（平成0.6頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性対策としてマシン油乳剤の散布を励行する。マシン油乳剤の散布は発生初期に行うと高い防除効果が得られる。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生時期 早い

第1世代1齢幼虫最盛期 5月18～22日

同 2齢幼虫最盛期 6月9～18日

同 雌成虫初発日 6月12～16日

発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における第1世代1齢幼虫の初発は5月5日（平成5月13日）であった。

② 前年10月中旬の発生ほ場率は2%（平成6%）、寄生果率は0.1%（平成0.4%）であった。

③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多発ほ場では、2齢幼虫最盛期にネオニコチノイド系や有機リン系等の殺虫剤を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる5月1～20日の誘殺数は由良町27頭（平成32.6頭）、有田川町7頭（過去9年の平均13.6頭）であった。

② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生活長調査の結果を参考にするとともにほ場内の観察に努め、適期に薬剤散布を行う。
- ② 防風樹のイヌマキやサンゴジュの近くでは発生が多くなるので、特に丁寧に薬剤防除を行う。

6. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（無防除、有田川町奥）における5月中旬の発生新梢率は2.0%（過去9年の平均1.6%）であった。
 - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 各ほ場で発生状況を観察し、適期防除に努める。

<カ キ>

1. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は41%（平年14%）、発病葉率は1.1%（平年0.4%）であった。
 - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 伝染源となる病斑上の分生子は、6月以降活発に形成され伝染を繰り返す。病原菌は葉裏の気孔から侵入するため、薬剤防除にあたっては葉裏にも丁寧に薬液を散布する。

2. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は41%（平年38%）、発病葉率は6.1%（平年3.5%）であった。
 - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。
 - ② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

3. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は82%（平年65%）、発病葉率は13.9%（平年10.4%）であった。
 - ② 6月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
 - ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

4. カキクダアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の発生ほ場率は0%（平成1%）であった。
- ② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月21日～5月20日の誘殺数は0頭（平成2.0頭）であった。
- ③ 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期は新成虫飛来期の6月上中旬である。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における黄色粘着トラップによる4月21日～5月20日の誘殺数は1頭（平成3.3頭）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期は新成虫飛来期の6月中下旬である。

6. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の「富有」での発生ほ場率は0%（平成12%）、寄生花蕾率は0%（平成0.5%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期であるふ化幼虫発生盛期の6月上中旬に薬剤を散布する。多発ほ場では特に丁寧な散布を心がける。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の発生ほ場率は50%（平成72%）、発病葉率は1.2%（平成3.0%）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防風ネット、防風樹の設置などの防風対策を励行する。

2. カイガラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ・クワシロカイガラムシ・ナシマルカイガラムシ）の寄生枝の発生ほ場率は20%（平成4%）、寄生枝率は0.8%（平成0.2%）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 防除適期であるふ化幼虫発生盛期に薬剤を散布する。多発ほ場では特に丁寧な散布を心がける。
- ② 近年の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月1～5日頃、クワシロカイガラムシが7月11～15日頃、ナシマルカイガラムシが7月21日～8月5日頃である。ほ場の主な発生種に合わせて薬剤散布を行う。

<キウイフルーツ>

1. かいよう病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における5月中旬の発病葉の発生ほ場率は0%（過去4年の平均0%）であった。
- ② 6月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 新梢の萎れ・黒変や樹液の漏出がみられる枝は、前年枝の基部から切除する。
- ② 作業に使用した器具類（ハサミ、ノコギリ等）は70%エタノールで消毒する。
- ③ 風当たりの強いほ場では、防風対策を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが6頭（前年30頭、平年156頭）、ツヤアオカメムシが8頭（前年53頭、平年95頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが1頭（前年3頭、過去9年の平均104頭）、ツヤアオカメムシが4頭（前年56頭、過去9年の平均320頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯における5月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが55頭（前年6頭、平年229頭）、ツヤアオカメムシが71頭（前年440頭、平年1,610頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量はほ場間差が大きいので、ほ場内での発生および被害状況を観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ② ウメの被害は品種間差が大きい。小梅類等の収穫の早い品種で集中して加害される傾向があるので、これらの品種では特に注意が必要である。スモモでは山林に隣接するほ場でカメムシ類の飛来する時期が早いので、このようなほ場では特に注意が必要である。
- ③ 今後の発生動向については、農業・環境鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

[https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/
boujyosyo-yosatsujoyouhou.html](https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujoyouhou.html)

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第4号（7月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

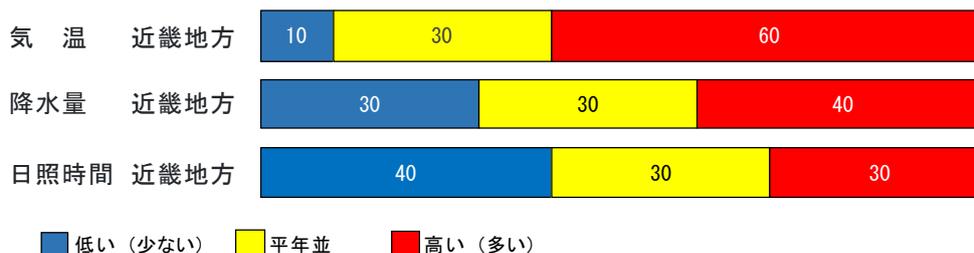
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並並 やや少	野菜全般	ミナミキイロアザミウマ	やや少 並
	紋枯病			ミカンキイロアザミウマ	
	縞葉枯病		シロイチモジヨトウ	やや少	
	ヒメトビウンカ		カンキツ		黒点病
ツマグロヨコバイ	かいよう病				
セジロウンカ	ミカンハダニ				
トビイロウンカ	ヤノネカイガラムシ				
ウリ科野菜	疫病	並並 並多	カキ	チャノキイロアザミウマ	やや少 並
	うどんこ病			炭疽病	
	つる枯病			うどんこ病	
ナス科野菜	炭疽病	並	カキ	円星落葉病	やや多 やや多 少
	疫病			角斑落葉病	
野菜全般	アブラムシ類	県北部 並 県中部 多 並	モモ	せん孔細菌病	並 やや多
	ハダニ類			カイガラムシ類	
				果樹全般	カメムシ類

気象予報

近畿地方 1か月予報（06/24～07/23）

2023年06月22日14時30分 大阪管区气象台 発表		
向こう1か月 06/24～07/23	天候	平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。
1週目 06/24～06/30	気温	1週目は、高い確率60%です。
2週目 07/01～07/07	気温	2週目は、高い確率50%です。
3～4週目 07/08～07/21	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



I. 水 稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0.8%）であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 低温、日照不足、長雨が続くと発生しやすい。

② 補植用苗は葉いもちの発生源となるので、早急に処分する。

③ 常発地や罹病性品種（「コシヒカリ」、「キヌヒカリ」等）の栽培ほ場では初発時期に注意し、発生がみられたら直ちに薬剤防除を行う。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における前年9月上旬の発病株率は7.7%（平年15.5%）であった。

③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 梅雨明け後の高温期から病勢が急激に進展するので、常発地や前年の多発ほ場では幼穂形成期～穂ばらみ期の防除を徹底する。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の発病株率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の本田における前年のイネ縞葉枯病の発生面積率は0%（平年5%）であった。

③ 県北部におけるヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は、和歌山市1.7%（平年5.8%）、かつらぎ町1.2%（平年6.9%）であった。

④ ヒメトビウンカの7月の発生量は平年並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ヒメトビウンカの防除を行う。本虫の第2世代成虫は6月下旬頃に水田に飛来し、第3世代幼虫の発生最盛期は7月上旬頃と考えられる。前年に縞葉枯病の発生が認められた地域では、幼虫を対象にこの時期の追加防除を行う。

4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平年0.2頭）であった。

② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市2頭（平年1.2頭）、上富田町0頭（平年0.4頭）、那智勝浦町0頭（平年1.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、縞葉枯病の発生が認められる地域以外は7月の防除は必要ない。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は1.0頭（平成0.5頭）であった。
- ② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市64頭（平成5.5頭）、上富田町0頭（平成1.2頭）、那智勝浦町1頭（平成9.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 育苗箱施薬剤を施用した6月田植えのほ場では、7月の防除は必要ない。

6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平成0.4頭）であった。
- ② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成2.7頭）、上富田町1頭（平成3.6頭）、那智勝浦町12頭（平成9.8頭）であった。
- ③ 予察灯への初飛来は、那智勝浦町6月10日（平成6月4日）、上富田町6月11日（平成6月9日）であった。紀の川市（平成6月21日）では6月20日現在、飛来を認めていない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ツマグロヨコバイに準ずる。

7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり生息密度は0頭（平成0頭）であった。
- ② 予察灯による6月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成0頭）、上富田町0頭（平成0.3頭）、那智勝浦町0頭（平成0.4頭）であった。
- ③ 予察灯への初飛来は、紀の川市（平成7月13日）、上富田町（平成6月29日）、那智勝浦町（平成6月29日）とも6月20日現在、飛来を認めていない。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生ほ場では、出穂前の防除に努める。本虫は株元に多く生息するので、薬剤が株元に届くように散布する。

8. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における6月中旬の25株あたり被害葉数は0葉（平成0葉）であった。
- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による6月1～20日の誘殺数は0頭（平成0頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 第1世代の発蛾最盛期は平成7月下旬頃である。防除適期は、粒剤の場

合は第1世代の発蛾最盛期、その他の薬剤（乳剤、水溶剤、フロアブル等）の場合は第2世代幼虫発生時期（第1世代の発蛾最盛期の7日後）である。

- ② 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

※ 水稲害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

Ⅱ. 野 菜

<ウリ科野菜>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は6%（平成1%）、発病葉率0.1%（平成0.0%）であった。
- ③ 県北部の施設栽培キュウリにおける6月中旬の発生ほ場率は10%（平成28%）、発病葉率0.4%（3.3%）であった。
- ④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

3. つる枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率9%、発病葉率2.0%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 降雨にともない株元から発病するので、薬剤散布にあたっては薬液が株元にも十分かかるように行う。

4. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は17%（平成30年：17%）、発病葉率1.1%（平成30年：0.3%）であった。
- ② 県中部の露地栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は83%（平成30年：13%）、発病葉率8.3%（平成30年：1.6%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病した茎葉や果実は、ほ場外に持ち出す。
- ② 降雨日が連続すると多発する可能性があるため、長雨が予想される場合は予防散布を実施する。
- ③ 令和5年度病害虫発生予察注意報第1号（令和5年6月20日発表）を参照する。

<ナス科野菜>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（過去9年の平均0%）であった。
- ② 県中部の露地栽培ミニトマトにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成30年：発生ほ場率4%、発病株率0.5%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 梅雨末期の多雨で急激に病勢が進展するため、降雨前の予防散布に努める。予防散布ができなかった場合は降雨後に早急に防除する。
- ② ほ場の排水を良くし、冠水や滞水を防ぐ。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 県北部 並
県中部 多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の生息葉率は、モモアカアブラムシ3.4%（平成30年：0.1%）、ワタアブラムシ0.3%（平成30年：0.9%）であった。
- ② 県中部の露地および施設栽培スイカにおける6月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は88%（平成30年：74%）、生息葉率は17.5%（平成30年：7.4%）であった。
- ③ 黄色水盤（紀の川市）による6月1～20日の誘殺数は106頭（平成30年：110.5頭）であった。
- ④ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ29%（平成31%）、ナミハダニ0%（平成7%）であった。
- ② 県中部の露地および施設栽培スイカにおける6月中旬の発生ほ場率は、カンザワハダニ53%（平成43%）、ナミハダニ6%（平成12%）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。
- ② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率23%、生息葉率6.8%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。
- ② 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源にならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部の露地栽培ナスにおける6月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率8%、生息葉率1.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地および施設栽培スイカにおける6月中旬の被害果率は0.2%（平成4.8%）であった。
- ② フェロモントラップによる6月1～20日の誘殺数は、紀の川市4頭（平成17.0頭）、御坊市18頭（平成51.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 若齢幼虫を対象に初期防除に努める。
- ② 幼虫は作物の生長点付近の未展開葉に潜入するので、薬剤による防除効果が上がりにくい。初期は局部的に発生するので、管理作業時に見つけしだい捕殺する。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は25%（平年11%）、発病果率は2.1%（平年1.5%）であった。
- ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① マンゼブ剤またはマンネブ剤を用いる場合、散布後の累積降水量が200～250mmとなった時点または1か月を経過した時点のどちらかの早いタイミングで次の散布を行う。
 - ② 過乾燥等で樹勢が衰弱すると伝染源の枯れ枝が増えるおそれがあるため、かん水等の栽培管理を適切に行う。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の春葉での発生ほ場率は18%（平年21%）、発病葉率は0.2%（平年0.8%）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 罹病枝葉は果実への伝染源になるので剪除する。
 - ② ミカンハモグリガの食害痕は病原菌の侵入口となるため本害虫の防除を徹底する。
 - ③ 罹病性品種では強風雨前に銅水和剤の予防散布を徹底する（薬害軽減のための措置を講じる）。
 - ④ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は38%（平年33%）、発生葉率は12.9%（平年12.2%）、100葉あたり雌成虫数は38.8頭（平年42.2頭）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤を年間に2回以上使用しない。
 - ② 薬剤抵抗性対策として97%・98%マシン油乳剤の散布を励行する。ただし、高温強日射時の散布は薬害が発生しやすいうえ、7月中旬以降の散布は果実品質を低下させるおそれがあるので、散布は7月上旬までとする。

4. ヤノネカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 6月下旬に防除できなかつた発生ほ場では、7月上旬に97%・98%マシン油乳剤を散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）、寄生果率は0%（平年0.1%）であった。
- ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる6月1～20日の誘殺数は、由良町82頭（平年325頭）、有田川町29頭（過去9年の平均134頭）であった。
- ③ 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における6月中旬の発生ほ場率は3%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 成虫の捕殺に努めるとともに、薬剤を散布する。
- ② 発生の多いほ場では、7月中旬以降に成虫の産卵防止および幼虫対象の防除として薬剤を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における6月中旬の発病新梢率は「富有」0%（平年0.0%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。
- ② 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかる。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」38%（平年47%）、「平核無」・「刀根早生」24%（平年15%）であった。発病葉率は「富有」1.1%（平年2.4%）、「平核無」・「刀根早生」0.5%（平年0.5%）であった。
- ② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に散布する。
- ② 盛夏期には一時病勢は停滞するが、好適な気象条件やほ場条件で秋季まで二次伝染を繰り返すので、二次伝染の防止に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は41%（平年38%）、発病葉率は6.1%（平年3.5%）であった。

- ② 県北部では感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。
- ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 子のう胞子飛散は、5月上中旬から始まり、5月下旬～7月中旬の降雨後に多い。二次感染はしない。
 - ② 薬剤防除は、5月から8月までマンゼブ水和剤、マンネブ水和剤、有機銅水和剤等を定期的に予防散布する。

4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 前年10月の「富有」における発生ほ場率は82%（平年65%）、発病葉率は13.9%（平年10.4%）であった。
 - ② 県北部では感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。
 - ③ 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 分生子による感染は5月上中旬から始まり、7月中下旬まで続く。二次感染を繰り返す。
 - ② 薬剤防除は、円星落葉病に準ずる。

5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における6月中旬の発生ほ場率は「富有」0%（平年21%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年4%）であった。寄生果率は「富有」0%（平年1.1%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0.1%）であった。
 - ② 7月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期である。
 - ② 予察ほ場（無防除、紀の川市粉河）における近年の第2世代ふ化幼虫の初発は7月下旬頃であり、回目の防除適期は8月上旬頃と思われる。

<モ モ>

1. せん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における6月中旬の発病葉の発生ほ場率は90%（平年78%）であった。発病葉率は4.6%（平年5.4%）、発病果率は1.0%（平年5.4%）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 防風対策に取り組む。防風ネット、防風樹設置ほ場では保守点検を行う。
 - ② 翌年の伝染源軽減のため、秋季に無機銅水和剤を散布する。

2. カイガラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における6月中旬のカイガラムシ類（ウメシロカイガラムシ・ク

ワシロカイガラムシ・ナシマルカイガラムシ)の寄生枝の発生ほ場率は10% (平年5%)、寄生枝率は0.8% (平年0.2%)であった。

② 7月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹体生育期における防除適期は、ふ化幼虫発生時期であるため、ふ化幼虫発生盛期から1週間以内に薬剤散布を実施する。

② 県北部の第2世代ふ化幼虫発生盛期は、ウメシロカイガラムシが7月7日前後、クワシロカイガラムシが7月9日前後と予想される。ナシマルカイガラムシは、7月21日～8月5日頃である。ほ場の主な発生種に合わせて薬剤散布を行う。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが17頭(前年305頭、平年141頭)、ツヤアオカメムシが16頭(前年640頭、平年266頭)であった。

② 有田川町奥の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが2頭(前年33頭、過去8年の平均58頭)、ツヤアオカメムシが2頭(前年295頭、過去8年の平均146頭)であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯での6月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが121頭(前年300頭、平年381頭)、ツヤアオカメムシが302頭(前年3508頭、平年1295頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場内への多飛来を確認したら早急に薬剤散布を行う。

② 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病害虫防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所(紀の川市、農業試験場内)

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在(有田川町、果樹試験場内)

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在(紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内)

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在(みなべ町、果樹試験場うめ研究所内)

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第5号（8月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

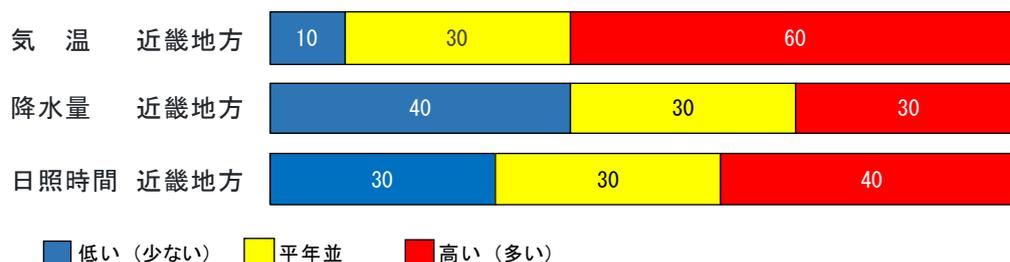
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並	野菜全般	ハスモンヨトウ	並
	紋枯病	やや多		シロイチモジヨトウ	並
	縞葉枯病	並	カンキツ	黒点病	やや多
	ヒメトビウンカ	並		かいよう病	やや少
	ツマグロヨコバイ	並		ミカンハダニ	やや多
	セジロウンカ	並		ヤノネカイガラムシ	並
	トビイロウンカ	並		チャノキイロアザミウマ	並
	イチモンジセセリ	並		ゴマダラカミキリ	並
コブノメイガ	並	カキ	炭疽病	並	
斑点米カメムシ類	並		うどんこ病	並	
トマト・ミニトマト	疫病		並	円星落葉病	やや多
	黄化葉巻病		やや多	角斑落葉病	やや多
野菜全般	アブラムシ類	並	フジコナカイガラムシ	並	
			ハダニ類	やや少	果樹全般
	ミナミキイロアザミウマ				
ミカンキイロアザミウマ	並				

気象予報

近畿地方 1か月予報（07/22～08/21）

2023年07月20日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。
向こう1か月 07/22～08/21	天候	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。
1週目 07/22～07/28	気温	1週目は、平年並の確率50%です。
2週目 07/29～08/04	気温	2週目は、高い確率60%です。
3～4週目 08/05～08/18	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



I. 水 稲

1. いもち病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の葉いもちの発生ほ場率は17%（平年27%）、発病株率は6.0%（平年5.4%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の葉いもちの発生ほ場率は8%（平年21%）、発病株率は0.7%（平年4.2%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 穂ばらみ期防除を重点とし、葉いもちの多発ほ場では穂ぞろい期に追加防除を行う。

② 常発地では翌年から罹病性品種の作付けを避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は17%（平年5%）、発病株率は0.7%（平年0.3%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率2%、発病株率0.2%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 穂ばらみ期に発病株率が20%以上のほ場では、早急に薬剤防除を行う。

② 出穂後も上位葉への進展がみられる場合には追加防除を行う。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県南部（田辺市以南）の早期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 県北部および中部の普通期栽培における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率3%、発病株率0.1%）であった。

③ 媒介虫であるヒメトビウンカの8月の発生量は並と予想される。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病の発生が多いほ場では、ヒメトビウンカの防除を行う。

4. ヒメトビウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平年7.5頭）、県北部および中部の普通期栽培では0.1頭（平年11.7頭）であった。

② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市11頭（平年2.3頭）、上富田町1頭（平年1.0頭）、那智勝浦町0頭（平年8.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 縞葉枯病の発生が多いほ場では、本虫の防除を行う。

5. ツマグロヨコバイ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平成2.1頭）、県北部および中部の普通期栽培では0.8頭（平成1.5頭）であった。
- ② 予察灯による7月1～20日の誘殺数は、紀の川市18頭（平成2.4頭）、上富田町4頭（平成19.0頭）、那智勝浦町51頭（平成192.0頭）であった。

6. セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では3.2頭（平成26.1頭）、県北部および中部の普通期栽培では0.6頭（平成15.8頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市28頭（平成18.0頭）、上富田町22頭（平成70.9頭）、那智勝浦町45頭（平成63.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 穂ばらみ期に株あたり成幼虫10頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

7. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり生息密度は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0頭（平成0.1頭）、県北部および中部の普通期栽培では0頭（平成0.2頭）であった。
- ② 予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平成2.3頭）、上富田町1頭（平成17.9頭）、那智勝浦町1頭（平成22.5頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月中旬の発生に注意し、株あたり成幼虫5頭以上の発生を認めた場合は薬剤散布を行う。

8. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたりツト数は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0.2（平成0.1）、県北部および中部の普通期栽培では0（平成0.0）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月上旬の発生に注意し、若齢幼虫の防除に重点を置く。

9. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 7月中旬の25株あたり上位2葉の被害は、県南部（田辺市以南）の早期栽培では0.3葉（平成1.3葉）、県北部および中部の普通期栽培では0葉（平成0.2葉）であった。
- ② 蛍光灯誘殺箱（紀の川市）による6月1日～7月20日の誘殺数は0頭（平成1.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼穂形成期後、出穂期頃までに上位2葉の被害葉率が40%になると10%程度減収する。それ以降の被害は被害葉率80%以上でも収量・品質に及ぼす影響は小さいので、県南部の早期栽培では防除の必要性は低い。

10. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県南部(田辺市以南)の早期栽培の本田における7月中旬の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は2.3頭(平成4.0頭)であった。
② 予察灯による7月1~20日の誘殺数は、紀の川市43頭(過去7年の平均85.3頭)、上富田町17頭(平成28.2頭)、那智勝浦町390頭(平成98.3頭)であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 出穂の早い作型で、周辺に雑草が繁茂していると被害を受けやすい。
② イネ科雑草が発生源となる。本田への成虫の飛来を防ぐためには、出穂10日前までにはほ場周辺を除草する。
③ 出穂後、本田内で大型のカメムシ類の飛来を認めたら、乳熟期(出穂10日後)から糊熟期(出穂20日後)に薬剤を散布する。カスミカメムシ類の発生が多い場合は穂ぞろい期(出穂3日後)に薬剤散布する。

※ 水稻害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稲害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

II. 野 菜

<トマト・ミニトマト>

1. 疫病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は0%(平成5%)であった。
② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 排水を良くし、株元に滞水しないようにする。
② 露地栽培では、降雨前の予防散布に努める。降雨前に散布できなかった場合は降雨後に早急に防除する。

2. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける7月下旬の発生ほ場率は71%(平成32%)であった。
② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
② 施設栽培では育苗ほ、本ほとも施設開口部へ目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、媒介虫であるタバココナジラミの侵入を防止する。
③ 施設栽培では、定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理により、育苗

期から本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。

<野菜全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の生息葉率は、ワタアブラムシ0.1%（平成1.0%）、モモアカアブラムシ0.1%（平成0.6%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）による7月1～20日の飛来数は31頭（平成16.8頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は、カンザワハダニでそれぞれ44%（平成29%）、1.3%（平成6.5%）、ナミハダニでいずれも0%（平成：発生ほ場率12%、生息葉率2.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率17%、生息葉率3.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ナスでは、収穫果実の選別時に被害を認めたら防除を始める。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

④ 施設栽培では、栽培終了後に抜根した上で7～10日間以上施設を密閉してアザミウマを死滅させ、後作や周辺の野菜等での発生源とならないようにする。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は、いずれも0%（平成：発生ほ場率4%、生息葉率0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける7月中旬の発生ほ場率および生息葉率は11%、0.1%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

- ② フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、和歌山市41頭（平年148.6頭）、紀の川市106頭（平年108.3頭）、御坊市170頭（平年154.0頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
 - ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後40～50日間寒冷紗被覆を行うと被害が軽減される。

6. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① フェロモントラップによる7月1～20日の誘殺数は、紀の川市17頭（平年25.1頭）、御坊市37頭（平年69.0頭）であった。
 - ② 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ハスモンヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の果実での発生ほ場率は48%（平年25%）、発病果率は8.5%（平年4.8%）であった。
 - ② 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 秋雨時期における後期感染防止のため、8月中下旬の防除を徹底する。
 - ② 伝染源となる枯れ枝や剪定枝の処理を徹底する。
 - ③ 過乾燥等で樹勢が衰弱すると枯れ枝が増えるおそれがあるため、かん水等の栽培管理を適切に行う。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 果実発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の春葉での発生ほ場率は23%（平年28%）、発病葉率は0.3%（平年1.1%）であった。
 - ② 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 台風の接近等で強風雨が予想される場合には事前に薬剤散布を行う。
 - ② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので剪除に努める。
 - ③ ミカンハモグリガによる新葉の食害痕は病原菌の侵入口となる。幼木や高接樹では新葉が発生しやすいため本害虫の防除を徹底する。
 - ④ 防風ネット設置などの防風対策に努める。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は41%（平年23%）、発生葉率は11.8%（平年5.6%）、100葉あたり雌成虫数は50.3頭（平年17.6頭）であった。

② 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

4. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 第2世代2齢幼虫の発生最盛期は8月下旬頃と考えられる。発生ほ場ではこの時期に、散布むらがなく葉裏までかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

5. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は3%（平年0%）、果実の被害ほ場率は22%（平年19%）であった。

② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる7月1～20日の誘殺数は由良町131頭（平年160頭）、有田川町68頭（過去9年の平均152頭）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 地域での発生消長調査の結果を参考に適期防除に努める。

② 発生ほ場およびイヌマキやサンゴジュに隣接するほ場では防除を徹底する。

6. ゴマダラカミキリ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における7月中旬の発生ほ場率は2%（平年1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 成虫の捕殺に努めるとともに、放任ほ場周辺など発生の多いほ場では、産卵防止および食入幼虫対象の防除として薬液を主幹から株元に散布する。

<カ キ>

1. 炭疽病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」6%（平年4%）、「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。

② 県北部における7月中旬の発病果率は「富有」0.3%（平年0.4%）、

「平核無」・「刀根早生」0%（平年0%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。

② 台風が接近する場合は事前に薬剤を散布する。散布できなかつたほ場では台風通過後速やかに散布する。

③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は「富有」69%（平年66%）、
「平核無」・「刀根早生」41%（平年21%）であった。

② 県北部における7月中旬の発病葉率は「富有」4.1%（平年5.0%）、
「平核無」・「刀根早生」0.8%（平年0.8%）であった。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。

② 一般に盛夏期の発病は一時休止するが、山間部や風通しの悪いほ場は発病を繰り返しやすいので、これらのほ場では秋雨前の予防散布に努める。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は41%（平年38%）、発病葉率は6.1%（平年3.5%）であった。

② 県北部では感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

② 子のう胞子の飛散が続く8月上旬まで防除が必要である。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部における前年10月の「富有」における発生ほ場率は82%（平年65%）、発病葉率は13.9%（平年10.4%）であった。

② 県北部では感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。

③ 8月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

② 本病は7月頃から発病し二次伝染を繰り返すので、多発ほ場では発病後も防除を励行する。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部における7月中旬の発生ほ場率は、「富有」50%（平年51%）、

- 「平核無」・「刀根早生」18%（平年12%）であった。
- ② 県北部における7月中旬の寄生果率は、「富有」1.5%（平年3.7%）、
「平核無」・「刀根早生」1.1%（平年0.7%）であった。
- ③ 8月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 第2世代ふ化幼虫の発生時期は7月下旬～8月上旬頃と考えられる。発生ほ場では8月上旬頃に、散布むらがなくへたにもかかるように、十分量の薬液を丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

- ① 紀の川市粉河の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが114頭（前年1,335頭、平年463頭）、ツヤアオカメムシが6頭（前年716頭、平年186頭）であった。
- ② 有田川町奥の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが16頭（前年435頭、過去9年の平均706頭）、ツヤアオカメムシが3頭（前年211頭、過去9年の平均173頭）であった。
- ③ みなべ町東本庄の予察灯における7月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが301頭（前年1,149頭、平年809頭）、ツヤアオカメムシが31頭（前年638頭、平年242頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメムシ類の飛来量は園地間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
- ② ほ場内での果樹カメムシ類の発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ③ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病害虫防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○ **農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病害虫防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyohou.html>

○ **和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病害虫防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第6号（9月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

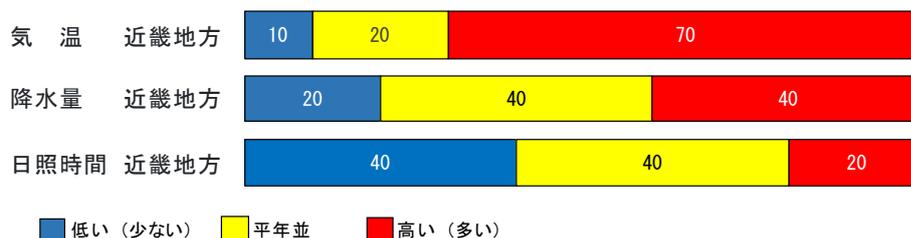
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
水稲	いもち病	並 やや少	野菜・花 き全般	ミナミキイロアザミウマ	少 並 やや多 並
	紋枯病			ミカンキイロアザミウマ	
	トビイロウンカ	並		シロイチモジヨトウ	
	イチモンジセセリ	並	カンキツ	黒点病	やや多
	コブノメイガ	並		かいよう病	やや少
	斑点米カメムシ類	並		ミカンハダニ	やや少
トマト・ ミニトマ ト	黄化葉巻病	並		チャノキイロアザミウマ	並
ダイコン ハクサイ キャベツ	コナガ	並	カキ	炭疽病	やや多 並
野菜・花 き全般	アブラムシ類およびア ブラムシ類媒介のウイ ルス病 ハダニ類	やや少 並		うどんこ病	並
				円星落葉病	やや多
				角斑落葉病	やや多
				フジコナカイガラムシ	やや少
			果樹全般	カメムシ類	やや多

気象予報

近畿地方 1か月予報（08/26～09/25）

2023年08月24日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 08/26～09/25	天候	近畿日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。近畿太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。
1週目 08/26～09/01	気温	1週目は、高い確率60%です。
2週目 09/02～09/08	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目 09/09～09/22	気温	3～4週目は、高い確率60%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）



I. 水 稲

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の葉いもちの発生ほ場率は46%（平成31%）、発病株率は4.8%（平成7.5%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① いもち病に感受性が高い品種（「キヌヒカリ」等）の作付ほ場では今後の気象推移に注意する。

② 常発地では次作から、いもち病に感受性が高い品種の作付けを避ける。

2. 紋枯病

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部および中部の普通期栽培における8月上旬の発生ほ場率は4%（平成29%）、発病株率は0.2%（平成5.3%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 発生が多いほ場では、次作の伝染源となる菌核の形成が多くなる。次作は密植にならないよう注意し、防除を徹底する。

② 第3葉鞘以上の上位葉で発病すると減収などの被害に繋がる。病斑が上位葉鞘まで達している場合は早急に防除を実施する。病斑が上位葉鞘まで達していなくても、発病株が多い場合には防除を実施する。

3. トビイロウンカ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたり生息密度は、県北部の普通期栽培では0.1頭（平成0.5頭）、県中部の普通期栽培では0頭（平成2.9頭）であった。

② 予察灯による8月1～20日の飛来数は、紀の川市1頭（平成3.8頭）、上富田町0頭（平成3.6頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① トビイロウンカの発生量は地域間やほ場間で大きな差があるため、ほ場毎に発生状況を確認する。なお、同一ほ場内においても発生に偏りがあり局所的に多発することから、ほ場の全体をよく観察する必要がある。

② 本種は増殖率が高いため、現在は低密度のほ場でも坪枯れ被害を引き起こす恐れがある。定期的に発生状況を確認し、1株あたり5頭以上の成・幼虫を確認したら、早急に薬剤防除を実施する。

③ 本種は株元に生息するので、薬液が株元に十分到達するように散布する。

4. イチモンジセセリ（イネツトムシ）

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 8月上旬の25株あたりツトム数は、県北部の普通期栽培では0.1（平成0.1）、県中部の普通期栽培では0（平成0）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 8月下旬～9月上旬に蛹化し9月中旬以降に成虫となるため、防除の必要はない。

5. コブノメイガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 8月上旬の25株あたり被害葉数は、県北部の普通期栽培では0.2葉（平成0.3葉）、県中部の普通期栽培では1.1葉（平成1.7葉）であった。

- ② 紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1～15日の成虫誘殺数は、0頭（平成6.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 9月以降は被害葉率が高くても減収率は低い。また、次世代幼虫の出現がないため、防除の必要はない。

6. 斑点米カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① すくい取り調査（捕虫網20回振り）による8月上旬の発生ほ場率および平均成虫数は、県北部の普通期栽培で63%（平成74%）、7.4頭（平成7.4頭）、県中部の普通期栽培で75%（平成77%）、4.8頭（平成6.6頭）であった。

- ② 予察灯による8月1～20日の誘殺数は、紀の川市275頭（過去7年の平均153.6頭）、上富田町5頭（過去7年の平均14.6頭）であった。

- ③ 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 晩生品種では、乳熟期～糊熟期に薬剤を散布する。

※ 水稻害虫の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の水稻害虫の予察灯誘殺消長も参考にする。

II. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培ミニトマトにおける8月中旬の発生ほ場率は100%（平成90%）、発病株率は29.6%（平成33.6%）であった。

- ② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。

- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。

- ③ 促成栽培では、生育初期に感染すると被害が大きくなるため、育苗期の定期的な薬剤散布および定植期の粒剤処理により、感染適期である育苗期から本ほ初期（8～10月）のタバココナジラミ防除を徹底する。また、施設開口部に目合い0.4mm以下の防虫ネットを展張し、侵入を防止する。さらに、外張り資材に紫外線除去フィルムを使用すると侵入防止効果が高まる。

<ダイコン、ハクサイ、キャベツ>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる8月1～20日の誘殺数は、和歌山市0頭（平年0.5頭）、紀の川市0頭（平年0.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類およびアブラムシ類媒介のウイルス病（露地野菜全般）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬のワタアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率16%、生息葉率1.4%）、モモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率3%、生息葉率0.2%）であった。

② アブラムシ類の黄色水盤（紀の川市）への8月1～20日の飛来数は、30頭（平年67.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① アブラムシ類媒介のウイルス病は、シルバーマルチと薬剤防除を併用してアブラムシ類の防除を行う。

② ハクサイ等の育苗では、防虫ネットで被覆して有翅虫の飛来を防ぐ。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は25%（平年21%）、生息葉率は1.0%（平年5.2%）、ナミハダニの発生ほ場率は13%（平年14%）、生息葉率0.1%（平年2.7%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率50%、生息葉率12.2%）であった。

② 9月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける8月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発

- 生ほ場率 1%、生息葉率 0.1%) であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

5. シロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① フェロモントラップによる 8 月 1～20 日の誘殺数は、紀の川市 67 頭 (平年 29.3 頭)、御坊市 65 頭 (平年 74.5 頭) であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期 (ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき) の防除を心がける。
 - ② 抑制栽培エンドウでは、ウイルス病、鳥害や防風対策を兼ねて、は種後 40～50 日間寒冷紗または防虫ネットで被覆すると被害が軽減される。

6. ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部の露地栽培ナスにおける 8 月中旬の発生ほ場率は 0% (平年 3%) であった。
 - ② フェロモントラップによる 8 月 1～20 日の誘殺数は、和歌山市 245 頭 (平年 111.7 頭)、紀の川市 325 頭 (平年 198.0 頭)、御坊市 195 頭 (平年 150.6 頭)、印南町 10 頭 (平年 76.2 頭) であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

Ⅲ. 果 樹

<カンキツ>

1. 黒点病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部 (海南市下津町)、県中部、県南部 (田辺市) における 8 月中下旬の発生ほ場率は 59% (平年 38%)、発病果率は 15.4% (平年 9.7%) であった。
 - ② 9 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
- ① 8 月中下旬に防除できなかつたほ場では、9 月上旬に早急に防除を行う。
 - ② 伝染源となる枯枝や剪定枝の処理を徹底する。

2. かいよう病

- (1) 予報内容 発生量 (果実および夏秋梢) やや少
- (2) 予報の根拠
- ① 県北部 (海南市下津町)、県中部、県南部 (田辺市) における 8 月中下旬の春葉病斑の発生ほ場率は 16% (平年 26%)、発病葉率は 0.2% (平年 0.9%)、果実の発病果率は 1.8% (平年 1.9%) であった。
 - ② 9 月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 罹病性品種の場合、付傷すると果実発病のおそれがある。台風の接近等で強風雨が予想される場合には、事前に薬剤散布を行う。
- ② 夏秋梢の病斑は翌春の主要な伝染源になるので、9月以降翌春までに剪除する。

3. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中下旬の発生ほ場率は8%（平成14%）、発生葉率は3.1%（平成2.6%）、100葉あたりの雌成虫数は12.0頭（平成5.7頭）であった。
 - ② 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。
 - ② ミカンサビダニの発生が認められるほ場では、ミカンハダニとミカンサビダニの両種に適用のある有効薬剤を選択する。

4. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における8月中下旬の果実の被害ほ場率は27%（平成22%）、被害果率は0.9%（平成2.3%）、100果あたりの生息虫数は0.1頭（平成0.0頭）であった。
 - ② 予察ほ場（無防除）における黄色粘着トラップによる8月1～20日の誘殺数は由良町192頭（平成165頭）、有田川町31頭（過去9年の平均56頭）であった。
 - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 8月中旬以降に有効な殺虫剤を散布していないほ場および夏秋梢の多いほ場では、9月の発生状況をよく観察し、成幼虫の生息果率が15%以上の場合は薬剤防除を行う。

<カ キ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」25%（平成9%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平成1%）であった。
 - ② 県北部における8月中旬の発病果率は、「富有」0.5%（平成0.5%）、「刀根早生」・「平核無」0%（平成0.0%）であった。
 - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病枝や発病果がみられる場合は剪除する。
 - ② 降雨が続く場合は追加防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかつた場合は台風通過後速やかに散布する。
 - ③ 密植ほ場や風通しの悪い場所は発病しやすいので、ほ場内の通風・採光をはかり、薬液をかかりやすくする。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は「富有」81%（平年67%）、
「刀根早生」・「平核無」41%（平年17%）であった。
- ② 県北部における8月中旬の発病葉率は「富有」4.1%（平年7.1%）、
「刀根早生」・「平核無」1.4%（平年1.0%）であった。
- ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
 - ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努める。

3. 円星落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」0%（平年2%）、
「刀根早生」・「平核無」0%（平年3%）であった。
 - ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0%（平年0.0%）、
「刀根早生」・「平核無」0%（平年0.1%）であった。
 - ③ 県北部では感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。
 - ④ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」6%（平年0%）、
「刀根早生」・「平核無」6%（平年1%）であった。
 - ② 県北部における8月中旬の発病葉率は、「富有」0.3%（平年0%）、
「刀根早生」・「平核無」0.1%（平年0.0%）であった。
 - ③ 県北部では主な感染時期である5月上旬から6月上旬にかけて降水量が平年並～かなり多く推移した。
 - ④ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。
 - ② 本病は二次伝染を繰り返すので、10月上旬まで防除を励行する。

5. フジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量 やや少
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部における8月中旬の発生ほ場率は、「富有」50%（平年68%）、
「刀根早生」・「平核無」6%（平年24%）であった。
 - ② 県北部における8月中旬の寄生果率は、「富有」2.3%（平年6.9%）、
「刀根早生」・「平核無」0.2%（平年1.0%）であった。
 - ③ 9月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

< 果樹全般 >

1. カメモシ類

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部における8月中旬のカキの被害果率は、「富有」0.1%（平年4.7%）、「刀根早生」・「平核無」0.1%（平年0.4%）であった。
- ② 紀の川市粉河の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモシが711頭（前年1,167頭、平年566頭）、ツヤアオカメモシが61頭（前年568頭、平年233頭）、クサギカメモシが1,139頭（前年514頭、平年369頭）であった。
- ③ 有田川町奥の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモシが140頭（前年234頭、過去9年の平均565頭）、ツヤアオカメモシ122頭（前年54頭、過去9年の平均107頭）、クサギカメモシが199頭（前年102頭、過去9年の平均183頭）であった。
- ④ みなべ町東本庄の予察灯における8月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメモシが2,373頭（前年1,899頭、平年1,136頭）、ツヤアオカメモシが697頭（前年899頭、平年563頭）、クサギカメモシが982頭（前年442頭、平年432頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 果樹カメモシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。
- ② ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。
- ③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。
- ④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。
- ⑤ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメモシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第7号（10月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

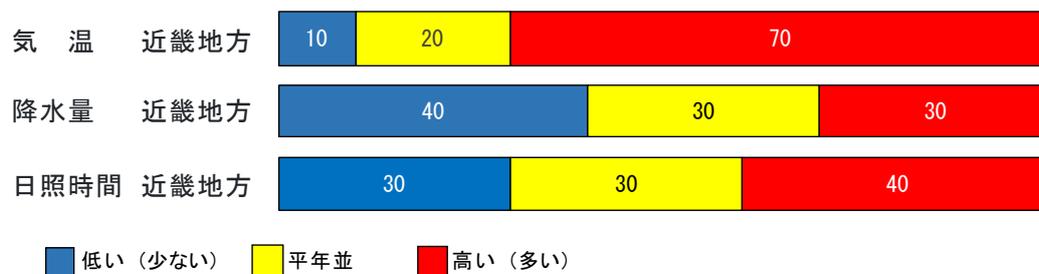
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
トマト・ミニトマト	黄化葉巻病	並	野菜・花き全般	ハスモンヨトウ	やや多
エンドウ	褐斑病、褐紋病 うどんこ病 つる枯細菌病	並 並 並		オオタバコガ	並
アブラナ科野菜	コナガ	やや少	カンキツ	果実腐敗病 ミカンハダニ	やや多 並
野菜・花き全般	アブラムシ類	やや少	カキ	炭疽病 うどんこ病 円星落葉病 角斑落葉病 フジコナカイガラムシ	並 並 やや多 やや多 やや少
	ハダニ類 ミナミキイロアザミウマ ミカンキイロアザミウマ シロイチモジヨトウ	並 やや少 並 やや多		果樹全般	カメムシ類

気象予報

近畿地方 1か月予報（09/23～10/22）

2023年09月21日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 09/23～10/22	天候	天気は数日の周期で変わるでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率70%です。
1週目 09/23～09/29	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 09/30～10/06	気温	2週目は、高い確率80%です。
3～4週目 10/07～10/20	気温	3～4週目は、高い確率50%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



I. 野菜・花き

<トマト、ミニトマト>

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の施設栽培ミニトマトにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、発病株率0.4%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 定期的な薬剤散布により本ほ初期のタバココナジラミ防除を徹底する。
- ② 発病株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り、直ちに土中に埋めるか、ビニル袋に密封して完全に枯死させてから処分する。
- ③ 台風通過後は、施設の外張りフィルムおよび防虫ネットの保守点検を必ず行う。

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。
- ② 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 開花期ごろから発生する。発生初期より防除を行う。
- ② 乾燥条件が続くと発生が多くなる。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月下旬の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病が日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。
- ② 防風ネットの発病抑制効果は高い。
- ③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

<アブラナ科野菜>

1. コナガ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市0頭（平年0頭）、和歌山市2頭（平年15.1頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 収穫後の作物残さが発生源になり、周辺のほ場に成虫が分散して発生が多くなるので、収穫後は速やかに残さをすき込む。

<野菜・花き全般>

1. アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率4%、生息葉率0.5%）、ワタアブラムシの発生ほ場率は14%（平年22%）、生息葉率は0.6%（平年3.2%）であった。

② 黄色水盤（紀の川市）への9月1～20日の飛来数は79頭（平年121.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シルバーマルチは有翅虫の飛来防止効果がある。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低下したワタアブラムシが認められているので注意する。

2. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬のカンザワハダニの発生ほ場率は14%（平年13%）、生息葉率2.9%（平年2.7%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率10%、生息葉率1.7%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬のハダニ類の発生ほ場率は38%（平年27%）、生息株率は10.0%（平年10.1%）であった。

③ 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

② 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

3. ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は29%（平年50%）、生息葉率1.1%（平年12.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 促成栽培ナス等の育苗は発生ほ場の近くで行わない。また、施設の開口部に防虫ネットを展張し、成虫の飛び込みを防ぐ。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

③ 発生が多い場合は4～5日間隔で2回以上、薬剤を散布する。

4. ミカンキイロアザミウマ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、生息葉率0.1%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ミナミキイロアザミウマに準ずる。

② イチゴではミツバチの導入前に徹底防除を行う。

5. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は50%（平成26%）、生息株率は13.1%（平成6.5%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市45頭（平成57.4頭）、御坊市50頭（平成64.3頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。

② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

6. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の露地栽培ナスにおける9月中旬の発生ほ場率は57%（平成15%）、生息葉率は2.9%（平成0.8%）であった。

② 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は44%（平成19%）、生息株率は7.5%（平成3.0%）であった。

③ フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市303頭（平成573頭）、和歌山市1,655頭（平成1,217頭）、御坊市1,000頭（平成909頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① シロイチモジヨトウに準ずる。

7. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培エンドウにおける9月中旬の発生ほ場率は19%（平成11%）、生息株率は2.5%（平成2.1%）であった。

② フェロモントラップによる9月1～20日の誘殺数は、紀の川市7頭（平成10.5頭）、御坊市0頭（平成1.2頭）、印南町0頭（平成1.9頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期の防除を心がける。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。
 - ② 収穫前の薬剤散布を励行する。
 - ③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2. ミカンハダニ

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 予察ほ場（有田川町奥）における9月中旬の100葉あたり雌成虫数は、無防除区0頭（平成0.4頭）、慣行防除区0頭（平成0頭）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① ほ場内を観察し、発生の増加がみられる場合は薬剤散布を行う。特に、9月に防除していないほ場では発生に注意する。
 - ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

<カキ>

1. 炭疽病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は19%（平成29%）、発病果率は0.8%（平成1.4%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 発病果は伝染源になるため、ほ場内を巡回し、発病果を速やかに除去して土中に埋める。
 - ② 発病果がみられるほ場や降雨が続くと予想される場合は薬剤防除を行う。また、台風が接近する場合は事前に薬剤を散布し、できなかった場合は台風通過後速やかに散布する。
 - ③ 同一系統の薬剤の連用は耐性菌の発生を助長するので、複数系統の薬剤のローテーション散布を行う。
 - ④ 軟弱徒長した枝が増えないように施肥による窒素過多に注意するとともに、強剪定を控える。冬季の剪定時に病斑を形成した枝を除去する。
 - ⑤ 排水不良ほ場、密植で通風の悪いほ場は発病しやすいため、ほ場内の環境改善に努める。

2. うどんこ病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は63%（平成65%）、発病葉率は3.9%（平成10.0%）であった。
 - ② 10月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 病原菌は葉裏の気孔から侵入するので、葉裏に丁寧に薬液を散布する。
 - ② 秋季になり気温が低下すると再び病勢が増すので、二次伝染防止に努め

る。

3. 円星落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は19%（平成8%）、発病葉率は0.2%（平成0.2%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

4. 角斑落葉病

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は50%（平成27%）、発病葉率は4.9%（平成2.1%）であった。

② 10月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹勢が低下すると発病が助長されるため、適切な肥培管理や水分管理を心がけ樹勢維持に努める。

5. フジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部の「富有」における9月中旬の発生ほ場率は44%（平成66%）、寄生果率は1.8%（平成7.8%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 主に果実とへたの間隙部に寄生しているので、薬液がこの部分にかかるように丁寧に散布する。

<果樹全般>

1. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 多

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが7,427頭（平成524頭）、ツヤアオカメムシが1,190頭（平成266頭）、クサギカメムシが937頭（平成54頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが2,072頭（過去9年の平均388頭）、ツヤアオカメムシが1,438頭（同222頭）、クサギカメムシが125頭（同27頭）であった。

④ みなべ町東本庄の予察灯による9月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが23,190頭（平成4,294頭）、ツヤアオカメムシが15,114頭（平成2,852頭）、クサギカメムシが680頭（平成143頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 果樹カメムシ類の飛来時期・量はほ場間差が大きく、特に山林隣接ほ場では早くから被害が出やすい。

② ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、防除は発生に応じて早めに行う。収穫が近いほ場では薬剤の収穫前日数に注意する。

③ カキでは「富有」、カンキツでは収穫時期の早い極早生品種で被害が大きいため発生に注意する。

④ 台風通過後や強風後に一時的に飛来が多くなることがあるので、ほ場内での発生に注意する。

- ⑤ 令和5年9月22日発表の病虫害防除技術情報（第2号）を参照する。
- ⑥ 今後の発生動向については、農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ内農作物病虫害防除所の果樹カメムシ情報や、各地域の振興局農業水産振興課、JA等の情報を参考にする。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○**農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ** <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyouhou.html>

○**和歌山県ホームページ** <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稻、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

病害虫発生予報 第8号（11月予報）

和歌山県農作物病害虫防除所

< 予報の概要 >

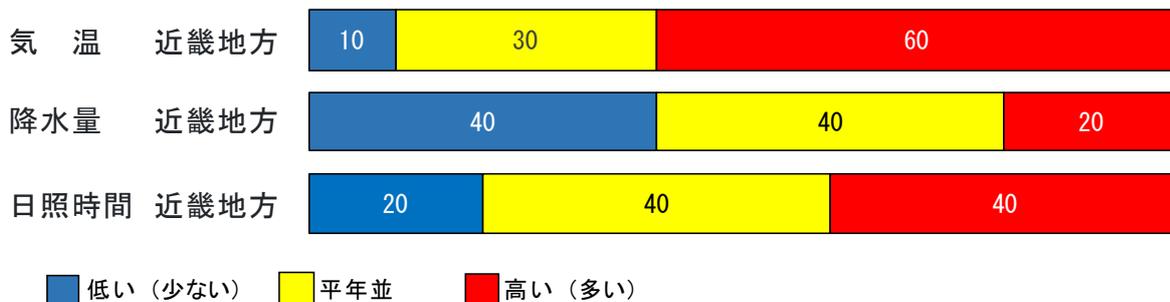
作物名	病害虫名	発生量	作物名	病害虫名	発生量
エンドウ	褐斑病、褐紋病	並	野菜・花 き全般	シロイチモジヨトウ	並
	うどんこ病	並		ハスモンヨトウ	並
	つる枯細菌病	並		オオタバコガ	やや多
	ハダニ類	やや少			
	ウラナミシジミ	並			
ハクサイ キャベツ	黒斑細菌病	並	カンキツ	果実腐敗病	やや少
	アブラムシ類	並		ミカンハダニ	やや多
	コナガ	やや多		カメムシ類	やや少～並
	ヨトウガ	やや多			

気象予報

近畿地方 1か月予報（10/28～11/27）

2023年10月26日14時30分 大阪管区気象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる可能性があります。	
向こう1か月 10/28～11/27	天候	近畿日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。近畿太平洋側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率60%です。
	降水量	降水量は、平年並または少ない確率ともに40%です。
	日照時間	日照時間は、平年並または多い確率ともに40%です。
1週目 10/28～11/03	気温	1週目は、高い確率50%です。
2週目 11/04～11/10	気温	2週目は、高い確率70%です。
3～4週目 11/11～11/24	気温	3～4週目は、平年並または高い確率ともに40%です。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



I. 野菜・花き

<エンドウ>

1. 褐斑病、褐紋病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率17%、発病葉率0.6%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 多湿ほ場で発生しやすいので、排水を良くする。

② 施設栽培では、降雨が多いと予想される場合は早めにビニル被覆を行う。

③ 薬剤の予防散布に努める。

④ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

2. うどんこ病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は13%（平成6%）、発病葉率は0.2%（平成1.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 施設栽培では、低温期でも乾燥すると発生しやすい。

② 下位葉に病斑を認めたら薬剤散布を行う。

3. つる枯細菌病

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率1%、発病葉率0.0%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 本病は、褐斑病、褐紋病と葉の病斑が似ているので注意する。褐斑病、褐紋病の病斑は日光に透かしても不透明であるのに対し、本病は光が透けて見えることで区別できる。

② 防風ネットは予防効果が高い。

③ 種子伝染するので、発生ほ場では採種しない。

4. ハダニ類

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県中部の露地栽培における10月中旬の発生ほ場率は12%（平成34%）、生息株率は1.8%（平成14.9%）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 薬剤散布にあたっては薬液が葉裏に十分かかるように行う。

5. ウラナミシジミ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県中部の露地栽培における10月中旬の被害発生ほ場率は63%（平成70%）、被害株率は12.5%（平成26.0%）であった。被害さや率は2.8%（平成8.0%）、1花あたりの産卵数は0.26個（平成0.20個）であった。
- ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 食入加害されたさやは、ほ場の外に持ち出し処分する。
 - ② 主な産卵部位である花や蕾に薬液が十分かかるよう、7～10日間隔で防除を行う。

＜ハクサイ、キャベツ＞

1. 黒斑細菌病

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のハクサイ、キャベツにおける10月下旬の発生ほ場率はいずれも0%（平成：ハクサイ0%、キャベツ0%）であった。
 - ② 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 降雨前に薬剤を予防散布する。

2. アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量 並
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月下旬のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率19%、生息株率3.0%）、ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は9%（平成35%）、生息株率3.6%（平成7.8%）であった。
 - ② 黄色水盤（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、54頭（平成42.3頭）であった。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤散布にあたっては薬液が株元の葉裏に十分かかるように行う。

3. コナガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は0%（平成：発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.0頭）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市157頭（平成55.2頭）、紀の川市1頭（平成0.1頭）であった。
 - ③ 11月の気象予報による。
- (3) 防除上考慮すべき諸点
 - ① 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

4. ヨトウガ

- (1) 予報内容 発生量 やや多
- (2) 予報の根拠
 - ① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は18%（平成1%）、生息株率2.3%（平成0.2%）であった。
 - ② フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市12頭（平成6.7頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 発生初期の若齢幼虫の防除に努める。

<野菜・花き全般>

1. シロイチモジヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率5%、生息株率0.3%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率4%、生息株率0.5%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市84頭（平年19.1頭）、御坊市97頭（平年64.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 幼虫が中～老齢期になると薬剤感受性が著しく低下するので、若齢期（ふ化幼虫の集団の食害による白変葉がみられたとき）の防除を心がける。
- ② 薬剤抵抗性の発達を遅らせるために、同一系統の薬剤は連用しない。

2. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容 発生量 並

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は18%（平年18%）、生息株率は0.9%（平年2.1%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率21%、生息株率3.4%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、和歌山市2,836頭（平年1,512頭）、紀の川市1,512頭（平年1,023頭）、御坊市2,973頭（平年2,471頭）、印南町541頭（平年946頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① シロイチモジヨトウに準ずる。

3. オオタバコガ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

- ① 県北部のキャベツにおける10月下旬の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、生息株率0.6%）であった。
- ② 県中部の露地栽培エンドウにおける10月中旬の発生ほ場率は24%（平年15%）、生息株率3.5%（平年3.3%）であった。
- ③ フェロモントラップによる10月1～20日の誘殺数は、紀の川市121頭（平年30.3頭）、御坊市73頭（平年31.0頭）、印南町156頭（平年28.2頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

- ① 中～老齢幼虫に対する薬剤の防除効果は低いので、若齢幼虫期に防除するよう努める。

II. 果 樹

<カンキツ>

1. 果実腐敗病（緑かび病、青かび病）

(1) 予報内容 発生量 やや少

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病発生ほ場率は3%（平成13%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 樹上の発病果や、これに接触している果実は速やかに除去する。

② 収穫前の薬剤散布を励行する。

③ 果実は丁寧に取り扱い、果面に傷をつけない。

2. ミカンハダニ

(1) 予報内容 発生量 やや多

(2) 予報の根拠

① 県北部（海南市下津町）、県中部、県南部（田辺市）における10月中旬の発生ほ場率23%（平成11%）、発生葉率は4.8%（平成1.7%）であった。

② 11月の気象予報による。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① 収穫前の薬剤散布は使用基準に特に留意する。

② 収穫時期まで袋かけを行う品種では袋かけ前に発生状況を確認し、必要に応じて薬剤散布を行う。

③ 薬剤抵抗性の発達を遅らせるため、同一系統の薬剤は年間に2回以上使用しない。

3. カメムシ類

(1) 予報内容 発生量 やや少～並

(2) 予報の根拠

① 紀の川市粉河の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが226頭（平成192頭）、ツヤアオカメムシが289頭（平成329頭）であった。

② 有田川町奥の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが25頭（過去9年の平均100頭）、ツヤアオカメムシが29頭（同514頭）であった。

③ みなべ町東本庄の予察灯による10月1～20日の誘殺数は、チャバネアオカメムシが310頭（平成1,151頭）、ツヤアオカメムシが3,161頭（平成7,847頭）であった。

(3) 防除上考慮すべき諸点

① ほ場内での発生及び被害状況をよく観察し、発生に応じて防除を行う。

② 発生がみられるほ場で薬剤散布する場合は、収穫期の散布となるので使用基準に十分注意する。

本情報は、下記の方法でもご覧頂けます。

○農業環境・鳥獣害対策室ウェブページ <農作物病虫害防除所>

<https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070300/071400/boujyosyo-yosatsujyuhou.html>

○和歌山県ホームページ <わかやま県政ニュース>

<http://wave.pref.wakayama.lg.jp/news/kensei/>

※詳しくは、農作物病虫害防除所の各担当までお願いします。

水稲、野菜、花き

本所（紀の川市、農業試験場内）

TEL 0736-64-2300

カンキツ

有田川駐在（有田川町、果樹試験場内）

TEL 0737-52-4320

カキ、モモ

紀の川駐在（紀の川市、果樹試験場かき・もも研究所内）

TEL 0736-73-2274

ウメ

みなべ駐在（みなべ町、果樹試験場うめ研究所内）

TEL 0739-74-3780

2. 病害虫の診断・同定の件数

1) 本所

作物分類	分類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
水稻	病害	0	0	0	3	3	2	1	0	0	0	0	0	9
	虫害	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	その他	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3
野菜	病害	8	6	10	4	5	6	10	6	4	1	6	3	69
	虫害	5	1	2	0	2	0	0	0	0	1	0	0	11
	その他	6	5	0	2	1	3	4	3	4	3	1	2	34
花き	病害	1	1	1	2	1	1	1	1	0	1	1	0	11
	虫害	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	0	0	4
	その他	0	4	2	0	0	5	1	2	0	1	1	0	16
果樹	病害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	虫害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
小計	病害	9	7	11	9	9	9	12	7	4	2	7	3	89
	虫害	5	1	2	2	2	0	0	0	2	3	0	0	17
	その他	6	11	2	2	2	8	5	5	5	4	2	2	54

2) 有田川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
常緑果樹	病害	8	16	12	7	5	5	3	2	3	7	5	0	73
	虫害	5	3	11	14	11	30	29	5	4	10	7	10	139
	その他	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
小計	病害	8	16	12	7	5	5	3	2	3	7	5	0	73
	虫害	5	3	11	14	11	30	29	5	4	10	7	10	139
	その他	0	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4

3) 紀の川駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	7	14	7	1	4	1	5	1	1	1	1	3	46
	虫害	6	8	6	2	3	2	5	2	5	2	3	2	46
	その他	1	2	7	0	1	0	1	1	1	1	1	0	16

4) みなべ駐在

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
落葉果樹	病害	7	9	9	5	2	1	2	1	0	1	2	16	55
	虫害	2	2	0	2	0	0	0	0	0	0	12	3	21
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

5) 全体

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
合計	病害	31	46	39	22	20	16	22	11	8	11	15	22	263
	虫害	18	14	19	20	16	32	34	7	11	15	22	15	223
	その他	7	14	11	2	3	8	6	6	6	6	3	2	74

VI. 病害虫の発生経過の概要

都道府県	農作物名	有害動植物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	早期水稲	葉いもち	4～7月	並	7月の発生ほ場率は17%（平年27%）、発病株率は6.0%（平年5.4%）であった。		育苗箱薬剤剤及び適量施肥。初発時の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	穂いもち	7～8月	並	8月の発生ほ場率は0%（平年3%）、発病穂率は0%（平年0.2%）であった。		通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付ほ場及び山間地では穂揃い期に追加防除。
和歌山県	早期水稲	紋枯病	5～8月	並	8月の発生ほ場率は33%（平年25%）、発病株率は4.0%（平年3.3%）であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
和歌山県	早期水稲	ばか苗病	5～6月	並	7月の発生ほ場率は0%（平年2%）であった。		種子消毒。
和歌山県	早期水稲	もみ枯細菌病	4月、8月	並	8月の発病穂率は0%（平年0%）であった。		育苗箱薬剤剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	縞葉枯病	6～9月	並	7月の発病株率は0%（平年0%）であった。		ヒメトビウンカの防除。
和歌山県	早期水稲	稲こうじ病	8月	並	8月の発病株率は0%（平年0%）であった。		穂いもちとの同時防除
和歌山県	早期水稲	セジロウンカ	6～8月	やや少	予察灯への初飛来は、那智勝浦町6月10日（平年6月4日）、上富田町6月11日（平年6月9日）であった。25株あたり平均虫数は、7月が3.2頭（平年26.1頭）、8月が0.2頭（平年19.5頭）であった。	薬剤防除の効果が高かった。	7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	トビイロウンカ	6～8月	並	予察灯への初飛来は、那智勝浦町7月10日（平年6月29日）、上富田町7月20日（平年6月29日）であった。予察灯による6月1日～7月20日の誘殺数は、上富田町1頭（平年17.9頭）、那智勝浦町1頭（平年22.5頭）であった。8月の25株あたり平均虫数は0頭（平年1.5頭）であった。		7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	ヒメトビウンカ	5～8月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が0頭（平年7.5頭）、8月が2.5頭（平年14.6頭）であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱薬剤剤の施用と7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	ツマグロヨコバイ	5～8月	やや少	25株あたり平均虫数は、6月が1.0頭（平年0.5頭）、7月が0頭（平年2.1頭）、8月が0.3頭（平年3.3頭）であった。	薬剤防除の効果が高かった。	7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	斑点米カメムシ類	7～8月	並	本田における7月の捕虫網20回振りによる捕獲虫数は2.3頭（平年4.0頭）であった。予察灯による誘殺数は上富田町17頭（平年28.2頭）、那智勝浦町390頭（平年98.3頭）であった。		畦畔及びほ場周辺の除草。乳熟期の薬剤散布。
和歌山県	早期水稲	コブノメイガ	6～8月	並	25株あたり平均被害葉数は、7月が0.3葉（平年1.3葉）、8月が0葉（平年2.4葉）であった。		7月の薬剤防除。
和歌山県	早期水稲	イネミスゾウムシ	5～8月	並	6月の25株あたり平均虫数は0.2頭（過去8年の平均0.6頭）であった。		育苗箱薬剤剤の施用。
和歌山県	普通期水稲	葉いもち	5～8月	並	8月の発生ほ場率は46%（平年31%）、発病株率は4.8%（平年7.5%）であった。		育苗箱薬剤剤。適量施肥。初発時の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	穂いもち	8～9月	並	9月の発生ほ場率は0%（平年12%）であった。		通常は穂ばらみ期の薬剤防除。罹病性品種の作付圃場及び山間地では穂揃い期の追加防除。
和歌山県	普通期水稲	紋枯病	6～9月	並	9月の発生ほ場率は50%（平年57%）であった。		通常は穂ばらみ期1回の薬剤防除。出穂後も上位葉への進展が見られる場合は追加防除。
和歌山県	普通期水稲	ばか苗病	5～6月	並	8月の発生ほ場率は0%（平年0.4%）であった。		種子消毒。
和歌山県	普通期水稲	もみ枯細菌病	4月、8～9月	並	9月の発病穂率は0%（平年0.01%）であった。		育苗箱薬剤剤の施用と穂ばらみ期の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	縞葉枯病	6～9月	並	8月の発病株率は0%（平年0.3%）であった。		ヒメトビウンカの防除。
和歌山県	普通期水稲	稲こうじ病	9月	並	9月の発病株率は0%（平年0%）であった。		穂いもちとの同時防除
和歌山県	普通期水稲	ニカメイガ	6～10月	並	8月の25株あたり被害株数は0株（平年0株）であった。		1化期：育苗箱薬剤剤の施用。 2化期：8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	セジロウンカ	6～10月	やや少	予察灯への初飛来は、紀の川市6月27日（平年6月21日）であった。25株あたり平均虫数は、7月が0.6頭（平年15.8頭）、8月が1.0頭（平年25.5頭）、9月が4.5頭（平年10.5頭）であった。	薬剤防除の効果が高かった。	育苗箱薬剤剤の施用。 8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	トビイロウンカ	6～10月	やや少	予察灯への初飛来は、紀の川市8月20日（平年7月13日）であった。25株あたり平均虫数は、7月が0頭（平年0.2頭）、8月が0.1頭（平年1.2頭）、9月が0頭（平年9.4頭）であった。	薬剤防除の効果が高かった。 平年に比べて飛来が遅かった。	育苗箱薬剤剤の施用。 8月の薬剤防除。

都道府県	農作物名	有害動植物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	普通期水稲	ヒメトビウンカ	6～10月	やや少	25株あたり平均虫数は、7月が0.1頭（平年11.7頭）、8月が5.9頭（平年15.2頭）、9月が2.9頭（平年16.6頭）であった。	薬剤防除の効果が良かった。	育苗箱施薬剤の施用。
和歌山県	普通期水稲	ツマグロヨコバイ	6～10月	並	25株あたり平均虫数は、7月が0.8頭（平年1.5頭）、8月が0.9頭（平年2.3頭）、9月が7.6頭（平年4.6頭）であった。		育苗箱施薬剤の施用。 8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	斑点米カメムシ類	8～10月	並	すくい取り調査（捕虫網20回振り）による8月の発生ほ場率および平均成虫数は、63%（平年74%）、7.4頭（平年7.4頭）、県中部の普通期栽培で75%（平年77%）、4.8頭（平年6.6頭）であった。		畦畔及びほ場周辺の除草。 乳熟期の薬剤散布。
和歌山県	普通期水稲	フタオビコヤガ	6月～8月	並	8月の25株あたり平均虫数は0頭（平年0頭）、9月の25株あたり平均虫数は0頭（平年0頭）であった。		8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	コブノメイガ	6～10月	並	紀の川市の蛍光灯誘殺箱による8月1日～8月15日の成虫誘殺数は、0頭（平年6.3頭）であった。25株あたり平均被害葉数は、7月が0葉（平年0.2葉）、8月が0.5葉（平年0.7葉）、9月が0葉（平年1.8葉）であった。		8月の薬剤防除。
和歌山県	普通期水稲	イネミズゾウムシ	6～9月	並	7月の25株あたり平均虫数は0頭（過去8年の平均0頭）であった。		育苗箱施薬剤の施用。
和歌山県	トマト（冬春）	疫病	8～6月	並	発生は認められなかった。		薬剤防除
和歌山県	トマト（冬春）	灰色かび病	1～4月	並	3月の発生ほ場率は0%（過去7年の平均4%）であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト（冬春）	葉かび病	3～6月	並	3月の発生ほ場率は46%（過去5年の平均47%）であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト（冬春）	モザイク病	8～6月	並	3月の発生ほ場率は0%（過去7年の平均0%）であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト（冬春）	黄化葉巻病	8～6月	並	3月の発生ほ場率は23%（過去7年の平均6%）であった。		タバコナジラミの防除
和歌山県	トマト（冬春）	タバコナジラミ	12～6月	やや多	5月の発生ほ場率は50%（平年43%）、生息率は9.5%（平年5.4%）であった。	感受性低下による薬剤の効果低下。	防虫ネットの展張。 薬剤防除
和歌山県	トマト（冬春）	アブラムシ類	12～6月	並	5月の発生ほ場率は0%（平年1%）であった。		防虫ネットの展張。 薬剤防除
和歌山県	トマト（夏秋）	疫病	5～11月	並	7月の発生ほ場率は0%（平年5%）であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト（夏秋）	灰色かび病	5～11月	並	7月の発生ほ場率は0%（過去8年の平均0%）であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト（夏秋）	葉かび病	6～11月	やや少	8月の発生ほ場率は0%（過去7年の平均34%）、発病率は0%（過去7年の平均3.6%）であった。	抵抗性品種の導入。	薬剤防除、抵抗性品種導入
和歌山県	トマト（夏秋）	モザイク病	6～11月	並	7月の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。		薬剤防除
和歌山県	トマト（夏秋）	黄化葉巻病	6～11月	並	8月の発生ほ場率は100%（平年90%）、発生率は29.6%（平年33.6%）であった。		タバコナジラミの防除
和歌山県	ナス（冬春）	うどんこ病	12～6月	並	5月の発生ほ場率は23%（平年13%）であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス（冬春）	灰色かび病	12～5月	並	5月の発生ほ場率は0%（過去9年の平均6%）であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス（冬春）	ミナミキイロアザミウマ	9～6月	やや少	5月の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率24%、生息率6.2%）であった。	薬剤防除の効果が良かった。	薬剤防除
和歌山県	ナス（冬春）	アブラムシ類	9～6月	並	5月の生息率は、モモアブアブラムシ0%（平年0.2%）、フタアブラムシ0%（平年0%）であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス（冬春）	ハダニ類	9～6月	やや少	5月のカンザワハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率11%、生息率1.3%）、ナミハダニの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率0%、生息率0%）であった。	薬剤防除の効果が良かった。	薬剤防除
和歌山県	ナス（冬春）	ハスモンヨトウ	9～6月	並	5月の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率0%、生息率0%）であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス（夏秋）	うどんこ病	4～10月	並	6月の発生ほ場率は0%（過去9年の平均1%、発病率0.01%）であった。		薬剤防除

都道府県	農作物名	有害動植物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	ナス(夏秋)	灰色かび病	4~10月	並	6月の発生ほ場率は0%(過去9年の平均1%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ミナミキイロアザミウマ	5~11月	やや少	9月の発生ほ場率は29%(平年50%)、生息率は0.3%(平年12.9%)であった。	薬剤防除の効果が良かった。	薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	アブラムシ類	5~11月	並	6月の生息率は、モモアカアブラムシ3.4%(平年0.1%)、ワタアブラムシ0.3%(平年0.9%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ハダニ類	5~11月	並	7月のカンザワハダニの発生ほ場率は44%(平年29%)、生息率は1.3%(平年0.5%)であった。ナミハダニの発生ほ場率は0%(平年:発生ほ場率12%、生息率2.9%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ナス(夏秋)	ハスモンヨトウ	7~11月	やや多	9月の発生ほ場率は57%(平年15%)、生息率は0.7%(平年0.8%)であった。	9月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	べと病	10~6月	並	5月の県北部における発生ほ場率は50%(平年42%)、発病率は2.5%(平年5.3%)、県中部における発生ほ場率は83%(平年59%)、発病率は14.6%(平年14.7%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	うどんこ病	10~6月	並	5月の発生ほ場率は、県北部で20%(平年17%)、県中部で50%(平年85%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	灰色かび病	10~6月	並	5月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年3%)、県中部で0%(平年0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	褐斑病	10~6月	やや少	5月の発生ほ場率は、県北部で10%(平年6%)、県中部で0%(過去7年の平均48%)であった。	県中部において耐病性品種が導入されたため。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	ミナミキイロアザミウマ	9~6月	やや多	3月の発生ほ場率33%(過去9年の平均14%)、生息率3.3%(過去9年の平均1.2%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	アブラムシ類	9~6月	やや少	4月のワタアブラムシの発生ほ場率は0%(過去9年の平均16%)、生息率0%(過去9年の平均0.2%)であった。	有効薬剤の使用。	薬剤防除
和歌山県	キュウリ(冬春)	タバココナジラミ	9~6月	やや多	4月の発生ほ場率は60%(過去9年の平均33%)、生息率3.9%(過去9年の平均3.7%)であった。	抵抗性発達による薬剤の効果低下。	薬剤防除
和歌山県	スイカ	つる枯病	5~7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年1%)、県中部で0%(平年9%)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	炭疽病	5~7月	多	6月の発生ほ場率は、県北部で17%(平年3%)、県中部で83%(平年13%)であった。	6月に定期的に降雨が続いたため。	薬剤防除 令和5年度病害虫発生予察注意報第1号(令和5年6月20日発表)により注意を喚起。
和歌山県	スイカ	疫病	5~7月	並	6月の発生ほ場率は、県北部で0%(平年0%)、県中部で0%(平年0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	スイカ	シロイチモジヨトウ	4~8月	やや少	6月の発生ほ場率は6%(平年36%)、被害率は0.2%(平年4.8%)であった。	薬剤防除の効果が良かった。	薬剤防除 交信攪乱剤による防除
和歌山県	スイカ	アブラムシ類	3~8月	多	6月のワタアブラムシの発生ほ場率は88%(平年74%)、生息率は17.5%(平年7.4%)であった。	抵抗性発達による薬剤の効果低下。	薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	軟腐病	9~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平年1%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	白斑病	9~12月	多	12月の発生ほ場率は42%(平年3%)、発病率は1.7%(平年1.2%)であった。	前作における発病がやや多かったため、被害葉が土壌中に多く残り、本年の感染源になったと考える。	薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	べと病	10~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	黒斑病	10~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平年2%)、発病率は0%(平年0.04%)であった。		薬剤防除
和歌山県	ハクサイ(秋冬)	モザイク病	9~12月	並	12月の発生ほ場率は0%(平年0%)であった。		アブラムシ類防除
和歌山県	キャベツ(春)	黒腐病	3~4月	並	4月の発生ほ場率は0%(過去8年の平均0%)であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	菌核病	3~4月	やや少	3月の発生ほ場率は38%(過去8年の平均64%)、発病率は0.8%(過去8年の平均3.1%)であった。	2月の降水量が少なかつたため。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	アブラムシ類	12~4月	やや少	4月の発生ほ場率は、モモアカアブラムシ0.6%(平年6.5%)、ニセダイコンアブラムシ0%(平年0.3%)であった。	薬剤防除の効果が良かった。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ(春)	モンシロチョウ	4月	並	4月の発生ほ場率は0%(平年15%)であった。		薬剤防除

都道府県	農作物名	有害動植物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	キャベツ（春）	コナガ	12～4月	並	4月の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率8%、1株当たり発生密度0.02頭）であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ（春）	ヨトウガ	4月	並	4月の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ（冬）	黒腐病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%（平年2%）、発生株率は0%（平年0.1%）であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ（冬）	菌核病	10～12月	やや少	12月の発生ほ場率は0%（平年14%）、発病株率は0%（平年0.7%）であった。	10月および12月の降水量が少なかったため。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ（冬）	アブラムシ類	9～3月	並	10月のモモアカアブラムシの発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率19%、生息株率3.0%）であった。ニセダイコンアブラムシの発生ほ場率は9%（平年35%）、生息株率3.6%（平年7.8%）であった。黄色水盛（紀の川市）への10月1～20日の飛来数は、54頭（平年42.3頭）であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ（冬）	モンシロチョウ	9～10月	やや少	10月の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率14%、生息株率1.1%）であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ（冬）	コナガ	9～3月	並	10月の発生ほ場率は0%（平年：発生ほ場率7%、10株あたり生息密度0.01頭）であった。		薬剤防除
和歌山県	キャベツ（冬）	ヨトウガ	9～3月	やや多	10月の発生ほ場率は18%（平年1%）、生息株率2.3%（平年0.2%）であった。	9月の高温および少雨の影響。	薬剤防除
和歌山県	キャベツ（冬）	ハスモンヨトウ	9～11月	並	10月の発生ほ場率は18%（平年19%）、生息株率は0.9%（平年2.1%）であった。		薬剤防除
和歌山県	タマネギ	白色疫病	2～4月	やや少	3月の発生ほ場率は3%（平年22%）、発病株率0.03%（2.5%）であった。	3月以降の気温が高かったため。	薬剤防除
和歌山県	タマネギ	べと病	1～5月	並	4月の発生ほ場率は40%（平年31%）であった。		薬剤防除 令和4年度病害虫防除技術情報第5号（令和5年3月20日発表）により注意を喚起。
和歌山県	イチゴ	灰色かび病	10～4月	やや多	4月の発生ほ場率は40%（過去7年の平均14%）であった。	4月の気温が高く、降雨量が多かったため。	薬剤防除
和歌山県	イチゴ	うどんこ病	10～4月	やや少	4月の発生ほ場率は0%（過去7年の平均7%）であった。	4月の降雨量が多かったことから、湿度が発病に適していなかったと考える。	薬剤防除
和歌山県	イチゴ	アブラムシ類	9～4月	やや多	3月の発生ほ場率22%（平年10%）、生息株率7.3%（平年2.7%）であった。	2月の高温および少雨の影響。	薬剤防除
和歌山県	イチゴ	アザミウマ類	9～4月	並	3月のヒラズハナアザミウマは発生ほ場率11%（過去7年の平均10%）、1花当たり生息密度0.02頭（過去7年の平均0.04頭）、ミカンキイロアザミウマは発生ほ場率11%（平年0%）、1花当たりの生息密度0.02頭（平年0頭）であった。		薬剤防除
和歌山県	イチゴ	ハダニ類	9～4月	やや少	4月のナミハダニは発生ほ場率10%（平年48%）、発生葉率1.0%（平年19.0%）、カンザワハダニは発生ほ場率10%（平年16%）、発生葉率7.5%（平年3.0%）であった。	薬剤防除の効果が高かった。	薬剤防除。 天敵カブリダニ類の利用。
和歌山県	エンドウ（秋冬）	うどんこ病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は13%（平年6%）であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ（秋冬）	灰色かび病	9～12月	並	10月の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ（秋冬）	褐斑病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は0%（平年8%、発病葉率0.3%）であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ（秋冬）	褐紋病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は0%（平年10%、発病葉率0.4%）であった。		薬剤防除
和歌山県	エンドウ（秋冬）	オオタバコガ	9～11月	やや多	10月の発生ほ場率は24%（平年15%）、生息株率3.5%（平年3.3%）であった。	9月の高温の影響。	薬剤防除
和歌山県	エンドウ（秋冬）	ウラナミシジミ	9～12月	やや少	10月の被害発生ほ場率は63%（平年70%）、被害株率は12.5%（平年26.0%）であった。被害さや率は2.8%（平年8.0%）、1花あたりの産卵数は0.26個（平年0.20個）であった。	薬剤の効果。	
和歌山県	エンドウ（秋冬）	シロイチモジヨトウ	8～10月	やや多	9月の発生ほ場率は50%（平年26%）、生息株率は13.1%（平年6.5%）であった。	9月の高温の影響。	防除ネット被覆、薬剤防除、交信攪乱剤
和歌山県	エンドウ（秋冬）	ハスモンヨトウ	9～11月	やや多	9月の発生ほ場率は44%（平年19%）、生息株率は7.5%（平年3.0%）であった。	9月の高温の影響。	薬剤防除

都道府県	農作物名	有害動物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	エンドウ（秋冬）	ハダニ類	9～11月	並	9月の発生ほ場率は38%（平年27%）、生息株率は10.0%（平年10.1%）であった。		薬剤防除
和歌山県	カンキツ	そうか病	4～10月	並	平年に比べて6月、7月および8月はやや多で推移した。10月の発生ほ場率は6%（平年6%）、発病果率は1.1%（平年0.9%）であった。	6月、7月および8月の発生は6月上旬に薬剤の防除効果を上回る記録的な降雨があったためと考えられる。	常発ほ場では発芽直後に薬剤散布。その他一般防除圏では満開期を中心に予防散布。発病果実等は摘果処理により除去。
和歌山県	カンキツ	黒点病	6～10月	やや多	予察ほ場（有田川町奥）における初発は5月22日と平年（6月4日）より早かった。10月の発生ほ場率は77%（平年62%）、発病果率は34.3%（平年21.7%）であった。	6月上旬に薬剤の防除効果を上回る記録的な降雨があったためと考えられる。	幼果期（5月下旬～6月上旬）から8月下旬にかけてマンゼブ剤およびマンネブ剤の予防散布による基幹防除及び罹病枝である枯枝の剪除。
和歌山県	カンキツ	かいよう病	5～10月	並	10月の果実の発生ほ場率は14%（平年19%）、発病果率は2.0%（平年2.9%）であった。	気象条件による。	罹病性品種や常発ほ場において、無機銅剤の予防散布による基幹防除及び罹病枝葉の剪除。
和歌山県	カンキツ	灰色かび病	5～6月	多	6月の発生ほ場率は64%（平年13%）、発病果率は6.4%（平年0.6%）であった。	主要な感染時期である落弁期の降雨が多かったためと考えられる。	満開期～落弁期の予防散布。被害果は摘果処理により除去。
和歌山県	カンキツ	褐色腐敗病	9～11月	並	10月の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。	気象条件による。	常発ほ場では薬剤散布と罹病果の除去。
和歌山県	カンキツ	貯蔵病害	10～3月	やや少	10月のウンシュウミカン樹上果実の緑かび病の発生ほ場率は3%（平年13%）であった。	気象条件による。	収穫前にベンゾイミダゾール系薬剤やイミノクタジン酢酸塩剤、または両系統剤を混用して散布。
和歌山県	カンキツ	ヤノネカイガラムシ	5～11月	やや少	予察ほ場（有田川町奥）の第1世代幼虫の初発は5月5日で平年（5月13日）より早かった。10月の寄生果率は0.1%（平年0.4%）、発生ほ場率2%（平年5%）であった。	気象条件による。	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ミカンハダニ	5～11月	やや多	予察ほ場（有田川町奥、無防除）における発生率は3月中旬に9.0%（平年4.1%）、10月に4.8%（平年1.7%）であった。	気象条件による。	冬季または春季および6月にマシン油乳剤を散布。秋季に化学殺ダニ剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ミカンサビダニ	5～11月	やや多	10月の発生ほ場率は6%（平年2%）であった。	気象条件による。	梅雨明け時期および秋季の発生時に薬剤散布。多発ほ場では落弁期にも実施。
和歌山県	カンキツ	カメムシ類	5～11月	多	チャバネアオカメムシの越冬成虫数はやや少なかった。紀の川市、有田川町、みなべ町の9月～10月の誘殺数は平年に比べ多かった。	夏季以降の新成虫の発生量が平年より多かったため。	発生時に薬剤を散布。
和歌山県	カンキツ	チャノキイロアザミウマ	5～10月	並	10月の被害ほ場率は27%（平年28%）であった。	気象条件による。	発生時に薬剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ナシマルカイガラムシ	5～10月	並	10月の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。	気象条件による。	マシン油乳剤、ネオニコチノイド剤を散布。
和歌山県	カンキツ	ロウムシ類	6～8月	並	8月の発生ほ場率は0%（平年0%）であった。	気象条件による。	
和歌山県	カンキツ	ミカンハモグリガ	5～10月	少	8月の発生ほ場率は5%（過去9年の平均14%）であった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
和歌山県	カンキツ	アブラムシ類	5～7月	やや少	6月の夏秋梢における発生ほ場率は3%（過去9年の平均10%）であった。	気象条件による。	幼木園、高接更新園および部分全摘果処理したほ場を中心に薬剤散布。
和歌山県	カキ	炭そ病	5～10月	並	富有における5月中旬の新梢での発生ほ場率は0%で平年並、果実では7月より発生が見られた。10月中旬の富有における発生ほ場率は19%と少なかったが、一部地域では多発し、全体としては平年並の発生となった。	6月2～3日にかけて記録的な大雨となり、主要感染時期に薬剤の効果十分でないほ場があったと考えられた。9月～10月は降水量は少なく推移し、果実での発生は平年並となった。	4月下旬～9月に定期防除を実施。
和歌山県	カキ	うどんこ病	5～10月	並	5月から発生が見られ、9月中旬の発生ほ場率は富有63%、刀根早生・平核無41%と平年よりやや多かった。10月中旬の富有の発生ほ場率は69%と平年よりやや少なく、全体としては平年並の発生となった。	薬剤による防除が徹底された。	展葉期（4月下旬）と6、8月に定期的に防除を実施。
和歌山県	カキ	角斑落葉病	9～11月	多	初発は8月と早く、9月中旬の発生ほ場率は富有50%、刀根早生・平核無53%と平年よりやや多かった。10月中旬の発生ほ場率は、富有94%と平年より多かった。	6月2～3日にかけて記録的な大雨となり、主要感染時期に薬剤の効果十分でないほ場があったと考えられた。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
和歌山県	カキ	円星落葉病	9～11月	やや多	9月中旬の発生ほ場率は富有19%、刀根早生・平核無29%と平年より多かった。10月中旬の富有での発生ほ場率は31%と平年よりやや少なかった。全体としてはやや多い発生となった。	6月2～3日にかけて記録的な大雨となり、主要感染時期に薬剤の効果十分でないほ場があったと考えられた。	主要感染時期の5月下旬～7月上旬に重点的な防除を実施。
和歌山県	カキ	灰色かび病	5～6月	やや多	6月中旬の果実の発生ほ場率は富有75%、刀根早生・平核無53%とやや多い発生となった。	富有の落弁期である5月下旬に降雨が多かった。	基幹防除は行われていない。一部のほ場で臨機防除が実施された。
和歌山県	カキ	カキノヘタムシガ	5～10月	並	8月中旬の発生ほ場率は富有0%、刀根早生・平核無0%、9月中旬の発生ほ場率は、富有0%、刀根早生・平核無0%で平年並の発生となった。	薬剤による防除が徹底された。	幼虫発生期の6月上旬、8月上旬に防除を実施。
和歌山県	カキ	ハマキムシ類	5～10月	やや少	6月から被害果実がみられ、9月中旬の発生ほ場率は、富有6%、刀根早生・平核無6%で、平年よりやや少ない発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	6月～8月に防除を実施。
和歌山県	カキ	フジコナカイガラムシ	4～10月	やや少	9月中旬の発生ほ場率は富有44%、刀根早生・平核無24%と平年並であった。10月中旬の発生ほ場率は富有25%と平年より少なかった。全体としてはやや少ない発生であった。	薬剤による防除が徹底された。気象条件等による。	冬の粗皮削り、越冬世代の4月上旬中および第1世代幼虫の孵化時期である6月中旬に防除を重点的に実施。有機リン系薬剤やネオニコチノイド系薬剤が主体である。

都道府県	農作物名	有害動植物名	発生時期	発生量	発生過程の概要	発生原因の解析	防除の概要
和歌山県	カキ	カメムシ類	5～10月	並	9月中旬の被害果の発生ほ場率は富有13%、刀根早生・平核無0%で平年よりやや少なかった。10月中旬の被害果の発生ほ場率は、富有63%で平年並で、全体としては平年並の発生となった。	チャバネアオカメムシの越冬量はやや少なかった。予察灯への飛来は8月4半旬から9月下旬まで平年より多く推移したが、ほ場への飛来は多くなかったと推察される。	8月下旬から9月に臨機防除を実施。
和歌山県	カキ	チャノキイロアザミウマ	4～10月	並	8月中旬の発生ほ場率は、刀根早生・平核無18%と平年並の発生であった。	薬剤による防除が徹底された。	5月、6月に防除を実施。
和歌山県	カキ	カキクダアザミウマ	4～10月	並	6月中旬の被害葉の発生ほ場率は、富有0%、刀根早生・平核無0%であった。	近年の発生は少ない。	5月、7月に防除を実施。
和歌山県	モモ	せん孔細菌病	4～8月	やや少	4月の枝における発生ほ場率は0%（平年24%）、発病枝率は0.0%（平年1.2%）で平年に比べ発生はやや少なかった。6月の袋かけ時期は葉では平年並、果実の発病はやや少なかった。7月の葉における発生ほ場率は80%（平年90%）、発病率は6.0%（平年10.5%）で平年に比べやや低かった。収穫期の発病率は0%（平年8.5%）であった。8月の発病率は14.4%（平年21.8%）であった。	春先の伝染源となる本年4月での発病枝の発生はほとんど認められなかったが、その後の降雨は、4月～5月で多く、葉での発病は平年並となった。梅雨入りが早く、6月2日に大雨となったが、収穫期までの降雨量は少ない～平年並で、収穫時の果実での発生はやや少ない発生となった。	秋期と開花前の無機銅水和剤、生育期の抗生物質剤を中心とした薬剤防除を実施。春型発病枝の剪除を実施。風当たりの強い園では、防風ネットや防風樹による防風対策を実施。
和歌山県	モモ	灰星病	5～7月	並	発生はほとんどみられなかった。	薬剤による慣行防除が徹底された。	袋かけ前2～3回、袋かけ後2回の防除を実施。
和歌山県	モモ	シンクイムシ類	5～9月	やや多	ナシヒメシンクイによる新梢への被害は6月より漸増し、7月の枝での発生ほ場率は80%で、やや多い発生となった。果実への被害は見られなかった。	気象条件による。	4月上中旬（落弁期）～収穫前にかけて定期的に防除を実施。
和歌山県	モモ	カメムシ類	5～8月	並	予察灯へのチャバネアオカメムシやツヤアオカメムシの誘殺数は5～7月は少なく、全般的にモモ園への飛来は平年並に少なかった。	チャバネアオカメムシの越冬量はやや少であった。	モモ園への飛来を警戒して、一部の園場でカメムシを対象とした薬剤散布が実施された。
和歌山県	モモ	ハダニ類	5～8月	やや多	カンザフハダニなどの発生は、6月から発生し、7月の発生ほ場率は60%（平年36%）とやや多く、生息葉率もやや多かった。	気象条件による。	ハダニ類を対象とした基幹防除は行われていない。
和歌山県	ウメ	黒星病	5～7月	多	予察ほ場の無防除樹における初発は5月中旬と平年並であった。一般防除園での6月の発生ほ場率は46%（平年22%）、発病率は1.3%（平年0.6%）で平年より多い発生であった。	主感染時期である4月の降水量がやや多かったことによる。	DMI剤、水和硫黄剤等により防除。
和歌山県	ウメ	かいよう病	3～7月	並	6月の発生ほ場率は46%（平年45%）、発病率は1.5%（平年1.7%）で平年並の発生であった。		発芽前に無機銅剤、生育期に抗生物質剤により防除。
和歌山県	ウメ	すす斑病	6～7月	並	一般防除園での6月中旬の発病率は31.4%（過去2年の平均23.9%）で平年並の発生であった。		DMI剤等により防除。
和歌山県	ウメ	ウメシロカイガラムシ	4～9月	並	本年の発生時期は6月の発生ほ場率は56%（平年53%）と平年並の発生であった。	気象条件による。	第1世代幼虫発生前または初期にIGR剤により防除。
和歌山県	ウメ	コスカンバ	4～11月	少	6月の発生ほ場率10%（平年25%）と平年より少ない発生であった。	気象条件による。	フェロモン剤で防除。多発園は枝幹散布剤や捕殺も併用。
和歌山県	ウメ	アブラムシ類	3～7月	やや少	被害新梢率は低く、6月の発生ほ場率は10%（平年15%）と平年よりやや少ない発生であった。		発芽期にネオニコチノイド剤等で防除。
和歌山県	ウメ	ハダニ類	4～7月	やや多	6月の発生ほ場率は81%（平年54%）、被害率は9.3%（平年6.3%）と平年よりやや多い発生であった。	気象条件による。	発生に応じて殺ダニ剤で防除。
和歌山県	ウメ	カメムシ類	4～7月	少	越冬成虫の飛来数が少なく、果実被害はほとんどみられなかった。		防除は行われなかった。
和歌山県	キウイフルーツ	かいよう病	2～6月	並	調査期間中の葉での発病は認められなかった。	気象条件による。	発生地域では剪定に使用するハサミやノコギリの消毒。収穫後、発芽前及び生育期に無機銅剤の散布が行われた。

VII. 作物病害虫の発生状況調査

1. 水稻の生育概況

1. 水稻作付面積の推移（近畿農政局調べ）

	令和元年 (ha)	令和2年 (ha)	令和3年 (ha)	令和4年 (ha)	令和5年 (ha)	前年比 (%)
作付面積	6,360	6,250	6,100	5,980	5,780	97.00

・水稻作付面積は徐々に減少している。

2. 作況および1等米比率の年次推移（近畿農政局調べ）

項 目	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
穂 数 (本)	351	335	337	345	329
1 穂 粃 数 (粒)	80.9	81.5	84.0	83.2	84.2
m ² 当たり全粃数 (千粒)	284	273	283	287	277
玄米千粒重 (g)	21.6	20.9	22.3	22.2	22.3
玄米収量 (kg/10a)	494	462	497	519	506
作 況 指 数	99	92	100	105	103
1 等 米 比 率 (%)	30.3	26.1	46.7	26.9	28.7

注) 令和5年の1等米比率は令和5年12月31日在、その以外は確定値。

・令和5年は平年に比べて穂数は少なく、1穂当たり粃数はやや多く、全粃数はやや少なくなった。登熟はやや良となり、玄米収量は506kg/10aとなった。1等米比率は28.7%であった。

3. 作業時期および出穂期の年次推移（近畿農政局調べ）

項 目	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
田 植 期	6月4日	6月6日	6月5日	6月5日	6月4日
出 穂 期	8月8日	8月6日	8月7日	8月5日	8月4日
刈 取 期	9月19日	9月17日	9月19日	9月20日	9月17日

・令和5年は平年に比べて出穂期は2日早く、刈取期も2日早かった。

4. 品種の作付動向

種類	熟期	品 種 名	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		前年 比率 (%)
			面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	面積 (ha)	比率 (%)	
う る ち	極早	ハナエチゼン	35	0.6	36	0.6	39	0.7	44	0.8	113
	極早	イクヒカリ	289	4.6	264	4.3	251	4.2	238	4.1	95
	極早	キヌヒカリ	2,805	44.9	2,645	43.4	2,510	42.0	2,351	40.7	94
	極早	コシヒカリ	603	9.6	597	9.8	574	9.6	541	9.4	94
	極早	つや姫	26	0.4	22	0.4	22	0.4	19	0.3	86
	早生	にじのきらめき	-	-	-	-	22	0.4	91	1.6	414
	早生	ミネアサヒ	138	2.2	138	2.3	126	2.1	103	1.8	82
	中生	きぬむすめ	1,120	17.9	1,212	19.9	1,310	21.9	1,368	23.7	104
	晩生	ヒノヒカリ	478	7.6	489	8.0	492	8.2	485	8.4	99
も ち	晩生	にこまる	142	2.3	169	2.8	202	3.4	216	3.7	107
		その他	510	8.2	432	7.1	342	5.7	243	4.2	71
		モチミノリ	90	1.4	82	1.3	77	1.3	70	1.2	91
		その他	14	0.2	14	0.2	13	0.2	11	0.2	85
作 付 面 積 計			6,250	100	6,100	100	5,980	100	5,780	100	97

注) 品種別作付面積は果樹園芸芸課調べ。 作付面積計は近畿農政局調べ。

5. 栽培上の変化

- ・令和5年3月末に「ミネアサヒ」を奨励品種から除外した。
- ・令和4年2月に奨励品種に採用した「にじのきらめき」の作付けが増加。

6. 気象概況、生育状況、被害程度、検査等級

- 1) 6月2日に梅雨前線が本州付近に停滞し、台風2号の影響もあり大雨となり県中・北部の多くの水田が冠水した。また、中山間部では土砂崩れがあり土砂の侵入により作付けができない水田もあった。
- 2) 田植え後の気温は、6月上旬から中下旬にかけて最低気温が平年を下回ったものの、6月中旬以降の最高気温は概して平年を上回った。日照時間は、6月上旬から中旬、8月中旬に平年を下回る時期もあったものの、平年を上回る時期が多く、特に7月中旬から8月上旬には大きく上回った。降水量は、8月中旬に平年を上回ったが、概して平年を下回った。
- 3) 水稻の作柄は初期分げつが抑制され穂数が少なくなった影響等により全もみ数は「やや少ない」となった。登熟は、出穂期以降はおおむね天候に恵まれたことや全もみ数がやや少なくなったことによる補償作用等により「やや良」となった。10a当たり収量は506kgとなった。農家等が使用しているふるい目幅ベース(1.80mm)の作況指数は103の「やや良」となった。
- 4) 以上の結果、県内の水稻の収穫量(主食用)は2万9,200tとなり、前年産に比べ1,800t減少した。
- 5) 水稻うるち玄米の検査等級は令和5年12月31日現在で、1等:28.7%、2等:55.4%、3等:14.3%、規格外:1.6%であった。また、2等以下に格付された理由は形質:59.6%、着色粒:21.9%、整粒不足:17.2%等であった。

2. 予察ほ場などにおける定点調査

1) 水稲予察ほ場調査

(1) 休閑田におけるツマグロヨコバイ・ヒメトビウンカの発生推移と齢構成

調査 月日	調査地点	調査 圃場 数	ツマグロヨコバイ					ヒメトビウンカ				
			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計			平均 虫数	成虫 合計	幼虫合計		
					若齢	中齢	老齢			若齢	中齢	老齢
3.9	紀の川市貴志川町高尾	4	2.3	6	0	0	3	10.3	39	0	0	2
3.9	伊都郡かつらぎ町窪	4	64.8	92	1	4	162	0.3	1	0	0	0
3.9	和歌山市小倉	4	150.8	243	3	23	334	4.0	16	0	0	0
3.28	紀の川市貴志川町高尾	4	26.0	103	0	0	1	11.5	46	0	0	0
3.28	伊都郡かつらぎ町窪	4	92.5	368	0	0	2	1.3	5	0	0	0
3.28	和歌山市小倉	4	98.8	395	0	0	0	4.0	16	0	0	0
4.11	紀の川市貴志川町高尾	4	10.0	36	2	2	0	6.5	26	0	0	0
4.11	伊都郡かつらぎ町窪	3	21.3	60	1	3	0	4.0	12	0	0	0
4.11	和歌山市小倉	2	81.5	157	0	6	0	3.0	6	0	0	0

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数（頭）

(2) 本田（出穂後）における斑点米カメムシ類の発生状況

調査 月日	調査地域	調査 圃場 数	平均 虫数	内訳							
				クモヘリ カメムシ	ホソハリ カメムシ	シラホシ カメムシ	ミナミアオ カメムシ	アカスジ カスミカメ	トゲシラホ シカメムシ	ホソミドリ カメムシ	その他
7.14	紀南地域	4	2.3	4	2	0	0	0	0	0	3
8.9	紀中地域	4	4.8	2	1	0	0	8	0	0	8
8.8	和歌山、海草	4	2.5	0	2	3	0	2	1	2	0
8.9	伊都、那賀	4	12.3	16	3	2	2	19	1	5	1

捕虫網20回振り掬い取りによる捕獲虫数（頭）

(3) ヒメトビウンカ（越冬世代）のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率

調査地点	令和 5年	平年	過去10年の年次推移(%)									
			平成 25年	平成 26年	平成 27年	平成 28年	平成 29年	平成 30年	平成 31年	令和 2年	令和 3年	令和 4年
和歌山市 小倉	1.7 (58)	5.8	10.0	9.1	12.5	4.9	6.0	2.5	4.8	4.1	3.3	0.8
かつらぎ町 窪	1.2 (87)	7.0	16.9	12.0	17.4	4.9	7.9	1.6	2.0	4.0	1.3	1.5

※ヒメトビウンカ採集及び検定は4月上旬～中旬。令和5年は和歌山市およびかつらぎ町で3月28日に採集し、4月10日に検定。

()内の値は検定虫数(単位:頭)

検定:平成25～27年は高比重ラテックス凝集反応法、平成28年以降はDAS-ELISA法で実施。

3. 水稻巡回ほ場調査

調査地域区分

地域 (作型)	市・郡	地域区分	調査地点	調査 ほ場数
紀北 (普通期)	和歌山市	中山間	谷	17
		平坦	直川、和佐関戸、朝日、小瀬田	
	海南市	中山間	次々谷	
		平坦	別院	
	海草郡	山間	紀美野町福田	
	紀の川市	平坦	西三谷、井田、貴志川町丸栖	
	岩出市	平坦	中迫	
	橋本市	中山間	山田	
		平坦	赤塚	
	伊都郡	山間	かつらぎ町下天野	
平坦		かつらぎ町西飯降		
有田郡	平坦	広川町広		
紀中 (普通期)	御坊市	平坦	野口	7
	日高郡	山間	日高川町熊野川	
		中山間	印南町印南原、みなべ町西本庄	
		平坦	日高町高家、日高川町和佐	
田辺市A	山間	龍神村甲斐ノ川		
紀南 (早期)	田辺市B	山間	中辺路町栗栖川	6
	西牟婁郡	中山間	上富田町市ノ瀬	
		平坦	白浜町富田、すさみ町周参見立野	
	新宮市	山間	熊野川町日足神丸	
東牟婁郡	中山間	那智勝浦町中里		

水稻巡回圃場調査の日程

調査場所	第1回	第2回	第3回
和歌山市・海南市・海草郡・岩出市	7/13	8/8	9/7
紀の川市・橋本市・伊都郡	7/12	8/9	9/6
有田郡・御坊市・日高郡・田辺市A	7/11	8/9	9/5
田辺市B・西牟婁郡・新宮市・東牟婁郡	6/13	7/14	8/7

1) 圃場における病害虫の発生状況

圃場における病害の発生状況(第1回)

2023年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	2.0	2.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	3	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	12	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	17	0.2	0.2	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	3	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	7	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
普通期	山間	4	1.0	1.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	5	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	15	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	24	0.2	0.2	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	2	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	6	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
県計	山間	6	0.7	0.7	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	中山間	7	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	平坦	17	0.0	0.0	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-
	計	30	0.1	0.1	-	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	-	-

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

葉いもち(発病度)・紋枯病(発病度)

$$\text{発病度} = \frac{4 \times A + 3 \times B + 2 \times C + D}{4 \times 25(\text{調査株数})} \times 100$$

葉いもち(発病度)

- A: 下葉は枯死し、完全なズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率50%以上)
- B: かなり病斑が見られ、軽いズリコミ症状を呈した株数(病斑面積率10%程度)
- C: 病斑がかなり見られた株数(病斑面積率2%程度)
- D: 病斑がわずかに見られた株数(病斑面積率0.5%程度)

紋枯病(発病度)

- A: 止葉が枯死の症状を呈した株数
- B: 大部分の病斑が止葉の葉鞘まで達しているが、止葉には生色があった株数
- C: 大部分の病斑が第2葉鞘まで達した株数
- D: 病斑が第3葉鞘まで達した株数

圃場における病害の発生状況(第1回)平年値

(2013~2022年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	4.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.3	-	0.1	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.9	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀中) 普通期	山間	0.3	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	3.0	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.8	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	1.3	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
普通期	山間	2.1	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	1.4	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	1.0	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
(紀南) 早期	山間	0.5	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	0.2	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.0	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.2	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
県計	山間	1.6	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	中山間	1.0	-	0.0	0.0	0.1	-	0.0	-	0.0	-	-
	平坦	0.6	-	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-
	計	0.9	-	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0	-	-

圃場における害虫の発生状況(第1回)

2023年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	4.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	1.0	—	0.0	—	0.0	—	3.0
	中山間	3	1.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	3.0
	平坦	12	0.5	0.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	—	0.0	—	0.0	—	0.8
	計	17	1.1	0.1	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	—	0.0	—	0.0	—	1.4
(紀中) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	12.5
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	—	0.0	—	0.0	—	3.6
普通期	山間	4	2.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.5	—	0.0	—	0.0	—	7.8
	中山間	5	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	1.8
	平坦	15	0.4	0.1	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	0.6
	計	24	0.8	0.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	2.0
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	8.5	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	中山間	2	3.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	—	0.0	—	0.0	—	3.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	計	6	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	4.2	—	0.0	—	0.0	—	1.0
県計	山間	6	1.3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.2	0.2	3.2	—	0.0	—	0.0	—	5.2
	中山間	7	1.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	—	0.0	—	0.0	—	2.1
	平坦	17	0.4	0.1	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	—	0.0	—	0.0	—	0.5
	計	30	0.8	0.1	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	—	0.0	—	0.0	—	1.8

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第1回)平年値

(2013~2022年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)※	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2.2	9.8	11.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.4	—	2.6
	中山間	1.7	36.4	19.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	2.0
	平坦	0.9	6.6	12.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	—	0.0	—	0.0	—	0.3
	計	1.2	12.3	13.9	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	0.9
(紀中) 普通期	山間	3.6	4.1	10.2	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.1	—	0.0	—	0.0	—	5.9
	中山間	3.0	27.4	42.4	1.9	0.0	0.6	0.0	0.0	0.4	—	0.0	—	0.0	—	0.0
	平坦	0.7	3.5	12.8	0.1	0.0	1.1	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.1	—	0.0
	計	2.2	10.5	20.5	0.6	0.0	0.7	0.0	0.0	0.2	—	0.0	—	0.0	—	1.7
普通期	山間	2.9	6.9	11.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—	0.2	—	4.2
	中山間	2.2	32.8	28.7	0.7	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	1.2
	平坦	0.9	6.0	12.9	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.4	—	0.0	—	0.0	—	0.2
	計	1.5	11.7	15.8	0.2	0.0	0.2	0.0	0.0	0.3	—	0.0	—	0.0	—	1.1
(紀早南) 期	山間	0.2	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.1	1.1	6.5	—	0.0	—	0.1	—	0.3
	中山間	0.2	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	2.5	—	0.0	—	0.0	—	2.1
	平坦	1.3	0.3	0.5	0.0	0.0	0.0	0.1	0.1	2.1	—	0.0	—	0.0	—	0.3
	計	0.5	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.6	3.7	—	0.0	—	0.0	—	0.9
県計	山間	2.0	4.7	7.4	0.0	0.0	0.1	0.0	0.4	2.2	—	0.0	—	0.2	—	2.9
	中山間	1.6	23.5	20.6	0.5	0.0	0.2	0.0	0.1	0.9	—	0.0	—	0.0	—	1.5
	平坦	0.9	5.3	11.4	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.6	—	0.0	—	0.0	—	0.2
	計	1.3	9.4	12.8	0.1	0.0	0.2	0.0	0.1	1.0	—	0.0	—	0.0	—	1.1

※過去8年の平均

圃場における病害の発生状況(第2回)

2023年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち (株数)	葉いもち (発病度)	穂いもち (穂首)	穂いもち (枝こう)	穂いもち (計)	紋枯病 (株数)	紋枯病 (発病度)	萎縮病 (株数)	縞葉枯病 (株数)	もみ枯細菌病 (株数)	もみ枯細菌病 (穂数)	ばか苗病 (株数)	ごま葉枯病 (株数)	白葉枯病 (株数)	稲こうじ病 (株数)	内えい褐変病 (株数)	内えい褐変病 (穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.5	0.5
	中山間	3	3.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	3.7	7.3
	平坦	12	0.9	0.9	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.4	0.6
	計	17	1.4	1.4	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.0	1.8
(紀中) 普通期	山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	2.5	3.5
	中山間	2	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	7.0	12.0
	平坦	3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	2.0	2.7
	計	7	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	3.6	5.6
普通期	山間	4	1.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.5	2.0
	中山間	5	2.6	2.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	5.0	9.2
	平坦	15	0.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.7	1.0
	計	24	1.2	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.8	2.9
(紀早期)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	中山間	2	4.5	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	平坦	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
	計	6	1.5	1.5	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.0	0.0
県計	山間	6	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.0	1.3
	中山間	7	3.1	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	3.6	6.6
	平坦	17	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	0.6	0.9
	計	30	1.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	-	0.0	-	1.4	2.3

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第2回)平年値

(2013~2022年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	4.5	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
	中山間	1.2	0.0	1.7	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	平坦	1.0	0.0	1.8	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.3
	計	1.4	0.0	1.6	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.3
(紀中) 普通期	山間	1.7	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	1.0
	中山間	5.7	0.0	0.7	0.0	0.4	0.0	0.0	-	0.0	-	1.2
	平坦	2.0	0.0	0.9	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.4
	計	2.9	0.0	0.7	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
普通期	山間	3.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
	中山間	3.0	0.0	1.3	0.0	0.3	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
	平坦	1.2	0.0	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.3
	計	1.9	0.0	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5
(紀早南) 普通期	山間	1.8	4.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
	中山間	2.0	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	1.7
	平坦	0.3	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.0
	計	1.4	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.8
県計	山間	2.6	1.6	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.7
	中山間	2.7	0.0	0.9	0.0	0.2	0.0	0.0	-	0.0	-	1.0
	平坦	1.1	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	0.0	-	0.0	-	0.3
	計	1.8	0.3	1.1	0.0	0.1	0.0	0.0	-	0.0	-	0.5

圃場における害虫の発生状況(第2回)

2023年

作型	地域別	調査筆数	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.5	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	3	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	12	1.2	11.7	2.0	0.2	0.0	0.3	0.2	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.8
	計	17	0.9	8.4	1.5	0.1	0.0	0.2	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.6
(紀中) 普通期	山間	2	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	14.5
	中山間	2	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.5
	平坦	3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	7	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	4.3
普通期	山間	4	1.5	0.0	0.3	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	7.3
	中山間	5	0.2	0.4	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.2
	平坦	15	0.9	9.3	1.6	0.1	0.0	0.5	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.7
	計	24	0.9	5.9	1.0	0.1	0.0	0.5	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	1.7
(紀南) 早期	山間	2	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	—	0.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	2	0.0	0.0	9.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	計	6	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.3	0.2	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	0.0
県計	山間	6	1.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.2	0.2	0.0	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	4.8
	中山間	7	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.1
	平坦	17	0.8	8.2	2.5	0.1	0.0	0.5	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.6
	計	30	0.7	4.7	1.5	0.1	0.0	0.4	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	1.3

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第2回)平年値

(2013~2022年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)※	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	3.5	17.4	17.2	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	3.0
	中山間	1.4	9.7	10.0	0.3	0.0	0.3	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.6
	平坦	2.8	18.9	35.6	0.6	0.0	0.2	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.4
	計	2.6	17.1	28.9	0.5	0.0	0.3	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.8
(紀中) 普通期	山間	1.0	4.4	7.9	3.1	0.1	1.7	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	3.5
	中山間	1.1	13.9	10.7	3.7	0.0	1.4	0.0	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	平坦	2.0	12.6	28.0	2.1	0.0	1.9	0.0	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.1
	計	1.4	10.6	17.3	2.9	0.0	1.7	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	1.0
普通期	山間	2.2	10.9	12.6	1.6	0.0	1.2	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	3.2
	中山間	1.3	11.4	10.2	1.7	0.0	0.7	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.3
	平坦	2.6	17.6	34.1	0.9	0.0	0.6	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.4
	計	2.3	15.2	25.5	1.2	0.0	0.7	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.8
(紀早期) 普通期	山間	2.0	9.9	36.7	0.2	0.0	1.8	0.0	0.0	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	0.0
	中山間	2.1	8.4	17.9	0.0	0.0	0.4	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	1.6
	平坦	2.3	4.1	23.9	0.0	0.0	1.9	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.4
	計	2.1	7.5	26.1	0.1	0.0	1.3	0.1	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.7
県計	山間	2.2	10.6	20.6	1.1	0.0	1.4	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	2.1
	中山間	1.5	10.5	12.4	1.2	0.0	0.6	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.7
	平坦	2.6	16.0	32.9	0.8	0.0	0.7	0.1	0.0	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	0.4
	計	2.3	13.6	25.6	0.9	0.0	0.8	0.0	0.0	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	0.8

※過去8年の平均

圃場における病害の発生状況(第3回)

2023年

作型	地域別	調査筆数	葉いもち(株数)	葉いもち(発病度)	穂いもち(穂首)	穂いもち(枝こう)	穂いもち(計)	紋枯病(株数)	紋枯病(発病度)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(株数)	もみ枯細菌病(穂数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)	内えい褐変病(穂数)
(紀北) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	7.5	8.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.5	2.0
	中山間	3	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	3.0	0.0	0.0	9.7	21.7
	平坦	12	-	-	0.0	0.0	0.0	3.8	5.4	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	9.2	23.1
	計	17	-	-	0.0	0.0	0.0	3.6	4.8	-	-	0.0	0.0	-	0.5	0.0	0.0	8.4	20.4
(紀中) 普通期	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	9.5	1.5	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.0	2.0
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	3.5	3.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.0	5.5
	平坦	3	-	-	0.0	0.0	0.0	1.3	0.7	-	-	0.0	0.0	-	3.3	0.0	0.0	0.7	1.0
	計	7	-	-	0.0	0.0	0.0	4.3	1.6	-	-	0.0	0.0	-	1.4	0.0	0.0	1.1	2.6
普通期	山間	4	-	-	0.0	0.0	0.0	8.5	5.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	1.3	2.0
	中山間	5	-	-	0.0	0.0	0.0	1.4	1.2	-	-	0.0	0.0	-	1.8	0.0	0.0	6.6	15.2
	平坦	15	-	-	0.0	0.0	0.0	3.3	4.5	-	-	0.0	0.0	-	0.7	0.0	0.0	7.5	18.7
	計	24	-	-	0.0	0.0	0.0	3.8	3.9	-	-	0.0	0.0	-	0.8	0.0	0.0	6.3	15.2
(紀早期)	山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	3.0	2.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	4.0	10.5
	中山間	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.5	12.0
	平坦	2	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	13.5	47.5
	計	6	-	-	0.0	0.0	0.0	1.0	0.7	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.0	23.3
県計	山間	6	-	-	0.0	0.0	0.0	6.7	4.0	-	-	0.0	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.2	4.8
	中山間	7	-	-	0.0	0.0	0.0	1.0	0.9	-	-	0.0	0.0	-	1.3	0.0	0.0	6.6	14.3
	平坦	17	-	-	0.0	0.0	0.0	2.9	3.9	-	-	0.0	0.0	-	0.6	0.0	0.0	8.2	22.1
	計	30	-	-	0.0	0.0	0.0	3.2	3.2	-	-	0.0	0.0	-	0.6	0.0	0.0	6.6	16.8

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における病害の発生状況(第3回)平年値

(2013~2022年)

作型(地域)	地域別	葉いもち(株数)	穂いもち(穂数)	紋枯病(株数)	萎縮病(株数)	縞葉枯病(株数)	もみ枯細菌病(病株数)	ばか苗病(株数)	ごま葉枯病(株数)	白葉枯病(株数)	稲こうじ病(株数)	内えい褐変病(株数)
(紀北) 普通期	山間	-	7.6	2.2	-	-	0.1	-	0.0	0.0	0.0	9.5
	中山間	-	0.3	2.7	-	-	0.0	-	1.5	0.0	0.0	6.9
	平坦	-	0.6	4.8	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	8.9
	計	-	1.4	4.1	-	-	0.0	-	0.3	0.0	0.0	8.6
(紀中) 普通期	山間	-	0.3	2.0	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	2.1
	中山間	-	4.6	4.5	-	-	0.0	-	0.0	0.2	0.0	5.6
	平坦	-	0.0	2.3	-	-	0.0	-	0.5	0.0	0.0	3.7
	計	-	1.4	2.8	-	-	0.0	-	0.2	0.0	0.0	3.7
普通期	山間	-	4.0	2.1	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.8
	中山間	-	2.0	3.4	-	-	0.0	-	0.9	0.1	0.0	6.3
	平坦	-	0.5	4.3	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	7.8
	計	-	1.4	3.7	-	-	0.0	-	0.3	0.0	0.0	7.2
(紀南) 早期	山間	-	4.6	1.3	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	6.0
	中山間	-	0.0	0.7	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	10.8
	平坦	-	0.0	0.5	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	10.7
	計	-	1.5	0.8	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	9.1
県計	山間	-	4.2	1.8	-	-	0.0	-	0.0	0.0	0.0	5.8
	中山間	-	1.4	2.6	-	-	0.0	-	0.6	0.0	0.0	7.6
	平坦	-	0.4	3.8	-	-	0.0	-	0.1	0.0	0.0	8.2
	計	-	1.4	3.1	-	-	0.0	-	0.2	0.0	0.0	7.6

圃場における害虫の発生状況(第3回)

2023年

作型	地域別	調査筆数	ツマゲロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	3	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	12	0.3	2.3	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	17	0.3	1.7	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀中) 普通期	山間	2	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	83.0	3.5	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	—	—	1.0	0.0	0.5	—	0.0	—
	平坦	3	3.3	10.7	23.7	0.0	0.0	0.3	0.0	—	—	0.3	0.0	0.7	—	0.0	—
	計	7	25.3	5.7	10.7	0.1	0.0	0.1	0.0	—	—	0.4	0.0	0.4	—	0.0	—
普通期	山間	4	0.3	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	5	33.4	1.6	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	—	—	0.4	0.0	0.2	—	0.0	—
	平坦	15	0.9	4.0	6.9	0.0	0.0	0.1	0.0	—	—	0.1	0.0	0.1	—	0.0	—
	計	24	7.6	2.9	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.1	0.0	0.1	—	0.0	—
(紀早南)	山間	2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2	0.0	7.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	6	0.3	2.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
県計	山間	6	0.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	7	24.1	1.1	0.6	0.1	0.0	0.0	0.0	—	—	0.3	0.0	0.1	—	0.0	—
	平坦	17	0.8	4.4	6.2	0.0	0.0	0.1	0.0	—	—	0.1	0.0	0.1	—	0.0	—
	計	30	6.1	2.8	3.6	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—	0.1	0.0	0.1	—	0.0	—

注:表中の値は調査25株あたりの計数値の平均

圃場における害虫の発生状況(第3回)平年値

(2013~2022年)

作型(地域)	地域別	ツマグロヨコバイ(虫数)	ヒメトビウンカ(虫数)	セジロウンカ(虫数)	トビイロウンカ(虫数)	ニカメイガ(被害株数)	コブノメイガ(被害葉数)	イチモンジセセリ(つと数)	イネミズゾウムシ(虫数)	イネゾウムシ(被害株数)	斑点米カメムシ類(虫数)	フタオビコヤガ(虫数)	アワヨトウ(虫数)	ハモグリバエ(被害株数)	イネシンガレセンチュウ(被害株数)	イナゴ(被害株数)
(紀北) 普通期	山間	4.7	16.9	16.8	15.9	0.0	0.1	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	3.7	11.4	5.3	13.3	0.0	0.3	0.0	—	—	0.0	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2.9	16.6	11.6	11.1	0.0	0.7	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	3.2	15.7	11.1	12.0	0.0	0.6	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀中) 普通期	山間	13.6	6.4	4.0	3.3	0.0	1.8	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	12.7	12.0	11.5	3.7	0.0	8.4	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	1.2	31.6	11.0	2.1	0.0	4.3	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	8.0	18.8	9.2	2.9	0.0	4.8	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
普通期	山間	9.1	11.6	10.4	9.6	0.0	1.0	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	7.3	11.6	7.8	9.4	0.0	3.5	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	平坦	2.5	19.6	11.5	9.3	0.0	1.5	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	4.6	16.6	10.5	9.4	0.0	1.8	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
(紀南) 早期	山間	3.3	3.4	5.0	0.2	0.0	1.9	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	2.8	25.5	42.6	1.0	0.0	5.0	0.0	—	—	0.2	0.2	0.2	—	0.0	—
	平坦	4.0	15.1	11.1	3.3	0.0	0.3	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	3.3	14.6	19.5	1.5	0.0	2.4	0.0	—	—	0.1	0.1	0.1	—	0.0	—
県計	山間	7.2	8.9	8.6	6.5	0.0	1.3	0.0	—	—	0.1	0.0	0.0	—	0.0	—
	中山間	6.0	15.6	17.7	7.0	0.0	3.9	0.0	—	—	0.1	0.1	0.0	—	0.0	—
	平坦	2.7	19.1	11.4	8.6	0.0	1.3	0.0	—	—	0.3	0.0	0.0	—	0.0	—
	計	4.4	16.2	12.3	7.8	0.0	1.9	0.0	—	—	0.2	0.0	0.0	—	0.0	—

2) 主要病害虫の発生程度別面積

主要病害の発生程度別面積(第1回)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3770	発生面積	444	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	444	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
紀中 (普通期) 1228	発生面積	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
普通期計 4998	発生面積	444	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	444	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
紀南 (早期) 982	発生面積	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
県計 5980	発生面積	444	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	甚	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	多	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	中	0	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—
	少	444	—	0	0	0	—	0	0	0	—	—

発生程度基準: 葉いもち: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $<$ 23
穂いもち: 25株あたり病穂数、少 \leq 50、50 $<$ 中 \leq 200、200 $<$ 多 \leq 350、甚 $<$ 350
紋枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $<$ 23
萎縮病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 17、甚 $<$ 17
縞葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 17、甚 $<$ 17
もみ枯細菌病: 25株あたり病株数、少 \leq 3、3 $<$ 中 \leq 8、8 $<$ 多 \leq 15、甚 $<$ 15
ばか苗病: 25株あたり病株数、少 \leq 1、1 $<$ 中 \leq 3、3 $<$ 多 \leq 7、甚 $<$ 7
ごま葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 10、10 $<$ 中 \leq 18、18 $<$ 多 \leq 23、甚 $<$ 23
白葉枯病: 25株あたり病株数、少 \leq 12、12 $<$ 中 \leq 20、20 $<$ 多 \leq 25、甚 $<$ 25
稲こうじ病: 25株あたり病株数、少 \leq 1、1 $<$ 中 \leq 3、3 $<$ 多 \leq 7、甚 $<$ 7
内えい褐変病: 25株あたり病株数、少 \leq 5、5 $<$ 中 \leq 10、10 $<$ 多 \leq 20、甚 $<$ 20

主要害虫の発生程度別面積(第1回)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イチモンジセセリ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ類	フタオビコヤガ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 3770	発生面積	1109	444	887	0	0	0	222	0	887	—	0	—	0	—	1331	2883		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	222	0		
	少	1109	444	887	0	0	0	222	0	887	—	0	—	0	—	1109	2883		
紀中 (普通期) 1228	発生面積	0	0	0	0	0	0	0	0	175	—	0	—	0	—	351	877		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	175	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	175	0		
	少	0	0	0	0	0	0	0	0	175	—	0	—	0	—	0	877		
普通期計 4998	発生面積	1109	444	887	0	0	0	222	0	1062	—	0	—	0	—	1681	3760		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	175	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	397	0		
	少	1109	444	887	0	0	0	222	0	1062	—	0	—	0	—	1109	3760		
紀南 (早期) 982	発生面積	164	0	0	0	0	0	0	164	982	—	0	—	0	—	327	164		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	327	—	0	—	0	—	0	0		
	少	164	0	0	0	0	0	0	164	655	—	0	—	0	—	327	164		
県計 5980	発生面積	1272	444	887	0	0	0	222	164	2044	—	0	—	0	—	2009	3924		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	—	0	—	175	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	327	—	0	—	0	—	397	0		
	少	1272	444	887	0	0	0	222	164	1717	—	0	—	0	—	1436	3924		

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第1回)少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

ヒメトビウンカ:25株あたり虫数、少≤50、50<中≤125、125<多≤250、甚<250

セジロウンカ:25株あたり虫数、少≤250、250<中≤1250、1250<多≤2500、甚<2500

トビイロウンカ:25株あたり虫数、少≤125、125<中≤525、525<多≤1250、甚<1250

ニカメイガ:25株あたり被害株数、少≤7、7<中≤15、15<多≤22、甚<22

コブノメイガ:25株あたり被害葉数、少≤20、20<中≤60、60<多≤180、甚<180

イチモンジセセリ:25株あたりつと数、少≤10、10<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネミズゾウムシ:25株あたり虫数、少≤5、5<中≤20、20<多≤40、甚<40

イネゾウムシ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

フタオビコヤガ:25株あたり虫数、少≤25、25<中≤100、100<多≤250、甚<250

ハモグリバエ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

イナゴ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

主要病害の発生程度別面積(第2回)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3770	発生面積	1552	0	222	0	0	0	0	-	0	-	665
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	222
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	少	1552	0	222	0	0	0	0	-	0	-	444
紀中 (普通期) 1228	発生面積	702	0	0	0	0	0	0	-	0	-	877
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	175
	少	702	0	0	0	0	0	0	-	0	-	702
普通期計 4998	発生面積	2254	0	222	0	0	0	0	-	0	-	1542
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	222
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	175
	少	2254	0	222	0	0	0	0	-	0	-	1145
紀南 (早期) 982	発生面積	164	0	164	0	0	0	0	-	0	-	0
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	少	164	0	164	0	0	0	0	-	0	-	0
県計 5980	発生面積	2418	0	385	0	0	0	0	-	0	-	1542
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	222
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	0	-	175
	少	2418	0	385	0	0	0	0	-	0	-	1145

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第2回)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマグロヨコバイ	ヒメトビウンカ	セジロウンカ	トビイロウンカ	ニカメイガ	コブノメイガ	イチモンジセセリ	イネミズゾウムシ	イネゾウムシ	斑点米カメムシ類	フタオビコヤガ	アワヨトウ	ハモグリバエ	イネシンガレセンチュウ	イナゴ	スクミリンゴガイ		
		発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多	中	少	発生面積	甚	多
紀北 (普通期) 3770	発生面積	1331	1552	1109	222	0	444	444	0	—	0	0	0	—	0	665	2883		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	少	1331	1552	1109	222	0	444	444	0	—	0	0	0	—	0	665	2883		
紀中 (普通期) 1228	発生面積	351	0	0	0	0	526	0	0	—	351	0	0	—	0	526	877		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	175	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	175	0		
	少	351	0	0	0	0	526	0	0	—	351	0	0	—	0	175	877		
普通期計 4998	発生面積	1681	1552	1109	222	0	970	444	0	—	351	0	0	—	0	1192	3760		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	175	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	175	0		
	少	1681	1552	1109	222	0	970	444	0	—	351	0	0	—	0	841	3760		
紀南 (早期) 982	発生面積	0	0	327	0	0	327	164	0	—	164	0	0	—	0	0	164		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	少	0	0	327	0	0	327	164	0	—	164	0	0	—	0	0	164		
県計 5980	発生面積	1681	1552	1436	222	0	1297	607	0	—	515	0	0	—	0	1192	3924		
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	0	0		
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	175	0		
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	—	0	0	0	—	0	175	0		
	少	1681	1552	1436	222	0	1297	607	0	—	515	0	0	—	0	841	3924		

発生程度基準: ツマグロヨコバイ:25株あたり虫数、(第2回)少≤125、125<中≤375、375<多≤750、甚<750

斑点米カメムシ類:25株あたり虫数、少≤1、1<中≤4、4<多≤10、甚<10

アワヨトウ:25株あたり虫数、少≤10、10<中≤30、30<多≤100、甚<100

シンガレセンチュウ:25株あたり被害株数、少≤5、5<中≤12、12<多≤20、甚<20

その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(第3回)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉いもち	穂いもち	紋枯病	萎縮病	縞葉枯病	もみ枯細菌病	ばか苗病	ごま葉枯病	白葉枯病	稲こうじ病	内えい褐変病
紀北 (普通期) 3770	発生面積	-	0	1774	0	-	0	0	222	0	0	3548
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	1109
	中	-	0	665	0	-	0	0	0	0	0	1552
	少	-	0	1109	0	-	0	0	222	0	0	887
紀中 (普通期) 1228	発生面積	-	0	702	0	-	0	0	175	0	0	702
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	175	0	-	0	0	0	0	0	0
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	少	-	0	526	0	-	0	0	175	0	0	702
普通期計 4998	発生面積	-	0	2476	0	-	0	0	397	0	0	4250
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	175	0	-	0	0	0	0	0	1109
	中	-	0	665	0	-	0	0	0	0	0	1552
	少	-	0	1635	0	-	0	0	397	0	0	1589
紀南 (早期) 982	発生面積	-	0	327	0	-	0	0	0	0	0	818
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	491
	中	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	164
	少	-	0	327	0	-	0	0	0	0	0	164
県計 5980	発生面積	-	0	2803	0	-	0	0	397	0	0	5068
	甚	-	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0
	多	-	0	175	0	-	0	0	0	0	0	1600
	中	-	0	665	0	-	0	0	0	0	0	1716
	少	-	0	1962	0	-	0	0	397	0	0	1752

発生程度基準: 第1回発生面積の基準に同じ

主要害虫の発生程度別面積(第3回)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑点	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク	
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノ	モン	ミズ	ゾ	米	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミ	リン
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	メイ	ジ	ウ	ウ	カ	コ	ト	バ	ガ	レ	ン	ゴ
		バイ	ン	ン	ン		ガ	セ	ム	ム	メ	ヤ	ウ	エ	レ	セ	ン	ガ
			カ	カ	カ			セ	シ	シ	ム	ガ			セ	ン	ン	イ
								リ			シ				ン	ン	ン	イ
											類				ン	ン	ン	イ
															ン	ン	ン	イ
															ン	ン	ン	イ
紀北 (普通期) 3770	発生面積	444	1552	887	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	444	1552	887	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
紀中 (普通期) 1228	発生面積	702	877	702	175	0	175	0	-	-	526	0	351	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	175	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	526	877	702	175	0	175	0	-	-	526	0	351	-	0	-	-	
普通期計 4998	発生面積	1145	2429	1589	175	0	175	0	-	-	526	0	351	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	175	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	970	2429	1589	175	0	175	0	-	-	526	0	351	-	0	-	-	
紀南 (早期) 982	発生面積	164	164	164	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	164	164	164	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
県計 5980	発生面積	1309	2593	1752	175	0	175	0	-	-	526	0	351	-	0	-	-	
	甚	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	多	0	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	中	175	0	0	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	
	少	1133	2593	1752	175	0	175	0	-	-	526	0	351	-	0	-	-	

発生程度基準: ツマグロヨコバイは第2回発生面積の基準に同じ
 その他害虫は第1回発生面積の基準に同じ

主要病害の発生程度別面積(年計)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		葉 い もち	穂 い もち	紋 枯 病	萎 縮 病	縞 葉 枯 病	も み 枯 細 菌 病	ば か 苗 病	ご ま 葉 枯 病	白 葉 枯 病	稲 こ う じ 病	内 え い 褐 変 病
紀北 (普通期) 3770	発生面積	1552	0	1774	0	0	0	0	222	0	0	3548
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1109
	中	0	0	665	0	0	0	0	0	0	0	1552
	少	1552	0	1109	0	0	0	0	222	0	0	887
紀中 (普通期) 1228	発生面積	702	0	702	0	0	0	0	175	0	0	877
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175
	少	702	0	526	0	0	0	0	175	0	0	702
普通期計 4998	発生面積	2254	0	2476	0	0	0	0	397	0	0	4425
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	1109
	中	0	0	665	0	0	0	0	0	0	0	1728
	少	2254	0	1635	0	0	0	0	397	0	0	1589
紀南 (早期) 982	発生面積	164	0	327	0	0	0	0	0	0	0	818
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	491
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	164
	少	164	0	327	0	0	0	0	0	0	0	164
県計 5980	発生面積	2418	0	2803	0	0	0	0	397	0	0	5244
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	175	0	0	0	0	0	0	0	1600
	中	0	0	665	0	0	0	0	0	0	0	1891
	少	2418	0	1962	0	0	0	0	397	0	0	1752

主要害虫の発生程度別面積(年計)

2023年

単位:ha

地域 (作型) 面積		ツマ	ヒメ	セジ	トビ	ニカ	コブ	イチ	イネ	イネ	斑	フタ	アワ	ハモ	イネ	イナ	スク
		グロ	トビ	ロウ	イロ	メイ	ノ	モン	ミズ	ネ	点	オビ	ヨト	グリ	シン	ゴ	ミリン
		コ	ウ	ン	ウ	ガ	メイ	ジ	ズ	ム	米	コ	バ	ガ	ガ	レ	ン
		バイ	ン	カ	ン		ガ	セ	ウ	シ	カ	ヤ	エ	レ	セ	ン	ゴ
		イ	カ		カ			セ	ム		メ	ガ		セ	チ	ゴ	イ
								リ	シ		ム			ユ			
											シ			ウ			
											類						
紀北 (普通期) 3770	発生面積	1331	1552	1109	222	0	444	444	0	887	0	0	0	0	0	1331	2883
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	222	0
	少	1331	1552	1109	222	0	444	444	0	887	0	0	0	0	0	1109	2883
紀中 (普通期) 1228	発生面積	702	877	702	175	0	526	0	0	175	526	0	351	0	0	526	877
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175	0
	中	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175	0
	少	526	877	702	175	0	526	0	0	175	526	0	351	0	0	175	877
普通期計 4998	発生面積	2032	2429	1811	397	0	970	444	0	1062	526	0	351	0	0	1857	3760
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175	0
	中	175	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	397	0
	少	1857	2429	1811	397	0	970	444	0	1062	526	0	351	0	0	1284	3760
紀南 (早期) 982	発生面積	164	164	327	0	0	327	164	164	982	164	0	0	0	0	327	164
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中	0	0	0	0	0	0	0	0	327	0	0	0	0	0	0	0
	少	164	164	327	0	0	327	164	164	655	164	0	0	0	0	327	164
県計 5980	発生面積	2196	2593	2138	397	0	1297	607	164	2044	690	0	351	0	0	2184	3924
	甚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	多	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	175	0
	中	175	0	0	0	0	0	0	0	327	0	0	0	0	0	397	0
	少	2021	2593	2138	397	0	1297	607	164	1717	690	0	351	0	0	1612	3924

4. 予察灯・フェロモントラップ等による水稻主要害虫の誘殺状況

1) 予察灯 (60W白熱灯)

単位：頭

月 半月	ツマグロヨコバイ						ヒメトビウンカ						セジロウンカ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.3	0	0.0	0	0.1	0	0.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.1
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.2
5 3	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	0.2
5	0	0.0	0	0.9	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.1
6	19	0.3	0	0.3	0	1.1	0	0.0	0	0.0	1	0.6	0	0.0	0	0.1	0	0.1
1	26	1.3	0	0.7	0	1.0	2	0.4	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7
2	12	2.6	0	0.0	0	1.4	0	0.3	0	0.2	0	0.4	0	0.2	0	0.1	7	0.3
6 3	26	1.5	0	0.0	0	4.2	0	0.5	0	0.1	0	0.2	0	0.9	1	1.1	5	2.1
4	0	0.1	0	0.5	1	3.0	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	1.6	0	2.4	0	6.7
5	3	0.3	0	0.9	0	3.2	0	0.2	2	0.2	0	0.6	0	0.3	1	0.8	0	6.4
6	6	0.2	0	0.2	7	2.8	0	0.3	0	0.7	0	0.1	1	1.2	0	3.0	0	3.5
1	0	0.1	0	1.6	10	29.0	0	0.3	1	0.0	0	0.3	0	3.0	6	42.0	12	18.4
2	2	0.1	0	2.5	23	28.0	9	0.8	0	0.0	0	0.8	23	3.9	7	3.1	21	10.8
7 3	5	1.2	4	3.7	13	57.5	0	0.5	0	0.9	1	5.5	4	1.8	4	10.5	0	8.9
4	11	1.0	0	11.2	5	77.5	2	0.7	0	0.1	0	1.6	0	5.1	3	7.9	0	6.1
5	8	4.4	1	4.1	14	51.7	0	0.9	0	0.4	0	1.3	0	7.1	0	3.5	2	18.0
6	18	5.6	0	3.8	24	56.2	0	0.8	0	1.2	0	1.5	1	5.2	4	5.2	0	16.0
1	10	2.0	0	3.6	25	21.1	1	4.3	0	4.6	0	11.0	0	4.2	1	8.8	3	15.3
2	7	2.5	0	2.0	7	18.3	3	4.7	5	1.5	5	3.4	0	23.0	1	11.6	4	17.8
8 3	10	4.8	1	1.4	42	40.8	12	3.6	5	0.5	5	9.7	7	17.4	2	4.2	2	29.6
4	9	2.8	0	0.6	161	43.9	19	3.7	3	3.0	3	9.3	16	27.0	3	24.6	0	102.6
5	2	1.8	0	0.5	28	38.8	1	4.1	1	0.3	15	2.2	3	28.3	1	9.4	0	75.8
6	1	2.7	0	0.6	14	33.8	1	4.9	0	1.5	1	8.0	2	22.2	5	16.7	5	177.7
合 計	175	35.8	6	39.3	374	513.6	50	31.4	17	15.3	31	57.5	57	152.5	39	155.5	61	517.8

単位：頭

月 半旬	トビイロウンカ						ニカメイガ						イネミズゾウムシ					
	紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町		紀の川市		上富田町		那智勝浦町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0	0	0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4 3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	3.5	0	0.1
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.2	0	0.3
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	2.2	3	0.9
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.7	0	1.3
1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	8.8	3	1.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	3.4	12	3.2
5 3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	9.4	1	9.3
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	6	3.5	9	1.4
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	2.0	1	2.2
6	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	1	3.2	1	1.0
1	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.7	0	0.4
2	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.8
6 3	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.9
4	0	0.0	0	0.2	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	0.5
5	0	0.0	0	0.1	0	0.5	0	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.4
6	0	0.1	0	0.3	0	2.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	1.1
1	0	0.2	0	15.8	0	4.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	2.8
2	0	0.4	0	0.4	1	9.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.0	17	8.1
7 3	0	0.5	0	0.9	0	3.4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.8	0	6.9
4	0	1.0	1	0.1	0	1.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	11	0.9	9	11.9
5	0	0.1	0	0.3	0	0.8	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	5	0.7	7	6.4
6	0	0.3	0	0.2	0	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.0	6	7.1
1	0	0.4	0	0.9	1	0.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	1.1	5	3.4
2	0	1.1	0	1.2	0	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	7	3.3
8 3	0	1.3	0	0.6	0	2.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.4	1	1.2
4	1	1.0	0	0.9	0	7.7	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.0	1	0.8	0	0.7
5	0	2.6	1	4.0	0	9.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.1	0	0.4
6	0	24.3	0	52.2	0	41.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.2	0	0.2
合 計	1	33.4	2	78.4	2	86.5	0	0.4	0	0.0	0	0.1	0	0.2	36	50.2	83	77.3

斑点米カメムシ類

紀の川市

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメム シ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 6	0	0	0	0	0	0	1	11	0
1	0	0	0	0	0	0	0	14	0
2	0	0	0	0	0	0	0	8	0
6 3	0	0	0	0	0	0	1	4	0
4 4	0	0	0	0	0	0	2	0	0
5 5	0	0	0	0	0	0	7	2	0
6 6	0	0	0	0	0	0	9	12	0
1	0	0	0	0	0	1	2	3	0
2	0	0	0	0	0	2	5	11	0
7 3	0	0	0	0	0	0	2	3	0
4 4	0	0	0	0	0	0	12	1	1
5 5	0	0	0	0	0	0	7	0	1
6 6	2	0	0	0	0	0	4	3	0
1	11	0	1	0	0	0	13	8	0
2	72	0	2	0	0	0	9	12	0
8 3	56	0	1	0	0	1	16	7	0
4 4	33	1	1	0	0	2	16	13	0
5 5	5	0	0	0	0	0	15	11	0
6 6	2	0	0	0	0	0	8	0	0
合 計	181	1	5	0	0	6	129	123	2

上富田町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメム シ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	0	0
5	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	0	0
	6	0	0	0	0	0	1	0	0
6	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	2	2	0
	4	0	0	0	0	0	2	0	0
	5	0	0	0	0	0	6	1	0
	6	0	0	0	0	0	3	1	0
7	1	0	0	0	0	0	8	1	0
	2	0	0	0	0	0	2	1	0
	3	0	0	0	0	0	1	0	1
	4	0	0	0	0	0	2	0	1
	5	0	0	0	0	0	1	0	2
	6	0	0	0	0	0	1	0	0
8	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	1	0	1	0	0	0	2	0
	3	0	0	0	0	1	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	1	0	0
	6	1	0	0	0	0	0	0	1
合 計	2	0	1	0	0	1	31	8	5

那智勝浦町

単位：頭

月 半旬	クモヘ リカメ ムシ	ホソハ リカメ ムシ	シラホ シカメ ムシ	トゲシ ラホシ カメム シ	アオク サカメ ムシ	ミナミ アオカ メムシ	アカス ジカス ミカメ	ホソミ ドリカ スミカ メ類	イネカ メムシ
4	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	5	0	0	0	0	0	0	1	0
	6	0	1	0	0	0	0	2	0
5	1	0	1	0	0	0	0	0	0
	2	0	0	0	0	0	4	0	0
	3	0	0	0	0	0	0	0	0
	4	0	0	0	0	0	1	0	0
	5	0	0	0	0	0	2	0	0
	6	0	0	0	0	0	0	1	0
6	1	0	0	0	0	0	4	0	0
	2	0	0	0	0	0	11	0	0
	3	0	0	0	0	0	37	4	0
	4	0	0	0	0	0	43	0	0
	5	0	0	0	0	0	1	51	2
	6	3	0	0	0	0	1	74	3
7	1	3	0	0	0	1	61	3	0
	2	2	0	0	0	0	102	1	0
	3	0	0	0	0	0	123	2	2
	4	1	0	0	0	0	79	8	6
	5	0	0	0	0	0	61	11	10
	6	3	0	0	0	0	74	4	19
8	1	8	0	0	0	1	86	12	16
	2	5	1	0	0	16	63	4	8
	3	2	2	0	0	3	50	5	2
	4	1	2	0	0	16	89	15	13
	5	0	3	0	0	3	132	20	5
	6	1	0	0	0	1	194	17	9
合 計	29	10	0	0	0	43	1344	112	90

2) フェロモントラップ

ニカメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.1
	2	0	0.8
4	3	0	0.7
	4	0	0.5
	5	0	1.0
	6	0	0.4
<hr/>			
	1	0	0.6
	2	0	0.3
5	3	0	0.3
	4	0	0.3
	5	0	0.3
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.0
6	3	0	0.2
	4	0	0.6
	5	0	0.1
	6	0	0.3
<hr/>			
	1	0	0.3
	2	0	0.4
7	3	0	0.4
	4	0	0.1
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.1
	4	0	0.0
	5	0	0.1
	6	0	0.2
<hr/>			
	1	0	0.0
	2	0	0.0
9	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.1
<hr/>			
合 計		0	8.7

3) 蛍光灯誘殺箱 (15W)

コブノメイガ

紀の川市		単位：頭	
月	半旬	本年	平年
	1	0	0.0
	2	0	0.0
6	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.0
	6	0	0.0
<hr/>			
	1	0	0.1
	2	0	0.0
7	3	0	0.5
	4	0	0.7
	5	0	1.2
	6	0	2.4
<hr/>			
	1	0	2.6
	2	0	2.0
8	3	0	1.7
	4	—	—
	5	—	—
	6	—	—
<hr/>			
合 計		0	11.2

Ⅷ. 野菜病害虫の発生状況調査

1. 巡回調査における発生状況

1) キャベツ

①キャベツにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	黒腐病		菌核病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
4. 21	9	0	0	0	0	11	0.2
10. 24	12	0	0	0	0	-	-
12. 20	13	0	0	0	0	-	-
3. 18	11	-	-	27	1.3	18	2.0

注) 1圃場100株調査

②キャベツにおける害虫の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				コナガ		モンシロチョウ	
		モモアカアブラムシ		ニセダイコンアブラムシ		発生圃場率 (%)	生息密度 (頭/株)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)				
4. 21	9	11	0.6	0	0	0	0	0	0
10. 24	11	0	0	9	3.6	0	0	0	0
3. 18	11	46	6.4	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ヨトウガ		ハスモンヨトウ		ウワバ類		オオタバコガ		シロイチモジヨトウ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)								
4. 21	9	0	0	0	0	22	1.1	0	0	0	0
10. 24	11	18	2.3	18	0.9	9	0.9	0	0	0	0
3. 18	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場20株調査

2) ハクサイ

①ハクサイにおける病害の発生状況（和歌山市）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		軟腐病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10. 24	13	0	0	0	0	0	0
12. 20	12	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	白斑病		黒斑病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
10. 24	13	0	0	0	0
12. 20	12	42	1.7	0	0

注) 1圃場100株調査

3) スイカ

①露地栽培スイカにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.16	12	0	0	0	0	0	0	0	0
6.15	12	0	0	0	0	0	0	17	1.1

②露地栽培スイカにおける病害の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯病		うどんこ病		疫病		炭疽病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病茎率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
5.19	14	0	0	0	0	0	0	0	0
6.15	18	0	0	6	0.1	0	0	83	8.3

注) 1圃場100葉または50茎調査

③露地栽培スイカにおける害虫の発生状況（御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類 ※1		カンザワハダニ		ナミハダニ		シロイチモジヨトウ		
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	被害果率 (%)
4.19	13	62	1.5	77	11.5	0	0	8	0.1	-
5.18	16	75	3.8	63	12.3	13	1.9	13	0.1	0
6.19	17	88	17.5	53	8.1	6	2.8	6	0	0.2

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.19	13	0	0	15	0.4	8	0.2
5.18	16	0	0	6	0.1	0	0
6.19	17	0	0	0	0.0	6	0.1

注) 1圃場100葉、50果調査。被害果調査は果実片面（半球）のみ。

※1 発生種：ワタアブラムシ

4) キュウリ

①施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		斑点細菌病		べと病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.18	10	0	0	0	0	30	2.3	10	0.1
5.16	12	0	0	0	0	50	3.1	20	0.6
6.15	12	0	0	0	0	60	6.6	10	0.4

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.18	10	0	0	0	0	10	0.2
5.16	12	0	0	0	0	10	0.2
6.15	12	0	0	0	0	10	0.2

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

②施設栽培キュウリにおける病害の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化えそ病		斑点細菌病		べと病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.21	13	0	0	15	1.1	0	0	46	18.5
5.19	14	0	0	33	3.7	0	0	83	14.6
3.15	14	0	0	0	0	0	0	36	3.4

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		疫病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
4.21	13	54	10.2	0	0	0	0	0	0
5.19	14	50	11.9	0	0	0	0	0	0
3.15	14	64	4.9	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、50果調査

③施設栽培キュウリにおける害虫の発生状況（美浜町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類		コナジラミ類			
						オンシツコナジラミ		タバココナジラミ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.21	10	0	0	0	0	0	0	60	3.9
5.22	11	18	0.9	18	0.4	0	0	64	10.5
3.21	10	10	0.1	0	0	0	0	70	9.3

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
4.21	10	20	1.7	20	0.7	10	0.1
5.22	11	55	4.7	18	7.7	9	0.5
3.21	10	40	5.1	0	0	0	0

注) 1圃場50株、2葉/株調査

5) ナス

①露地栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
5.16	6	0	0	0	0
6.15	5	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

②施設栽培ナスにおける病害の発生状況（紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病		すすかび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
4.18	10	20	0.4	0	0	0	0
5.16	13	13	1.0	0	0	0	0
6.13	14	21	0.6	0	0	0	0

注) 1圃場50株、100葉、100果調査

③露地栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.16	7	29	3.4	29	0.3	29	0.4	0	0
7.19	9	11	0.1	11	0.1	44	1.3	0	0
8.18	8	0	0	0	0	25	1.0	13	0.1
9.19	7	0	0	14	0.1	14	0.7	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類					
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		ネギアザミウマ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
6.16	7	0	0	0	0	14	0.3
7.19	9	0	0	0	0	0	0
8.18	8	0	0	0	0	0	0
9.19	7	29	0.3	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
		6.16	7	14	0.1
7.19	9	11	0.1	0	0
8.18	8	0	0	0	0
9.19	7	57	0.7	0	0

注) 1圃場中位葉100枚調査

④施設栽培ナスにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類				ハダニ類			
		モモアカアブラムシ		ワタアブラムシ		カンザワハダニ		ナミハダニ	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.17	6	0	0	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	アザミウマ類						ハスモンヨトウ		オオタバコガ	
		ミナミキイロアザミウマ		ミカンキイロアザミウマ		発生圃場率		発生圃場率		発生圃場率	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)								
5.17	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

注) 1圃場中位葉100枚調査

6) トマト・ミニトマト

①露地栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（日高町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		疫病		うどんこ病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病率 (%)
6.16	9	0	0	22	2.9	0	0	0	0
7.21	7	0	0	71	12.9	0	0	29	11.1
8.14	5	0	0	100	29.6	0	0	20	3.2

注) 1圃場50株、50複葉調査

②施設栽培ミニトマトにおける病害の発生状況（御坊市、印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	モザイク病		黄化葉巻病		灰色かび病		葉かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
9.19	11	0	0	0	0	0	0	0	0
10.17	13	0	0	17	1.3	0	0	17	0.3
11.2	12	0	0	46	1.2	0	0	23	6.0
12.14	13	0	0	8	0.2	0	0	31	13.5
1.16	12	0	0	17	1.0	0	0	50	11.5
2.27	12	0	0	8	0.7	0	0	58	21.3
3.22	11	0	0	17	0.5	0	0	55	16.0

注) 1圃場50株、50複葉調査

③施設栽培ミニトマトにおける害虫の発生状況（印南町、日高町）

調査 月日	調査 圃場数	タバココナジラミ		オンシツコナジラミ		アブラムシ類		ハダニ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)
5.30	14	50	9.5	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	ハモグリバエ類	
		発生圃場率 (%)	被害葉率 (%)
5.30	14	0	0

注) 1圃場100葉調査

7) タマネギ

①タマネギにおける病害の発生状況（和歌山市、岩出市、紀の川市、かつらぎ町）

調査 月日	調査 圃場数	さび病		べと病				白色疫病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	(越年罹病株)		(二次感染株)		発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発病株率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)				
4.11	30	0	0	0	0	47	1.2	3	0.01	0	0
2.19	30	0	0	10	0.3	0	0	7	0.11	0	0
3.16	30	0	0	13	0.3	10	0.1	3	0.10	0	0

注) 1圃場500株調査

8) エンドウ

①露地栽培サヤエンドウにおける病害の発生状況（御坊市、印南町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
9.22	15	0	0	0	0	0	0
10.20	15	0	0	0	0	0	0

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
9.22	15	0	0	0	0
10.20	15	13	0.2	0	0

注) 1圃場100葉または50株調査

②露地栽培実エンドウにおける病害の発生状況（印南町、みなべ町）

調査 月日	調査 圃場数	つる枯細菌病		褐紋病		褐斑病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)
3.21	13	0	0	15	0.3	15	0.5

調査 月日	調査 圃場数	うどんこ病		灰色かび病	
		発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病株率 (%)
3.21	13	0	0	39	0.4

注) 1圃場100葉または50株調査

③露地栽培エンドウにおける害虫の発生状況（印南町）

調査 月日	調査 圃場数	アブラムシ類		ハダニ類				アザミウマ類	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	カンザワハダニ		ナミハダニ		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
				発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)		
9.20	16	0	0	38	10.0	0	0	0	0
10.19	17	0	0	12	1.8	0	0	75	6.4

調査 月日	調査 圃場数	シロイチモジヨトウ		ハスモンヨトウ		オオタバコガ		ウラナミシジミ	
		発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
10.19	17	0	0	0	0	24	3.5	63	12.5

注) 1圃場10株調査

9) イチゴ

①施設栽培イチゴにおける病害の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	灰色かび病		うどんこ病			
		発生圃場率 (%)	発病果率 (%)	(葉)		(果実)	
				発生圃場率 (%)	発病葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発病果率 (%)
3.18	10	0	0	0	0	0	0

注) 1圃場100果または100葉調査

②施設栽培イチゴにおける害虫の発生状況（紀の川市）

調査 月日	調査 圃場数	カンザワハダニ		ナミハダニ		アザミウマ類		アブラムシ類	
		発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生葉率 (%)	発生圃場率 (%)	発生密度 (頭/花)	発生圃場率 (%)	発生株率 (%)
4.19	10	10	7.5	10	1.0	10	0.01	10	1.5
3.18	9	11	4.4	11	0.2	22	0.01	22	1.3

注) 1圃場20~30株、1株1複葉調査

2. フェロモントラップによる鱗翅目害虫の誘殺状況

フェロモントラップの設置場所

紀の川市：紀の川市貴志川町高尾
和歌山市：和歌山市岩橋

御坊市：御坊市名田町野島
印南町：日高郡印南町印南

1) コナガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		月	半旬	紀の川市		和歌山市	
		本年	平年	本年	平年			本年	平年		
1	1	1	0.7	3	0.9	7	1	0	0.2	14	18.8
	2	0	0.5	0	1.3		2	0	0.4	14	9.2
	3	0	0.8	1	0.3		3	0	0.2	1	2.8
	4	0	0.6	0	2.6		4	0	0.0	0	1.7
	5	0	0.9	1	0.5		5	0	0.1	3	0.5
	6	0	1.6	0	0.5		6	0	0.0	5	0.9
2	1	1	0.6	1	0.4	8	1	0	0.0	0	0.1
	2	0	0.1	1	0.4		2	0	0.1	0	0.2
	3	1	0.2	1	0.4		3	0	0.1	0	0.0
	4	4	0.3	2	0.8		4	0	0.0	0	0.2
	5	1	0.4	2	2.0		5	0	0.0	0	0.0
	6	0	0.6	0	1.2		6	0	0.1	0	0.2
3	1	0	1.2	0	2.4	9	1	0	0.0	0	0.7
	2	0	1.7	2	3.6		2	0	0.0	1	1.7
	3	0	0.6	1	4.8		3	0	0.0	1	4.3
	4	1	1.8	3	10.5		4	0	0.0	0	8.4
	5	1	2.9	10	12.4		5	0	0.0	3	9.4
	6	5	2.2	10	18.8		6	0	0.0	3	8.7
4	1	1	2.8	13	18.1	10	1	0	0.1	11	9.8
	2	1	1.9	7	18.6		2	1	0.0	55	13.5
	3	1	2.3	8	23.2		3	0	0.0	68	16.7
	4	0	1.6	17	21.3		4	0	0.0	23	15.2
	5	1	2.0	6	18.3		5	0	0.3	9	13.0
	6	0	1.4	16	13.6		6	0	0.0	7	11.5
5	1	0	2.0	7	28.5	11	1	0	0.1	7	10.6
	2	0	4.1	16	33.8		2	1	0.5	8	9.9
	3	0	3.0	43	60.9		3	0	0.3	3	8.8
	4	0	3.2	49	74.2		4	0	0.4	11	10.0
	5	0	2.3	50	101.4		5	0	0.9	18	8.4
	6	0	1.4	57	103.9		6	1	1.8	7	5.9
6	1	0	1.0	5	33.4	12	1	1	0.4	5	2.9
	2	0	1.0	12	6.4		2	3	0.8	6	4.2
	3	0	1.1	7	3.2		3	0	0.7	7	3.7
	4	0	0.3	1	5.5		4	1	0.9	2	1.8
	5	0	0.0	1	13.7		5	0	1.3	0	4.1
	6	0	0.4	2	18.5		6	0	1.2	0	1.4
						合計		27	60.4	647	879.5

2) ハスモンヨトウ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		和歌山市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	0	0.0	0	0.0	0	1.5	0	0.9
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.8
	3	0	0.0	1	0.0	2	0.1	0	0.0
	4	0	0.0	0	0.0	1	0.4	0	0.3
	5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	欠	0.1
	6	0	0.4	0	0.0	0	0.3	0	0.1
2	1	0	0.2	0	0.0	0	0.5	0	0.4
	2	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.1
	3	0	0.1	0	0.1	0	0.1	0	0.5
	4	0	0.0	0	0.0	0	0.5	0	0.4
	5	0	0.1	0	0.0	0	0.3	0	0.5
	6	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.0
3	1	0	0.0	0	0.0	0	0.9	0	0.4
	2	2	0.1	1	0.2	4	1.4	0	0.8
	3	1	0.1	1	0.1	3	0.6	0	1.5
	4	0	0.0	0	0.2	0	2.5	0	1.8
	5	1	0.3	5	0.3	16	3.3	0	2.9
	6	1	0.4	1	0.7	21	4.8	0	1.8
4	1	3	0.7	10	0.6	62	7.9	2	2.1
	2	2	0.7	8	1.2	5	11.0	8	2.5
	3	3	0.4	4	0.8	4	6.9	11	7.2
	4	1	1.8	3	1.7	8	19.1	0	6.9
	5	1	2.7	4	4.9	9	9.7	0	6.8
	6	6	1.3	9	8.5	19	12.2	0	7.9
5	1	6	3.7	3	7.6	27	13.4	0	10.5
	2	5	5.0	3	7.3	36	18.9	1	11.4
	3	2	4.5	4	7.8	28	18.5	2	14.3
	4	9	8.9	5	9.4	27	29.6	1	20.3
	5	3	10.6	23	19.1	22	28.5	1	18.0
	6	8	17.5	13	21.3	27	29.9	0	14.9
6	1	2	4.4	32	12.4	57	17.5	0	9.5
	2	4	7.4	67	21.2	104	25.9	0	7.2
	3	42	8.0	56	21.3	57	24.0	1	18.5
	4	17	17.0	20	44.4	18	25.3	0	18.5
	5	18	22.8	10	61.9	17	27.6	1	23.5
	6	12	23.7	13	49.6	49	63.2	0	25.7
7	1	14	57.3	24	85.9	46	67.9	2	16.5
	2	49	27.1	11	35.7	43	45.9	0	11.6
	3	13	11.0	5	17.9	22	21.4	0	9.1
	4	30	12.9	1	9.1	59	18.8	1	7.6
	5	36	16.8	48	24.1	39	18.3	0	7.9
	6	50	23.7	62	47.1	53	40.7	2	25.8
8	1	21	20.7	45	21.9	58	44.5	1	18.8
	2	26	47.7	27	37.1	28	47.3	4	32.2
	3	197	54.3	87	31.0	37	26.6	5	13.6
	4	81	75.3	86	21.7	72	32.2	0	11.6
	5	71	58.8	98	88.9	51	36.9	4	15.1
	6	79	112.8	257	230.3	66	135.1	21	55.4
9	1	55	120.1	408	427.8	268	160.1	39	110.9
	2	114	142.9	505	322.5	390	313.7	36	123.3
	3	75	123.7	373	246.3	156	190.6	8	98.8
	4	59	186.5	369	220.7	186	245.1	8	84.4
	5	303	137.5	730	272.0	599	183.6	4	83.0
	6	242	99.7	1093	418.7	522	378.3	14	84.1
10	1	494	149.5	1289	424.1	952	483.9	121	151.6
	2	362	267.4	463	476.0	484	599.7	167	241.2
	3	399	268.6	565	416.1	590	741.1	213	240.7
	4	257	338.2	519	216.7	947	646.5	40	312.1
	5	468	314.0	480	267.6	639	352.2	117	223.6
	6	405	313.0	732	354.9	991	508.5	197	167.4
11	1	306	201.8	526	219.0	285	373.0	191	140.2
	2	497	299.7	841	208.4	474	384.6	160	187.6
	3	152	274.0	367	119.1	23	235.6	117	201.0
	4	121	296.3	140	133.5	197	210.5	135	139.4
	5	126	180.9	98	91.0	181	163.5	97	128.4
	6	57	87.1	65	59.3	43	48.6	48	72.5
12	1	0	50.8	6	40.2	5	65.8	7	55.9
	2	17	19.4	20	12.4	5	30.6	39	23.1
	3	28	13.0	44	4.4	22	30.6	30	22.1
	4	10	0.5	28	0.9	25	5.6	12	6.1
	5	0	2.2	0	2.4	0	6.1	0	8.9
	6	0	0.2	0	0.4	1	3.2	0	1.7
合 計		5363	4548.2	10708	6461.8	9182	7304.7	1868	3362.9

3) シロイチモジヨトウ

単位：頭

月 半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年
1 1	—	—	1	0.9	0	0.1
1 2	—	—	0	0.6	0	1.0
1 3	—	—	0	0.0	0	0.5
1 4	—	—	0	0.2	0	0.5
1 5	—	—	0	0.0	0	0.0
1 6	—	—	0	0.0	0	0.0
2 1	—	—	0	0.1	0	0.0
2 2	—	—	0	0.2	0	0.1
2 3	—	—	0	0.1	0	0.0
2 4	—	—	0	0.3	0	0.0
2 5	—	—	0	0.2	0	0.0
2 6	—	—	0	0.3	0	0.0
3 1	—	—	0	0.5	0	0.1
3 2	—	—	0	0.2	0	0.3
3 3	—	—	0	0.6	0	0.1
3 4	—	—	1	1.3	0	0.2
3 5	—	—	1	0.9	0	0.6
3 6	—	—	1	1.1	0	0.0
4 1	0	0.1	3	2.4	0	0.4
4 2	0	0.1	2	2.1	0	0.4
4 3	0	0.0	5	2.4	0	0.7
4 4	0	0.3	4	6.3	1	0.8
4 5	0	0.5	5	5.6	0	0.6
4 6	1	1.3	5	3.3	3	1.2
5 1	1	0.8	5	5.2	0	0.7
5 2	2	0.6	10	6.4	0	0.5
5 3	4	0.6	10	8.0	0	1.0
5 4	3	1.5	8	8.1	0	1.5
5 5	0	2.5	7	4.8	0	1.5
5 6	1	3.8	15	6.9	0	1.6
6 1	4	4.0	4	8.5	0	1.8
6 2	0	5.1	2	16.7	0	4.1
6 3	0	4.7	5	13.0	0	2.9
6 4	0	3.2	7	13.3	0	2.2
6 5	1	2.6	2	13.4	0	4.6
6 6	2	5.4	11	17.0	0	4.1
7 1	2	7.5	9	15.5	0	3.8
7 2	7	5.9	7	19.8	0	3.1
7 3	2	4.6	10	16.0	0	3.3
7 4	6	7.1	11	17.7	0	4.1
7 5	2	6.6	9	9.7	2	4.9
7 6	18	9.5	5	10.8	2	2.3
8 1	8	4.3	11	25.0	0	4.1
8 2	8	5.3	16	36.4	2	6.5
8 3	27	8.4	19	5.1	2	2.8
8 4	24	11.3	19	8.0	1	3.5
8 5	11	8.1	14	6.6	1	1.5
8 6	4	14.8	10	7.6	0	1.4
9 1	7	8.7	10	13.2	0	0.9
9 2	9	11.5	18	16.1	0	0.8
9 3	17	14.9	2	14.6	0	3.1
9 4	12	22.3	20	20.4	1	4.1
9 5	32	12.3	47	15.8	0	1.4
9 6	12	8.6	12	12.2	0	0.5
10 1	39	6.2	50	17.2	1	2.0
10 2	23	5.7	26	17.3	7	3.1
10 3	14	3.6	17	17.7	4	2.0
10 4	8	3.6	4	12.0	0	0.6
10 5	8	1.5	3	9.9	1	1.5
10 6	7	1.2	1	8.8	0	3.3
11 1	0	1.1	0	9.7	0	0.9
11 2	1	1.3	3	12.8	0	1.1
11 3	0	2.0	2	11.6	0	2.1
11 4	0	2.2	3	7.0	1	1.4
11 5	1	1.0	0	3.2	0	0.9
11 6	0	1.4	1	1.6	0	1.2
12 1	0	0.4	1	2.4	0	0.6
12 2	2	0.3	2	1.1	1	0.3
12 3	0	0.2	2	1.1	1	0.1
12 4	0	0.0	0	0.3	0	0.1
12 5	0	0.0	0	1.0	0	0.6
12 6	0	0.0	1	0.5	0	0.6
合 計	330	240.5	479	556.6	31	108.6

4) オオタバコガ

単位：頭

月	半旬	紀の川市		御坊市		印南町	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
1	1	—	—	2	0.4	0	0.2
	2	—	—	0	1.0	0	0.7
	3	—	—	2	0.7	0	0.3
	4	—	—	1	1.0	0	0.2
	5	—	—	0	0.3	0	1.2
	6	—	—	1	0.7	0	0.1
2	1	—	—	0	0.2	0	0.0
	2	—	—	2	0.4	0	0.1
	3	—	—	0	0.1	0	0.0
	4	—	—	0	0.2	0	0.0
	5	—	—	0	0.1	0	0.0
	6	—	—	0	0.0	0	0.0
3	1	—	—	1	0.2	0	0.5
	2	—	—	0	0.2	1	0.3
	3	—	—	0	0.2	0	0.1
	4	—	—	0	0.3	0	0.1
	5	—	—	0	0.1	0	0.0
	6	—	—	1	0.6	1	0.1
4	1	0	0.3	1	0.5	0	0.1
	2	0	0.6	2	0.3	0	0.1
	3	1	0.2	3	0.5	0	0.4
	4	1	0.3	1	0.6	2	0.5
	5	2	0.9	3	0.6	0	0.3
	6	1	1.1	2	1.6	0	0.3
5	1	0	2.1	5	1.3	0	0.1
	2	3	2.3	5	1.8	0	0.6
	3	3	3.8	0	2.1	0	1.5
	4	2	4.4	5	2.2	0	2.1
	5	3	3.4	1	0.6	0	1.9
	6	1	2.8	1	1.2	0	1.3
6	1	0	3.3	1	1.4	0	0.5
	2	0	1.9	3	0.7	0	1.2
	3	0	2.2	3	0.7	0	1.5
	4	0	1.9	1	0.5	0	2.5
	5	1	4.0	0	4.3	0	1.5
	6	3	6.7	2	2.6	0	0.7
7	1	4	7.1	0	3.8	0	0.7
	2	2	3.7	0	1.5	0	1.3
	3	1	2.5	0	1.8	0	0.6
	4	0	1.4	2	1.8	1	1.2
	5	2	1.4	1	0.6	0	0.7
	6	3	3.2	0	0.0	0	1.2
8	1	0	3.6	0	0.3	0	0.2
	2	1	2.4	0	0.7	0	0.6
	3	3	2.6	0	0.1	0	0.5
	4	3	1.9	0	0.1	0	0.6
	5	3	2.6	0	0.3	0	0.4
	6	1	5.3	0	0.6	0	0.2
9	1	7	7.8	0	0.0	0	0.0
	2	5	6.4	0	0.6	0	0.4
	3	7	2.4	0	0.4	0	0.6
	4	4	5.3	0	2.2	0	1.2
	5	5	3.6	0	2.2	0	4.0
	6	5	3.2	0	3.3	0	4.2
10	1	41	4.6	3	4.1	49	3.4
	2	50	8.3	26	10.5	63	6.4
	3	26	7.5	31	9.9	32	3.7
	4	4	9.9	13	6.5	12	14.7
	5	10	6.5	15	3.4	31	15.4
	6	9	5.2	17	5.7	14	13.1
11	1	40	3.6	27	4.8	17	7.4
	2	41	3.4	42	3.6	10	6.2
	3	23	4.9	7	4.3	4	6.2
	4	13	4.9	13	3.5	2	5.1
	5	6	1.7	5	3.8	2	4.2
	6	7	2.4	1	2.3	5	5.1
12	1	0	2.5	4	3.3	3	3.7
	2	6	0.2	5	2.7	4	3.7
	3	4	0.2	0	1.2	2	1.3
	4	1	0.3	3	0.5	0	0.4
	5	0	0.5	0	0.8	0	0.4
	6	0	0.8	3	0.5	0	0.3
合 計		358	176.0	257	121.9	253	140.2

5) ヨトウガ

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
	1	2	11.0
	2	3	6.9
3	3	2	7.2
	4	1	3.8
	5	4	3.1
	6	4	3.2
	1	19	3.0
	2	14	8.6
4	3	12	6.4
	4	21	12.1
	5	5	12.5
	6	2	10.0
	1	3	3.6
	2	4	3.4
5	3	0	2.5
	4	0	3.1
	5	0	1.0
	6	0	3.3
	1	0	1.0
	2	0	0.2
6	3	0	0.4
	4	0	0.4
	5	0	0.2
	6	0	0.3
	1	0	0.1
	2	0	0.0
7	3	0	0.0
	4	0	0.1
	5	0	0.1
	6	0	0.0

単位：頭

月	半旬	紀の川市	
		本年	平均
	1	0	0.0
	2	0	0.0
8	3	0	0.0
	4	0	0.0
	5	0	0.2
	6	0	0.0
	1	0	0.3
	2	0	1.8
9	3	0	2.6
	4	3	4.9
	5	10	6.8
	6	10	4.6
	1	2	3.5
	2	4	1.8
10	3	2	1.0
	4	4	0.4
	5	1	0.3
	6	2	0.7
	1	0	0.2
	2	0	0.0
11	3	0	0.1
	4	1	0.0
	5	3	0.7
	6	2	0.2
	計	140	137.6

3. 黄色水盤によるアブラムシ類の飛来状況

単位：頭

		紀の川市				紀の川市	
月	半旬	本年	平年	月	半旬	本年	平年
1	1	2	2.2	7	1	11	4.8
	2	4	2.1		2	7	4.2
	3	10	0.9		3	5	3.4
	4	4	1.1		4	8	4.4
	5	2	0.9		5	5	5.5
	6	1	1.6		6	13	8.1
2	1	2	1.0	8	1	6	6.5
	2	5	1.3		2	14	7.0
	3	0	2.5		3	5	15.9
	4	1	1.3		4	5	37.7
	5	0	1.1		5	3	15.6
	6	1	1.5		6	3	17.2
3	1	4	2.1	9	1	5	24.7
	2	17	3.0		2	7	28.4
	3	26	3.9		3	29	38.4
	4	17	8.5		4	38	30.4
	5	19	7.6		5	14	40.6
	6	17	13.8		6	13	30.3
4	1	9	16.4	10	1	18	18.9
	2	7	21.2		2	14	7.9
	3	3	22.7		3	10	6.8
	4	6	40.3		4	12	8.7
	5	2	57.3		5	7	10.8
	6	8	28.7		6	6	14.8
5	1	18	44.4	11	1	3	15.1
	2	8	45.4		2	8	18.1
	3	21	51.8		3	12	32.0
	4	30	44.0		4	8	32.9
	5	42	48.3		5	9	18.5
	6	37	44.5		6	9	25.1
6	1	19	44.1	12	1	8	13.9
	2	44	31.7		2	9	11.8
	3	29	18.0		3	10	10.1
	4	14	16.7		4	5	5.7
	5	12	9.7		5	2	7.9
	6	15	9.2		6	11	4.1
合 計		808	1237.0	合 計		808	1237.0

Ⅸ. 果樹病害虫の発生状況調査

1. 予察ほ場における調査成績

1) カンキツ

(1) 生育状況 (有田川町奥)

a) 生育調査 (月/日)

品種	発芽期	展葉期	開花期		
			始期	盛期	終期
早生ウンシュウミカン	3/23 (3/31)	4/14 (4/20)	4/26 (5/1)	5/2 (5/7)	5/7 (5/12)
普通ウンシュウミカン	3/24 (4/3)	4/14 (4/22)	4/27 (5/3)	5/5 (5/9)	5/9 (5/14)
不知火	3/20 (3/31)	4/10 (4/16)	4/30 (5/6)	5/8 (5/13)	5/13 (5/18)

()内は平年

b) 果実肥大調査 (ヨコ径, cm)

品種	調査月日										
	7/15	8/1	8/15	9/1	9/15	10/1	10/15	11/1	11/15	12/1	12/15
早生ウンシュウミカン	4.0 (3.7)	4.5 (4.2)	5.0 (4.7)	5.6 (5.2)	5.6 (5.7)	6.4 (6.1)	6.7 (6.4)	6.9 (6.7)	7.2 (6.8)	7.3 (6.8)	7.2 (6.8)
普通ウンシュウミカン	3.7 (3.5)	4.2 (4.1)	4.7 (4.6)	5.4 (5.1)	5.7 (5.6)	6.3 (6.1)	6.7 (6.5)	7.1 (6.8)	7.4 (7.1)	7.6 (7.3)	7.6 (7.3)
不知火	4.3 (4.1)	4.8 (5.0)	5.4 (5.7)	6.4 (6.5)	6.8 (7.1)	7.6 (7.8)	8.2 (8.3)	8.6 (8.7)	8.7 (8.8)	8.9 (8.9)	9.0 (9.0)

()内は平年

概要 (平年との比較)

早生ウンシュウミカン、普通ウンシュウミカンおよび不知火の発芽期、展葉期および開花期は平年よりやや早かった。

生育期間中の果実肥大は、早生ウンシュウミカンは平年より大きく、普通ウンシュウミカンおよび不知火は平年並で推移した。

(2) 黒点病

a) 発病状況調査 (有田川町奥)

区	調査項目	調査時期				
		6/中	7/中	8/中	9/中	10/中
無防除 ほ場	発病果率 (%)	7.5 (27.9)	95.0 (98.4)	100 (100)	100 (100)	100 (100)
	発病度	1.1 (4.9)	20.7 (23.8)	37.0 (39.0)	37.4 (45.8)	58.6 (58.7)
防除 ほ場	発病果率 (%)	0.0 (0.3)	2.5 (16.7)	3.0 (24.1)	0.5 (36.3)	31.5 (53.7)
	発病度	0.0 (0.0)	0.4 (2.5)	0.6 (3.6)	0.1 (5.5)	5.1 (7.8)

()内は平年

無防除ほ場は28年生興津早生、防除ほ場は51年生宮川早生の各区4樹1樹につき50果を調査

自然感染

防除ほ場使用薬剤(散布日):

デランフロアブル 1,000倍 (4/10)

ナリアWDG 2,000倍 (5/9)

ICボルドー66D 60倍 (5/18)

エムダイファー水和剤 600倍 (5/26、6/5)

ジマンダイセン水和剤 400倍 (7/3、8/1、8/28)

ナティーボフロアブル 1500倍 (10/3)

概要：果実の初発は5月22日(平年6月4日)で平年よりやや早かった。無防除ほ場の発病は6月中旬に平年よりやや多く、その後平年並に推移した。防除ほ場は平年よりやや少なく推移し、10月中旬に多くなった。

(3) かいよう病

a) 発病状況調査(有田川町奥)

越冬病斑		春葉発病			果実発病		
調査月日	発病葉率(%)	調査月日	発病率(%)	発病度	調査月日	発病率(%)	発病度
3月16日	15.3	6月27日	13.7	3.1	7月20日	8.7	3.5
(3月中下旬)	(10.0)	(6月中下旬)	(6.7)	(1.6)	(7月中下旬)	(11.3)	(3.7)

(注) ()内は平年

27年生ネーブル3樹

越冬病斑は旧葉、春葉発病は春葉について1樹につき100葉を調査

果実発病は1樹につき50果を調査

自然感染

概要：越冬病斑の発病葉率はよりやや高かった。春葉での初発は5月18日(平年5月23日)でやや早かった。6月下旬の春葉における発病は平年よりやや多く、7月中旬の果実における発病は平年並であった。

(4) ヤノネカイガラムシ

a) 発生状況調査(有田川町奥)		10葉当たり虫数(頭)				初発 平年
調査月日	1 齢	雌 2 齢	未成熟成虫	成熟成虫	合計	
5.4	0	0	0	10	10	
5.5	1	0	0	10	11	5月13日

概要：第1世代1齢幼虫の初発は5月5日と平年（5月13日）よりやや早かった。

(5) ミカンハダニ

a) 発生状況調査(有田川町奥)		100葉当たり雌成虫数(頭)	
調査月日	無防除ほ場	防除ほ場	
3.6	11	0	
15	12	0	
24	17	0	
4.5	27	0	
14	28	0	
25	23	0	
5.5	24	0	
15	29	0	
25	47	0	
6.5	48	0	
15	28	0	
26	11	0	
7.5	3	0	
15	2	0	
25	0	2	
8.4	0	0	
15	0	0	
25	0	2	
9.4	1	0	
15	4	0	
25	5	0	
10.5	0	7	
16	0	19	
24	0	28	
11.6	0	73	
15	0	54	
24	0	52	
12.5	0	73	
16	1	83	
25	2	81	
1.5	3	149	
15	0	157	
25	0	0	
2.4	3	0	
15	0	0	
26	0	0	

概要：無防除ほ場では3月上旬から7月中旬、9月中、12月中旬から翌年の1月上旬、2月上旬に発生が認められた。防除ほ場では、7月下旬および8月下旬、10月上旬から翌年の1月中旬まで発生が認められた。なお、10月上旬から翌年の1月中旬までの発生は、9月14日にフェンプロパトリン乳剤を散布したため、リサージェンスが発生した可能性がある。

(6) チャノキイロアザミウマ
 a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ)
 予察ほ場 (有田川町奥)

頭 / トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	1	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	1	1	2
5. 1	0	0	0
2	1	1	2
3	0	0	0
4	2	3	5
5	1	2	3
6	0	0	0
6. 1	4	3	7
2	1	10	11
3	2	4	6
4	2	3	5
5	8	5	13
6	37	23	60
7. 1	6	13	19
2	7	17	24
3	10	4	14
4	3	8	11
5	2	1	3
6	1	1	2
8. 1	18	1	19
2	4	1	5
3	1	2	3
4	4	0	4
5	1	1	2
6	1	0	1
9. 1	1	1	2
2	1	0	1
3	1	0	1
4	1	3	4
5	0	8	8
6	0	0	0
10. 1	3	1	4
2	1	1	2
3	0	1	1
4	0	0	0
5	0	1	1
6	1	0	1

概要 : 6月第5半旬から7月第4半旬に多く誘殺された。

(6) チャノキイロアザミウマ
 b) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ)
 予察ほ場 (由良町畑)

頭 / トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	1	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	4	3	7
3	1	5	6
4	1	13	14
5	1	12	13
6	6	13	19
6. 1	6	1	7
2	7	14	21
3	6	19	25
4	0	29	29
5	9	41	50
6	16	81	97
7. 1	2	37	39
2	10	29	39
3	2	21	23
4	9	21	30
5	1	16	17
6	10	36	46
8. 1	25	40	65
2	20	33	53
3	8	40	48
4	9	17	26
5	4	5	9
6	6	3	9
9. 1	1	0	1
2	0	1	1
3	1	1	2
4	5	11	16
5	0	5	5
6	1	1	2
10. 1	1	1	2
2	0	1	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	1	1	2
6	0	1	1

概要 : 5 月第 4 半旬から 8 月第 4 半旬に多く誘殺された。

(7) ミドリヒメヨコバイ類
 a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ)
 予察ほ場 (有田川町奥)

頭 / トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	2	1	3
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	1	1
4	0	0	0
5	1	0	1
6	1	0	1
8. 1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	1	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
9. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
10. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0

概要：年間を通して誘殺数は少なかった。

(7) ミドリヒメヨコバイ類
 b) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ)
 予察ほ場 (由良町畑)

頭 / トラップ

調査時期 (月・半旬)	No. 1	No. 2	計
4. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
5. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	1	2
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
6. 1	0	0	0
2	1	0	1
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
7. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	1	0	1
4	0	0	0
5	0	0	0
6	0	0	0
8. 1	0	0	0
2	0	0	0
3	0	0	0
4	2	0	2
5	0	0	0
6	1	0	1
9. 1	0	1	1
2	0	0	0
3	0	0	0
4	0	0	0
5	0	1	1
6	0	0	0
10. 1	1	0	1
2	0	0	0
3	0	1	1
4	0	0	0
5	0	1	1
6	0	0	0

概要：年間を通して誘殺数は少なかった。

(8) 果樹カメムシ類

a) 越冬量調査

チャバネアオカメムシ越冬量調査結果

頭/落葉 50 リットル

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
橋本市北馬場	2/8	2/8	0	0	0	0	
橋本市市脇	2/8	2/8	0	0	0	0	
橋本市清水	1/30	1/30	0	0	0	0	
橋本市学文路	1/30	1/30	0	0	0	0	
橋本市高野口町竹尾	2/1	2/1	0	0	0	0	
橋本市高野口町下中	2/1	2/1	0	0	0	0	ツヤアオカメムシ 1
九度山町下古沢	2/9	2/9	0	0	0	0	
九度山町慈尊院	2/9	2/9	0	0	0	0	
かつらぎ町短野	1/31	1/31	0	0	0	0	
かつらぎ町教良寺	2/10	2/10	0	0	0	0	
かつらぎ町御所	2/10	2/10	0	0	0	0	
かつらぎ町東谷	1/31	1/31	0	0	0	0	
紀の川市赤沼田	1/12	1/12	0	0	0	0	
紀の川市中尾	1/12	1/12	0	0	0	0	
紀の川市林ヶ峯	1/12	1/12	0	0	0	0	
紀の川市秋葉山	1/12	1/12	0	0	0	0	
紀の川市鞆渕	1/12	1/12	0	1	1	0	
紀の川市桃山町黒川	1/12	1/12	0	0	0	0	
紀の川市貴志川町高尾	1/12	1/12	0	0	0	0	
海南市海老谷	2/14	2/24	0	0	0	0	
海南市東畑	2/14	2/24	0	0	0	0	
海南市ひや水	2/14	2/24	0	0	0	0	
紀美野町西野	2/14	2/24	0	0	0	0	
紀美野町松瀬	2/14	2/24	0	0	0	0	
紀美野町釜滝	2/14	2/24	0	0	0	0	
紀美野町大角	2/14	2/24	0	0	0	0	
紀美野町永谷	2/14	2/24	0	0	0	0	
紀美野町津川	2/14	2/24	0	0	0	0	

(つづき)

採集場所名	採集日	調査日	♂	♀	計	死亡	その他
有田川町奥 (果試場内 No. 1)	2/8	2/24	0	0	0	0	
有田川町奥 (果試場内 No. 2)	2/8	2/27	0	0	0	0	
有田川町修理川	2/8	2/27	0	0	0	0	
有田川町川口	2/8	2/24	0	0	0	0	
広川町津木	2/8	2/24	0	0	0	0	ツヤアカムシ 1
広川町室川	2/8	2/24	0	0	0	0	
日高川町千津川	2/8	2/27	0	0	0	0	
印南町白河	3/1	3/13	0	0	0	0	
みなべ町高城	2/17	3/13	0	0	0	0	
みなべ町広野	2/17	3/13	0	0	0	0	
みなべ町清川	2/17	3/13	0	0	0	0	
田辺市竹藪	2/17	3/13	0	0	0	0	
田辺市上野	2/17	3/13	0	0	0	0	
上富田町岩田	2/27	3/13	0	0	0	0	
すさみ町和深川	2/27	3/13	0	0	0	0	
白浜町口ヶ谷	2/27	3/13	0	0	0	0	
串本町重畳山	2/27	3/13	0	0	0	0	
那智勝浦町井関	2/27	3/13	0	0	0	0	
新宮市木ノ川	2/27	3/13	0	0	0	0	

調査方法：定点における雑木林の落葉 50 リットルを採集し、落葉中のチャバネアオカメムシ成虫数を計数した。

概要：県内 47 地点のチャバネアオカメムシ越冬成虫数は、落葉 50 リットル当たり平均 0.0 頭（前年 0.3 頭、平年 0.5 頭）、捕獲地点率は 2.2%（前年 21.7%、平年 21.1%）で平年よりも少なかった。

b) 誘殺状況（予察灯：100W水銀灯）（予察ほ場：有田川町奥）

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合計
4.1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	1	3	0	4
5.1	1	2	0	3
2	0	1	0	1
3	0	0	0	0
4	0	1	0	1
5	0	0	0	0
6	0	1	0	1
6.1	0	0	0	0
2	1	2	0	3
3	1	0	0	1
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	1	1	0	2
7.1	1	1	2	4
2	2	1	1	4
3	7	0	3	10
4	6	1	6	13
5	2	2	3	7
6	4	3	1	8
8.1	6	11	12	29
2	8	11	15	34
3	15	32	40	87
4	111	68	132	311
5	60	18	61	139
6	171	43	80	294
9.1	294	20	37	351
2	192	42	28	262
3	856	629	35	1520
4	730	747	25	1502
5	245	136	5	386
6	1026	171	64	1261
10.1	17	6	2	25
2	8	14	1	23
3	0	3	0	3
4	0	6	0	6
5	0	4	0	4
6	0	2	0	2

概要：チャバネアオカメムシは4月第6半旬から10月第2半旬まで誘殺され、8月第6半旬から9月第6半旬の誘殺数が特に多かった。
ツヤアオカメムシは4月第6半旬から誘殺され始め、9月第3半旬および第4半旬の誘殺数が特に多かった。

2) カキ

(1) 生育状況 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種		発芽期	展葉期	開花期		収穫盛期	
				始 期	最盛期		終 期
平核無	本 年	3月11日	3月20日	5月4日	5月6日	5月11日	10月24日
	平 年 比	- 1	- 9	- 5	- 5	- 3	- 3
富 有	本 年	3月13日	3月27日	5月13日	5月15日	5月17日	11月24日
	平 年 比	- 3	- 8	- 3	- 3	- 5	+5

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す (単位：日)

概要：平核無の発芽期は平年並であったが、展葉期は早かった。開花期はやや早く、収穫期もやや早くなった。

富有の発芽期はやや早く、展葉期は早かった。開花期はやや早かったが、収穫期はやや遅くなった。

(2) 炭疽病

a) 越冬病斑調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	3月16日	平年
平核無	発病枝率 (%)	0.0	0.0
富 有	発病枝率 (%)	0.0	0.4

概要：枝の越冬病斑は、富有、平核無ともにみられなかった。

b) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月13日	平年
平核無	発病果率 (%)	0.0	0.5
	発病枝率 (%)	0.0	0.0
富 有	発病果率 (%)	0.0	2.1
	発病枝率 (%)	0.0	0.3

概要：平核無、富有ともに枝および果実の発病はみられなかった。

(3) うどんこ病

a) 子のう殻越冬密度調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	子のう殻 附着枝率		1枝当たりの 子のう殻数	
		本年	平年	本年	平年
平核無	3月16日	1.3	2.0	0.01	0.02
富 有	3月16日	0.0	2.5	0.00	0.03

概要：枝の子のう殻は、平核無、富有ともに平年並であった。

b) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	調査項目	9月13日	10月11日	平年
平核無	発病葉率 (%)	0.7	4.7	14.4
	発 病 度	0.1	1.6	7.7
富 有	発病葉率 (%)	0.7	0.3	6.5
	発 病 度	0.1	0.0	1.7

概要：葉の発病は、平核無では平年並、富有ではやや少なかった。

(4) 落葉病

a) 発病状況調査 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	種 類	調査項目	9月13日	10月11日	平年
平核無	角斑落葉病	発病葉率(%)	39.7	77.7	63.0
		発病度	13.0	27.8	25.2
	円星落葉病	発病葉率(%)	1.0	71.3	67.0
		発病度	0.3	40.9	37.9
富 有	角斑落葉病	発病葉率(%)	27.3	74.3	44.5
		発病度	6.4	31.1	19.2
	円星落葉病	発病葉率(%)	0.0	69.7	78.8
		発病度	0.0	38.7	46.6

概要：角斑落葉病の発病は、平核無では平年並、富有ではやや多かった。

円星落葉病の発病は、平核無、富有ともに平年並であった。

注) 平年値については、令和元年が欠測。

(5) ハマキムシ類 (付表1参照)

概要：チャハマキは4月2半旬から誘殺され始め、4月2～5半旬、10月3～6半旬の誘殺数が多かった。

チャノコカクモンハマキは4月2半旬から誘殺され始め、4月2半旬～5月3半旬、6月4半旬～5半旬の誘殺数が多かった。

(6) アザミウマ類

a) 誘殺状況 (黄色粘着トラップ) (予察ほ場: 紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャノキイロアザ ミウマ		カキクダ アザミウマ	
	本年	平年	本年	平年
4・1	0	1.6	0	1.6
2	0	1.5	0	0.5
3	0	0.6	0	0.9
4	1	0.0	0	1.6
5	0	0.1	0	0.7
6	0	0.1	0	0.2
5・1	0	0.3	0	0.3
2	0	0.2	0	0.4
3	0	0.8	0	0.4
4	1	1.8	0	0.0
5	1	2.4	0	0.1
6	1	1.8	0	0.2
6・1	4	1.7	0	2.3
2	7	5.3	1	8.7
3	8	17.9	7	20.2
4	87	22.9	12	19.2
5	96	40.6	14	13.0
6	216	69.1	7	4.1
7・1	201	91.3	3	1.0
2	173	92.8	1	0.8
3	101	59.3	1	0.7
4	115	45.2	0	0.8
5	137	38.7	0	0.5
6	91	41.9	0	0.5
8・1	120	36.7	0	0.4
2	81	28.0	0	0.6
3	294	32.2	0	0.7
4	60	27.7	0	1.0
5	39	24.9	0	0.7
6	34	26.7	1	0.5
9・1	27	22.2	0	0.6
2	34	21.7	0	0.5
3	16	17.4	1	0.5
4	28	15.2	0	0.3
5	41	14.3	0	0.0
6	35	11.5	0	0.3
10・1	21	5.9	0	0.2
2	6	4.4	0	0.0
3	5	1.9	0	0.0
4	1	0.8	0	0.3
5	2	0.0	0	0.1
6	2	0.1	1	0.0
合 計	2086	829.6	49	85.4

注) 20×20cmの黄色粘着板 1 基当たりの表裏合計の虫数を示す。

概要: チャノキイロアザミウマは4月4半旬から誘殺され始め、6月6半旬～7月第2半旬の誘殺数が多かった。

カキクダアザミウマは6月2半旬から誘殺され始め、6月4半旬～5半旬に発生のピークが認められた。

(7) カメムシ類

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合計
4・1	0	0	0	0
2	0	0	0	0
3	0	0	0	0
4	0	0	0	0
5	0	0	0	0
6	0	3	0	3
5・1	0	3	0	3
2	1	2	0	3
3	0	1	0	1
4	5	2	0	7
5	1	4	0	5
6	18	23	8	49
6・1	7	3	2	12
2	2	1	1	4
3	5	5	13	23
4	3	2	5	10
5	7	0	8	15
6	12	1	17	30
7・1	16	1	25	42
2	45	0	40	85
3	26	2	52	80
4	27	3	80	110
5	42	4	164	210
6	60	7	302	369
8・1	51	8	137	196
2	26	4	109	139
3	151	17	266	434
4	483	32	620	1135
5	857	43	996	1896
6	426	16	423	865
9・1	1418	93	425	1936
2	548	45	81	674
3	3677	732	228	4637
4	1784	320	203	2307
5	356	163	31	550
6	2364	683	77	3124
10・1	206	54	1	261
2	12	183	0	195
3	0	48	0	48
4	8	4	0	12
5	0	1	0	1
6	0	0	0	0

概要：チャバネアオカメムシは5月2半旬から誘殺され始め、8月3半旬～10月1半旬に誘殺数が多かった。

ツヤアオカメムシは4月6半旬から誘殺され始め、9月3半旬～10月2半旬に誘殺数が多かった。

3) モモ

(1) 生育状況 (予察ほ場：紀の川市粉河)

品 種	発芽期	開花期			収穫盛期	
		始 期	最盛期	終 期		
白 鳳	本 年	3月10日	3月25日	3月27日	4月3日	7月4日
	平 年 比	- 2	- 7	- 8	- 7	- 4

注) -は平年より早く、+は平年より遅いことを示す (単位：日)

概要：白鳳の発芽期は平年並であったが、開花期は早く、収穫期はやや早かった。

(2) ナシヒメシンクイ (付表1参照)

概要：ナシヒメシンクイは4月2半旬から誘殺され始め、4月2～4半旬、5月4～6半旬、7月6半旬～8月1半旬に誘殺数が多かった。

(3) モモハモグリガ (付表1参照)

概要：モモハモグリガは5月第1半旬から誘殺され始め、5月2半旬、6月4～5半旬、7月4～5半旬に誘殺数が多かった。

(4) コスカシバ (付表1参照)

概要：コスカシバは4月5半旬から誘殺され始め、6月5半旬、7月5半旬、9月6半旬～10月1半旬に誘殺数が多かった。

(5) モモシンクイガ (付表2参照)

概要：モモシンクイガは5月5半旬から7月6半旬まで誘殺された。誘殺数はやや少なかった。

付表1) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

(予察ほ場：紀の川市粉河)

調査時期 月・半旬	チャハマキ		チャノコカクモンハマキ		ナシヒメシンクイ		モモハモグリガ		コスカシバ	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	0	5.1	0	1.8	0	27.1	0	0.7	0	0.0
2	31	5.6	11	2.9	72	17.0	0	0.1	0	0.0
3	20	8.1	9	5.4	19	14.9	0	0.2	0	0.0
4	12	5.8	17	11.6	16	16.1	0	0.0	0	0.1
5	6	7.0	17	23.6	6	9.4	0	0.1	1	0.1
6	3	2.3	13	30.4	2	6.1	0	0.0	0	0.7
5・1	2	4.7	25	33.8	4	11.1	4	1.0	0	0.9
2	1	3.4	21	27.9	1	12.3	9	3.6	1	0.6
3	1	3.8	14	19.7	5	3.2	3	4.0	0	0.6
4	1	2.0	3	8.8	16	4.6	2	2.1	2	0.9
5	1	1.2	3	2.2	15	8.3	2	1.2	0	1.7
6	0	1.6	0	0.9	18	19.2	0	0.8	0	1.0
6・1	1	0.3	0	3.6	8	23.3	0	0.8	0	1.5
2	0	0.4	1	2.6	8	13.9	1	1.3	0	1.8
3	0	0.2	9	6.0	2	11.8	1	2.0	0	1.3
4	1	0.5	30	6.0	4	12.2	11	2.1	1	0.7
5	3	0.4	30	9.8	4	12.0	10	4.0	4	1.7
6	2	1.2	4	9.3	3	12.9	4	1.9	2	0.7
7・1	1	1.2	3	9.3	4	15.2	7	1.0	2	0.7
2	0	1.6	3	5.5	5	12.9	8	2.4	2	0.5
3	0	0.5	4	3.1	9	19.3	9	3.1	1	0.5
4	0	0.3	5	2.1	12	18.6	13	3.4	2	0.9
5	0	0.4	8	2.8	11	17.4	11	2.8	4	1.2
6	2	0.8	13	6.0	24	20.8	2	2.4	2	1.8
8・1	1	0.3	14	5.8	15	21.8	0	2.4	0	1.3
2	0	0.8	10	3.1	10	19.7	0	2.2	0	2.1
3	0	0.8	8	3.9	9	21.9	0	1.2	0	1.5
4	0	0.2	1	2.1	0	22.1	3	0.8	0	1.1
5	0	0.2	0	0.9	4	22.4	2	0.6	0	2.1
6	3	0.6	2	1.1	2	25.8	1	0.4	1	1.5
9・1	3	1.1	4	0.8	4	15.6	0	0.6	0	2.3
2	1	1.4	4	1.7	6	17.2	1	1.6	1	2.0
3	0	0.9	0	3.7	1	14.8	4	3.2	1	2.9
4	3	1.1	1	5.2	2	12.1	0	4.7	2	3.4
5	1	1.2	5	9.7	5	8.3	5	5.3	2	6.7
6	1	1.3	7	10.9	4	5.1	5	3.8	6	6.0
10・1	1	2.1	9	11.0	4	2.2	4	3.9	7	4.1
2	3	3.2	4	8.4	8	2.0	5	1.2	0	2.9
3	11	3.5	10	9.3	1	1.1	2	1.2	1	0.4
4	9	1.7	3	6.0	4	0.7	1	0.6	2	0.3
5	16	2.1	7	4.3	1	0.1	0	0.1	2	0.0
6	20	1.4	10	2.9	1	0.2	1	0.0	1	0.0
合 計	161	82.3	342	325.9	349	552.9	131	74.9	50	60.5

注) ナシヒメシンクイとモモハモグリガの平年値については、平成25年が欠測。

付表2) 誘殺状況 (フェロモントラップ)

調査時期 月・半旬	モモシンクイガ							
	予察ほ場 紀の川市粉河 (モモ園)		紀の川市 桃山町元 (モモ園)		紀の川市杉原 (ナシ園)		かつらぎ町 東渋田 (モモ園)	
	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
4・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.1	0	0.0	0	0.2
5	0	0.0	0	0.2	0	0.0	1	0.6
6	0	0.0	0	0.4	0	0.0	1	1.0
6・1	0	0.0	0	0.0	0	0.6	0	0.6
2	0	0.0	0	0.0	0	1.0	0	1.1
3	0	0.0	0	0.0	0	1.6	1	2.2
4	0	0.0	0	0.1	1	1.2	1	1.9
5	0	0.0	0	0.0	1	3.4	1	1.7
6	0	0.0	0	0.0	1	2.6	2	2.1
7・1	0	0.0	0	0.0	1	1.7	2	2.0
2	0	0.0	0	0.0	1	1.1	1	0.9
3	0	0.0	0	0.0	1	0.9	3	1.3
4	0	0.0	0	0.1	1	1.7	3	1.7
5	0	0.0	0	0.0	1	1.2	2	0.4
6	0	0.0	0	0.0	1	1.3	1	0.8
8・1	0	0.0	0	0.0	0	0.7	0	0.7
2	0	0.0	0	0.1	0	0.9	0	0.4
3	0	0.0	0	0.0	0	1.3	0	0.7
4	0	0.0	0	0.0	0	0.3	0	0.4
5	0	0.0	0	0.0	0	0.4	0	0.3
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
9・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
10・1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
4	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
6	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
合 計	0	0.0	0	1.1	9	21.9	19	21.0

注) かつらぎ町東渋田の平年値については、平成25年が欠測。

4) ウ メ

(1) 生育状況 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

品種	開花期			発芽期	収穫期※		
	始期	盛期	終期		始期	盛期	終期
南高	2/13	2/20	3/2	3/14	5/31	5/31	6/9

※収穫期は青ウメでの時期

(2) 黒星病

a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日			
	5月1日	5月15日	5月23日	6月1日
発病果率%	21.1	77.0	91.9	97.6
発病度	9.2	36.5	68.4	87.6

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹100果調査

概要：果実での初発は5月上旬で、5月中旬にかけて増加した。

b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月23日	7月27日	8月25日
発病新梢率%	19.3	42.7	42.7

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹50新梢(徒長枝)調査

概要：新梢での発病は6月下旬から認められ、7月下旬にかけて増加した。

(3) かいよう病

a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日				
	4月3日	4月10日	4月18日	4月25日	5月1日
発病果率%	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発病度	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹100果調査

概要：果実発病は認められなかった。

b) 新梢発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日		
	6月23日	7月27日	8月25日
発病新梢率%	4.7	2.0	2.0

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹50新梢(徒長枝)調査

概要：6月下旬から新梢の発病が認められた。

(4) すず斑病

a) 果実発病調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査項目	調査月日
	6月1日
発病果率%	7.2
発病度	4.2

注) 品種：南高 3樹(無防除)、1樹あたり全着果数を調査

概要：果実での初発は6月上旬であった。その後は黒星病多発のため調査できなかった。

(5) ハダニ類

a) 発生状況調査 (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	100 葉あたり 雌成虫数	調査時期 月・半旬	100 葉あたり 雌成虫数
4. 1	13	8. 1	6
2	5	2	10
3	13	3	20
4	18	4	31
5	10	5	11
6	9	6	33
5. 1	17	9. 1	14
2	16	2	32
3	24	3	15
4	37	4	9
5	91	5	10
6	80	6	9
6. 1	52	10. 1	5
2	80	2	9
3	73	3	11
4	45	4	24
5	33	5	25
6	33	6	10
7. 1	13		
2	4		
3	5		
4	7		
5	3		
6	13		

注) 品種：南高 2樹平均 無防除

概要：4月第1半旬から10月第6半旬にハダニ類の発生を確認した。

(6) カメムシ類

a) 誘殺状況 (予察灯：100W水銀灯) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	チャバネアオ カメムシ	ツヤアオ カメムシ	クサギ カメムシ	合 計
4. 1	0	0	0	0
2	1	0	0	1
3	0	2	0	2
4	3	14	0	17
5	1	8	1	10
6	0	4	0	4
5. 1	0	6	0	6
2	1	21	0	22
3	1	3	0	4
4	53	41	0	94
5	17	50	0	67
6	11	123	0	134
6. 1	30	236	0	266
2	5	19	0	24
3	46	39	0	85
4	40	8	0	48
5	42	14	0	56
6	100	22	1	123
7. 1	95	11	0	106
2	81	10	0	91
3	42	6	1	49
4	83	4	4	91
5	88	10	13	111
6	173	34	49	256
8. 1	221	35	113	369
2	548	149	199	896
3	540	158	225	923
4	1064	355	445	1864
5	1688	164	370	2222
6	2877	189	312	3378
9. 1	5291	1422	240	6953
2	2936	2321	59	5316
3	9305	6665	207	16177
4	5658	4706	174	10538
5	1410	1016	33	2459
6	4502	4704	84	9290
10. 1	281	1543	3	1827
2	20	292	0	312
3	1	358	0	359
4	8	968	0	976
5	0	13	0	13
6	0	0	0	0

概要：チャバネアオカメムシは4月第2半旬から10月第4半旬まで誘殺され、8月第4半旬から9月第6半旬の誘殺数が特に多かった。

ツヤアオカメムシは4月第3半旬から10月第5半旬まで誘殺され、9月第1半旬から10月第1半旬の誘殺数が特に多かった。

(7) ウメシロカイガラムシ

a) 歩行幼虫発生状況調査 (両面テープトラップ) (予察ほ場：みなべ町東本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	2
2	0	5	2	2	3
3	82	6	6	3	0
4	56	7. 1	9	4	0
5	24	2	6	5	0
6	0	3	0	6	0
5. 1	4	4	0	10. 1	1
2	5	5	0	2	0
3	0	6	0	3	0
4	0	8. 1	1	4	0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0	6	0
6. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	1		

注) 5トラップ平均

概要：第1世代は4月3半旬から5月2半旬まで、第2世代は6月5半旬から7月2半旬まで、第3世代の発生は8月6半旬から9月2半旬にみられた。

(8) アメリカシロヒトリ

a) 雄成虫誘殺状況調査 (フェロモントラップ) (予察ほ場：みなべ町西本庄)

調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ	調査時期 月・半旬	頭/トラップ
4. 1	0	6. 4	0	9. 1	0
2	0	5	0	2	0
3	0	6	0	3	0
4	0	7. 1	0	4	0
5	0	2	0	5	0
6	0	3	0	6	0
5. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		
4	0	8. 1	0		
5	0	2	0		
6	0	3	0		
6. 1	0	4	0		
2	0	5	0		
3	0	6	0		

概要：アメリカシロヒトリは確認されなかった。

2.巡回調査結果

1) カンキツ

(1) 6月調査

(11~12日)

2023年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	0.8	0.1	5.4	2.7	9.6	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	19.2	46.7	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
	有田	12	0.6	0.1	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	13.3	55.3	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.1	0.0
	日高	7	1.0	0.1	5.7	0.0	5.7	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	32.9	103.3	0.0	0.0	10.7	1.4	0.0	0.1	0.0
	西牟婁	6	1.1	0.2	2.2	0.8	3.3	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0
	平均	33	1.2	0.2	2.9	1.5	6.4	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	16.7	53.5	0.0	0.0	2.3	1.2	0.0	0.1	0.0
発生ほ場率(%)		21.2		21.2			0.0				3.0	0.0	45.5		0.0	3.0	18.2	6.1		0.0	
八朔 平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	1.7	0.4	0.1	0.0	0.0	2.2	2.8	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
夏橙 平均	6	1.1	0.2	1.1	0.3	2.8	2.2	0.3	1.1	0.2	0.0	11.7	28.9	0.0	0.0	0.0	3.9	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
ネーブル 平均	3	17.8	5.4	0.0	0.0	3.3	1.1	0.2	1.1	0.2	0.0	33.3	125.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
伊予柑 平均	4	1.7	1.0	0.0	0.0	1.7	0.8	0.6	0.4	0.1	0.0	1.7	2.5	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
清見 平均	5	4.0	0.9	0.0	0.0	11.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	9.3	14.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
不知火 平均	5	1.3	0.3	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
中晩柑 平均	30	2.8	0.8	0.2	0.1	3.4	1.0	0.24	0.4	0.1	0.0	8.7	22.7	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)		30.0		3.3		43.3	16.7		33.3		0.0	30.0		0.0	0.0	0.0	20.0		0.0		
カンキツ総平均	63	2.1	0.52	1.6	0.79	4.9	0.5	0.11	0.2	0.03	0.0	12.9	38.8	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)		25.4		12.7		63.5	7.9		17.5		0.0	38.1		0.0	0.0	3.2	19.0		3.2		

(2)7月調査
(11、14日)

2023年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生果率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	10.4	1.7	3.8	1.0	5.4	2.5	0.7	0.4	0.06	0.0	42.9	297.9	0.4	0.4	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	有田	12	6.9	1.2	0.6	0.1	3.6	0.3	0.0	0.1	0.01	0.0	10.8	15.6	0.0	0.0	4.2	1.1	0.0	0.0	0.0
	日高	8	10.4	1.7	17.1	0.1	3.8	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	1.3	3.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	13.9	2.3	5.6	1.6	5.6	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	16.7	51.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均	34	8.5	2.2	6.1	2.5	4.4	0.7	0.2	0.2	0.03	0.0	17.2	85.4	0.1	0.1	1.8	0.4	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			50.0		26.5			8.8		20.6		0.0	50.0		2.9		5.9	8.8	0.0		0.0
八朔 平均	6	2.8	0.4	0.0	0.0	3.3	0.0	0.0	0.2	0.1	0.0	12.8	32.8	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
夏橙 平均	6	15.0	6.0	0.0	0.0	1.7	1.7	0.2	1.4	0.2	0.0	2.8	2.8	0.0	0.0	0.0	4.4	0.0	0.2	0.6	
発生ほ場率(%)																					
ネーブル 平均	3	25.6	7.8	0.0	0.0	0.0	3.3	0.5	3.3	0.5	0.0	2.2	2.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
伊予柑 平均	4	7.5	1.3	0.0	0.0	0.0	10.0	2.6	0.0	0.0	0.0	6.7	9.2	4.2	8.3	0.0	3.3	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
清見 平均	6	5.0	1.7	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.3	4.4	0.0	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	0.0	
発生ほ場率(%)																					
不知火 平均	5	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	6.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.7	
発生ほ場率(%)																					
中晩柑 平均	30	7.5	2.4	0.0	0.0	2.2	2.0	0.44	0.5	0.1	0.0	5.8	10.6	0.6	1.1	0.0	2.2	0.0	0.0	0.2	
発生ほ場率(%)		46.7		0.0		33.3	20.0		26.7		0.0	30.0		3.3		0.0	23.3	3.3		6.7	
カンキツ総平均	64	8.5	2.42	3.2	1.31	3.4	1.3	0.31	0.3	0.05	0.0	11.8	50.3	0.3	0.6	0.0	1.3	0.0	0.0	0.1	
発生ほ場率(%)		48.4		14.1		50.0	14.1		23.4		0.0	40.6		3.1		6.3	15.6	1.6		3.1	

(3) 8月調査
(17~18日)

2023年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		灰色かび病	かいよう病				こはん症	ミカンハダニ		チャノキイロアザミウマ		アブラムシ類	ハナムグリ類	ゴマダラカミキリ		ナメクジ類
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発生果率(%)	寄生果率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	寄生果率(%)	虫数(頭/100果)	寄生枝率(%)	被害果率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	8.3	1.5	2.9	0.5	2.1	0.0	0.0	0.1	0.02	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0
	有田	12	5.6	1.0	1.1	0.2	2.5	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
	日高	8	8.3	1.5	15.0	0.2	0.8	0.0	0.0	0.1	0.0	0.0	11.7	38.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	西牟婁	6	11.1	2.1	2.8	1.0	2.2	0.0	0.0	0.0	0.00	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	0.0	0.6
	平均	34	11.2	2.2	5.1	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.01	0.0	2.7	9.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.1
発生ほ場率(%)			52.9		26.5			0.0		5.9		0.0	8.8		0.0		0.0	14.7	0.0		2.9
八朔 平均	6	17.8	4.1	0.0	0.0	3.3	3.3	0.8	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.6
発生ほ場率(%)																					
夏橙 平均	6	28.3	11.7	0.0	0.0	2.2	4.4	0.8	1.2	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.9	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
ネーブル 平均	3	37.8	6.7	0.0	0.0	2.2	8.9	2.5	8.9	2.5	0.0	34.4	154.4	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
伊予柑 平均	4	11.7	2.6	0.0	0.0	0.8	7.5	2.0	0.3	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.7	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
清見 平均	6	5.6	1.0	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
不知火 平均	5	26.7	2.7	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)																					
中晩柑 平均	30	17.7	4.8	0.0	0.0	2.0	3.8	0.89	0.4	0.1	1.3	3.4	15.4	0.1	0.1	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	0.1
発生ほ場率(%)			66.7		0.0		30.0	46.7		26.7		10.0	6.7		3.3		0.0	63.3	0.0		3.3
カンキツ総平均	64	15.4	3.71	2.7	1.06	2.0	1.8	0.42	0.2	0.03	0.0	3.1	12.0	0.1	0.1	0.0	0.0	3.2	0.0	0.0	0.1
発生ほ場率(%)			59.4		14.1		34.4	21.9		15.6		4.7	7.8		1.6		0.0	37.5	0.0		3.1

(4)10月調査 病害
(16,20日)

2023年

品種	地区	調査ほ場数	黒点病		そうか病		かいよう病				褐色腐敗病	緑かび病	こはん症
			発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病果率(%)	発病度	発病葉率(%)	発病度	発病果率(%)	発病果率(%)	発生果率(%)
ウンシュウミカン	下津	8	42.5	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.01	-	-	0.0
	有田	12	28.3	4.8	0.0	0.0	0.6	0.2	0.0	0.00	-	-	0.0
	日高	8	42.5	7.3	4.6	0.0	0.0	0.0	0.1	0.0	-	-	0.0
	西牟婁	6	56.7	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.00	-	-	0.0
	平均	34	45.5	8.7	1.1	0.4	0.2	0.1	0.0	0.00	-	-	0.0
発生ほ場率(%)			94.1		5.9		2.9		5.9		0.0	2.9	0.0
八朔	平均	6	19.4	6.0	0.0	0.0	2.8	1.8	0.0	0.0	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
夏橙	平均	6	27.8	10.8	0.0	0.0	7.2	2.1	0.6	0.1	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
ネーブル	平均	3	52.2	9.0	0.0	0.0	13.3	5.1	13.3	5.1	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
伊予柑	平均	4	19.2	8.0	0.0	0.0	5.0	1.4	0.4	0.1	-	-	51.8
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
清見	平均	6	7.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
不知火	平均	5	16.7	0.2	0.0	0.0	0.7	0.1	0.0	0.0	-	-	0.0
発生ほ場率(%)											0.0	0.0	
中晩柑	平均	30	19.0	5.9	0.0	0.0	4.1	1.51	0.3	0.1	-	-	6.9
発生ほ場率(%)			56.7		0.0		26.7		16.7		0.0	6.7	13.3
カンキツ総平均	平均	64	34.3	7.75	0.6	0.23	2.0	0.75	0.2	0.03	-	-	0.0
発生ほ場率(%)			76.6		3.1		14.1		10.9		0.0	4.7	6.3

(4)10月調査 虫害
(16,20日)

2023年

品種	地区	調査ほ場数	ミカンハダニ			チャノキイロ アザミウマ				ハナムグリ類	ヤノネカイガラムシ	ヤガ	コナカイガラムシ	ゴマダラ カミキリ		ナメクジ類					
			寄生葉率(%)	♀成虫数(頭/100葉)	春葉被害度	果頂部		果梗部						被害果率(%)	被害果率(%)		被害果率(%)	寄生率(%)	食害(被害樹率%)	成虫数(頭/ほ場)	被害果率(%)
						被害果率(%)	被害度	被害果率(%)	被害度												
ウンシュウ ミカン	下津	8	5.4	12.1	0.0	5.8	1.4	0.0	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	有田	12	0.8	0.8	0.0	0.6	0.1	1.4	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	日高	8	12.1	16.7	0.0	4.6	0.9	0.4	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	西牟婁	6	2.2	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
	平均	34	4.8	7.5	0.0	2.6	0.6	0.6	0.1	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			29.4			23.5		8.8		0.0	2.9	0.0	0.0	0.0		0.0					
八朔	平均	6	0.0	0.0	0.0	2.2	0.4	1.1	0.6	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2					
発生ほ場率(%)			0.0			33.3		33.3		50.0	0.0	0.0	0.0	0.0		16.7					
夏橙	平均	6	8.9	16.1	0.0	0.6	0.1	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			50.0			16.7		0.0		33.3	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
ネーブル	平均	3	0.0	0.0	0.0	1.1	0.6	2.2	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			0.0			33.3		33.3		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
伊予柑	平均	4	23.3	55.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			50.0			0.0		25.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
清見	平均	6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			0.0			0.0		0.0		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
不知火	平均	5	0.0	0.0	0.0	9.3	2.2	0.0	0.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			0.0			60.0		0.0		20.0	0.0	0.0	0.0	0.0		0.0					
中晩柑	平均	30	4.9	10.6	0.0	2.2	0.5	0.6	0.3	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			16.7			23.3		13.3		20.0	0.0	0.0	0.0	0.0		3.3					
カンキツ総平均	平均	64	4.8	9.0	0.0	2.4	0.5	0.6	0.2	0.2	0.052	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0					
発生ほ場率(%)			23.4			23.4		10.9		9.4	1.6	0.0	0.0	0.0		1.6					

2) カキ

(1) 5月調査 (15, 16日)

調査品種：富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 新梢率	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	マイマイガ 被害 葉率	カンザワ ハダニ 被害 葉率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	13.0	1.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	1.2	0.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数			0	7		7	0	0	0	0
発生ほ場率(%)			0.0	43.8		43.8	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

調査品種：刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	うどんこ病		灰色かび病 発病 新梢率	フジコナ カイガラムシ 寄生 花蕾率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイ ロアザミウ マ 被害 果率	マイマイガ 被害 葉率	カンザ ワ ハダニ 被害 葉率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度						
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.3	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				5		3	0	0	0	0	0
発生ほ場率(%)				29.4		17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

(2) 6月調査 (12,13日)

調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	さび果症 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	1.0	0.1	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	2.0	0.2	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	3.0	0.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	9.0	1.1	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	0.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	1.1	0.1	2.6	0.5	0.0	0.0	0.4	0.0	0.0
発生ほ場数			0	6		12	6	0	0	2	0	0
生ほ場率(%)			0.0	37.5		75.0	37.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	炭疽病 発病 果率	うどんこ病		灰色かび病		フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 葉率	チャノキイロ アザミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率
	No.	字名			発病 葉率	発病 度	発病 果率	発病 葉率					
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	4.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	3.0	0.3	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	1.0	0.1	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	14	切畑	刀根早生	0.0	4.0	0.4	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.5	0.1	1.5	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1
発生ほ場数				0	4		9	3	0	0	0	0	1
生ほ場率(%)				0.0	23.5		52.9	17.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9

100葉、50果調査

(3) 7月調査(11,13日)

調査品種:富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ 類 被害 果率	カキクダ アザミウマ 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度								
橋本市	1	柏原	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	15.0	1.7	4.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	0.0	3.0	0.3	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	0.0	0.0	58.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	5.0	0.5	42.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	6.0	0.6	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	11	東浜田	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	8.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	19.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	4.0	2.0	0.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	鎌滝	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.3	4.2	0.4	7.9	0.0	1.5	0.3	0.0	0.0	0.1	0.0
発生ほ場数			1	11		7	0	8	2	0	0	1	0
発生ほ場率(%)			6.3	68.8		43.8	0.0	50.0	12.5	0.0	0.0	6.3	0.0

100葉、50果調査

調査品種:刀根早生、平核無

市町村	調査場所		品種	炭疽病 発病 果率	うどんこ病		すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラムシ 寄生 果率	ハマキムシ 類 被害 果率	カキクダ アザミウ マ 被害 果率	チャノキ イロアザ ミウマ 被害 果率	カンザワ ハダニ 被害 果率	カメムシ類 被害 果率
	No.	字名			発病 葉率	発病 度							
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	4.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	44.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	3.0	0.3	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西浜田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.8	0.1	3.3	1.1	0.2	0.0	0.5	0.0	0.0
発生ほ場数				0	7		4	3	2	0	4	0	0
発生ほ場率(%)				0.0	41.2		23.5	17.6	11.8	0.0	23.5	0.0	0.0

100葉、50果調査

(4) 8月調査 (14, 16日)

調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	コガシラ アワフキ 被害 果率	さび果症 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度									
橋本市	1	柏原	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	0.0	11.0	1.5	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	3.0	0.5	0.0	0.0	98.0	0.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	2.0	5.0	0.5	0.0	0.0	48.0	0.0	8.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	3.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	8.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	16.0	2.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	0.0
	14	調月	0.0	4.0	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	2.0	6.0	0.6	4.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	16	鎌滝	2.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.5	4.1	0.5	0.3	0.0	11.1	0.0	2.3	1.8	0.0	0.3	0.1
発生ほ場数			4	13		1	0	5	0	8	9	0	2	1
発生ほ場率(%)			25.0	81.3		6.3	0.0	31.3	0.0	50.0	56.3	0.0	12.5	6.3

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病 発病 葉率	円星 落葉病 発病 葉率	すす点病 発病 果率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カキノヘタ ムシガ 被害 果率	チャノキイ ロアザミ ウマ 被害 果率	カメムシ 類 被害 果率
	No.	字名		品種	発病 葉率								
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	4.0	2.0	0.0	10.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	2.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	7.0	0.7	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	24.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	5.0	0.5	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	11	兄井	平核無	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	西洪田	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	13	野上	刀根早生	0.0	2.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	5.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	16	赤木	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	1.4	0.2	0.1	0.0	6.9	0.2	0.4	0.0	0.9
発生ほ場数				0	7		1	0	6	1	3	0	3
発生ほ場率(%)				0.0	41.2		5.9	0.0	35.3	5.9	17.6	0.0	17.6

100葉、50果調査

(5) 9月調査 (11,13日)

調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病率	カキノヘタ ムシガ 被害率	フジコナ カイガラムシ 寄生率	ハマキム シ類 被害率	カメムシ類 被害率	ハスモン ヨトウ 被害率
	No.	字名		発病率	発病率	発病率	発病率	発病率	発病率						
橋本市	1	柏原	0.0	1.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	6.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	山田	2.0	1.0	0.1	1.0	0.2	0.0	18.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	0.0	1.0	0.1	27.0	10.0	0.0	0.0	68.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	0.0	9.0	1.3	29.0	5.5	1.0	0.2	50.0	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	0.0	2.0	0.2	6.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西飯降	0.0	1.0	0.1	1.0	0.2	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	野上	0.0	11.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	13	切畑	0.0	31.0	5.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	2.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	2.0	0.2	6.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	5.0	0.8	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
	16	鎌滝	4.0	4.0	0.6	3.0	0.5	1.0	0.2	8.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0
平均			0.8	3.9	0.6	4.9	1.2	0.2	0.0	10.4	0.0	1.8	0.1	0.3	0.1
発生ほ場数			3	10		8		3		7	0	7	1	2	1
発生ほ場率(%)			18.8	62.5		50.0		18.8		43.8	0.0	43.8	6.3	12.5	6.3

100葉、50果調査

調査品種: 刀根早生、平核無

市町村	調査場所		炭疽病 発病率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病率	カキノヘ タムシガ 被害率	フジコナ カイガラ ムシ 寄生率	ハマキム シ類 被害率	カメムシ 類 被害率	ハスモン ヨトウ 被害率
	No.	字名		発病率	発病率	発病率	発病率	発病率	発病率						
橋本市	1	柏原	刀根早生	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	市脇	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	3	学文路	刀根早生	0.0	0.0	0.0	1.0	0.2	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	南馬場	平核無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	5	大野	平核無	0.0	0.0	0.0	9.0	1.8	0.0	0.0	38.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	入郷	刀根早生	0.0	20.0	8.2	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
かつらぎ町	8	広浦	平核無	0.0	2.0	0.2	4.0	0.7	0.0	0.0	6.0	0.0	6.0	0.0	0.0
	9	柏木	刀根早生	0.0	8.0	1.4	1.0	0.2	1.0	0.2	16.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	丁ノ町	平核無	0.0	2.0	0.2	2.0	0.3	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	11	兄井	平核無	0.0	0.0	0.0	5.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀の川市	12	西洪田	刀根早生	0.0	6.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	13	野上	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	切畑	刀根早生	0.0	7.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	1.0
紀美野町	15	調月	平核無	0.0	0.0	0.0	2.0	0.3	6.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	16	赤木	平核無	0.0	1.0	0.1	3.0	0.5	1.0	0.2	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	17	鎌滝	刀根早生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	5.0
平均				0.0	2.7	0.7	1.6	0.3	0.7	0.1	5.3	0.0	0.7	0.1	0.0
発生ほ場数				0	7		9		5		8	0	4	1	0
発生ほ場率(%)				0.0	41.2		52.9		29.4		47.1	0.0	23.5	5.9	0.0

100葉、50果調査

(6) 10月調査 (11, 16日)
調査品種: 富有

市町村	調査場所		炭疽病 発病 果率	うどんこ病		角斑 落葉病		円星 落葉病		すす点病 発病 果率	カキノヘ タムシガ 被害 果率	フジコナカ イガラムシ 寄生 果率	ハマキム シ類 被害 果率	カメモシ類 被害 果率
	No.	字名		発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度	発病 葉率	発病 度					
橋本市	1	柏原	0.0	0.0	0.0	7.0	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	4.0
	2	市脇	0.0	0.0	0.0	10.0	1.8	0.0	0.0	14.0	0.0	0.0	0.0	8.0
	3	学文路	0.0	1.0	0.1	21.0	4.5	5.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0
	4	山田	0.0	7.0	1.3	45.0	14.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
	5	大野	0.0	2.0	0.4	90.0	71.5	0.0	0.0	78.0	0.0	0.0	0.0	0.0
九度山町	6	広良	0.0	4.0	0.8	6.0	1.2	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
	7	入郷	0.0	1.0	0.1	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0
かつらぎ町	8	広浦	2.0	5.0	2.2	75.0	39.3	0.0	0.0	66.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	9	丁ノ町	2.0	3.0	0.5	32.0	10.0	4.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	10	西飯降	0.0	2.0	0.4	27.0	7.0	0.0	0.0	6.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	11	東洪田	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
紀の川市	12	野上	0.0	13.0	3.2	17.0	3.8	0.0	0.0	4.0	0.0	2.0	2.0	0.0
	13	切畑	0.0	55.0	27.4	15.0	6.2	3.0	0.7	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	14	調月	0.0	3.0	0.5	31.0	8.8	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
紀美野町	15	赤木	0.0	0.0	0.0	8.0	1.3	2.0	0.3	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
	16	鎌滝	2.0	0.0	0.0	26.0	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0
平均			0.4	6.0	2.3	25.7	11.1	1.0	0.2	10.9	0.0	0.5	0.1	3.1
発生ほ場数			3	11		15		5		8	0	4	1	10
発生ほ場率(%)			18.8	68.8		93.8		31.3		50.0	0.0	25.0	6.3	62.5

100葉、50果調査

3) モモ

(1)4月調査(11日)

市町村	調査場所		品種	せん孔 細菌病 発病 枝率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	No.	字名						
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数				0	0	0	0	0
発生ほ場率(%)				0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

100葉叢、100結果枝 調査

(2)5月調査(15、16日)

市町村	調査場所		品種	せん孔 細菌病 発病 葉率	うどんこ病 発病 果率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率	コスカシバ 被害 箇所数
	No.	字名									
紀の川市	1	杉原	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0
	7	段	白鳳	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均				1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0
発生ほ場数				5	0	0	0	0	0	2	0
発生ほ場率(%)				50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0

100葉、50果、50新梢 コスカシバ:10樹、樹高1m以下調査

(3)6月調査(12、13日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率						
紀の川市	1	杉原	白鳳	1.0	-	0.0	3.0	2.0	0.0	0.0	-
	2	遠方	日川白鳳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	4.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	3.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	5	元	清水白桃	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	12.0	2.0	0.0	0.0	2.0	0.0	8.0	0.0
	7	段	白鳳	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	22.0	4.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	東浜田	白鳳	1.0	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
平均				4.6	1.0	0.0	0.3	0.6	0.0	0.8	0.0
発生ほ場数				9	2	0	1	3	0	1	0
発生ほ場率(%)				90.0	33.3	0.0	10.0	30.0	0.0	10.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は有袋のため未調査

(4)7月調査(11、13日)

市町村	調査場所		品種	せん孔細菌病		灰星病発病果率	モモハモグリガ被害葉率	ハダニ類寄生葉率	ナシヒメシンクイ被害枝率	アブラムシ類寄生新梢率	カイガラムシ類寄生枝率	カメムシ類被害果率
	No.	字名		発病葉率	発病果率							
紀の川市	1	杉原	白鳳	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	3.0	-	-	0.0	1.0	4.0	0.0	0.0	-
	3	嶋	白鳳	2.0	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	-
	4	長田中	白鳳	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0
	5	元	清水白桃	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	4.0	0.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	16.0	0.0	0.0	0.0	8.0	12.0	0.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	26.0	0.0	0.0	0.0	2.0	4.0	0.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	-	-	0.0	16.0	6.0	0.0	0.0	-
	10	東浜田	白鳳	1.0	-	-	0.0	2.0	6.0	0.0	0.0	-
平均				6.0	0.0	0.0	0.0	3.2	4.6	0.2	0.0	0.0
発生ほ場数				8	0	0	0	6	8	1	0	0
発生ほ場率(%)				80.0	0.0	0.0	0.0	60.0	80.0	10.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

- は収穫済みのため果実無し

(5)8月調査(14、16日)

市町村	調査場所		品種	せん孔 細菌病 発病 葉率	モモ ハモグリガ 被害 葉率	ハダニ類 寄生 葉率	ナシヒメ シンクイ 被害 枝率	アブラムシ類 寄生 新梢率	カイガラムシ類 寄生 枝率
	No.	字名							
紀の川市	1	杉原	白鳳	15.0	0.0	0	20.0	0.0	0.0
	2	遠方	日川白鳳	8.0	0.0	0	36.0	0.0	0.0
	3	嶋	白鳳	5.0	0.0	4.0	12.0	0.0	0.0
	4	長田中	白鳳	6.0	0.0	4	36.0	0.0	0.0
	5	元	白鳳	3.0	0.0	1	18.0	0.0	0.0
	6	市場	清水白桃	23.0	0.0	0.0	30.0	0.0	0.0
	7	段	白鳳	22.0	0.0	0.0	44.0	0.0	0.0
	8	段新田	清水白桃	48.0	0.0	0	16.0	0.0	0.0
かつらぎ町	9	兄井	白鳳	0.0	0.0	0.0	32.0	0.0	0.0
	10	東洪田	白鳳	14.0	0.0	1.0	26.0	0.0	0.0
平均				14.4	0.0	1.0	27.0	0	0
発生ほ場数				9	0	4	10	0	0
発生ほ場率(%)				90.0	0.0	40.0	100.0	0.0	0.0

100葉、50果、50新梢調査

4) キウイフルーツ

調査品種:ヘイワード

市町村	調査場所		4月調査(11日)		5月調査(15、16日)		6月調査(13、14日)	
			かいよう病		かいよう病		かいよう病	
			発病葉率	発病度	発病葉率	発病度	発病葉率	発病度
紀の川市	1	名手上	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	2	北涌	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
海南市	3	下津町小南	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	4	下津町小原	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	5	下津町下津	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
平均			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場数			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
発生ほ場率(%)			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

10新梢の100葉調査

4) ウメ

(1) 4月調査(4月5、6日)

調査品種：南高

2023年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		すす斑病	アブラムシ類	ウメロ カガラムシ
	園No.	字名	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	病斑数 ／発病枝	発病 枝率	被害 新梢率	寄生 枝率
みなべ町	1	東岩代1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	18.0
	2	東岩代2	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	8.0
	3	東岩代3	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	2.0
	4	東本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0	14.0
	5	東本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	8.0
	6	東本庄3	0.0	0.0	0.0	0.0	64.0	1.0	14.0
	7	西本庄1	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	2.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	8.0
	9	西本庄P1	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	8.0
	10	西本庄P2	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	0.0	8.0
	11	西本庄P3	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	4.0
	12	井戸が谷	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	1.0	14.0
	13	埴田1	2.0	1.0	0.0	0.0	82.0	0.0	0.0
	14	埴田2	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	0.0
	15	晩稲1	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0	12.0
	16	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	78.0	0.0	8.0
	17	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	70.0	0.0	4.0
	18	晩稲4	6.0	3.3	0.0	0.0	94.0	0.0	6.0
	19	晩稲5	0.0	0.0	0.0	0.0	60.0	0.0	4.0
	20	岩代P1	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	6.0
	21	岩代P2	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	0.0	6.0
	22	高城1	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	0.0
	23	高城2	2.0	1.0	0.0	0.0	98.0	0.0	0.0
	24	高城3	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	4.0
	25	清川1	0.0	0.0	0.0	0.0	82.0	0.0	0.0
	26	清川2	2.0	1.0	0.0	0.0	90.0	0.0	4.0
	27	清川3	8.0	2.3	0.0	0.0	86.0	0.0	8.0
田辺市	1	下三栖1	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	0.0	14.0
	2	下三栖2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	16.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	20.0
	4	上秋津2	0.0	0.0	0.0	0.0	62.0	0.0	0.0
	5	上秋津3	0.0	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	18.0
	6	団栗	4.0	2.0	0.0	0.0	100.0	0.0	6.0
	7	中芳養1	2.0	1.0	0.0	0.0	88.0	0.0	10.0
	8	中芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	10.0
	9	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	84.0	0.0	8.0
	10	秋津川1	0.0	0.0	0.0	0.0	96.0	0.0	0.0
	11	秋津川2	0.0	0.0	0.0	0.0	94.0	0.0	0.0
	12	秋津川3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	2.0
	13	上芳養1	0.0	0.0	0.0	0.0	86.0	0.0	8.0
	14	上芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	92.0	0.0	6.0
	平均		0.6	0.3	0.0	0.0	87.2	0.0	7.0
	発生ほ場数		7		0		41	2	33
	発生ほ場率(%)		17.1		0.0		100.0	4.9	80.5

(2) 6月調査(6月5、7日)

調査品種: 南高

2023年

市町村	調査場所		黒星病		かいよう病		うどんこ病	灰色かび病	ウメシロカラムシ	ハダニ類		コスシバ	アブラムシ類
	園No.	字名	発病果率	発病度	発病果率	発病度	発病果率	発病果率	寄生枝率	被害葉率	虫数/100葉	被害カ所数/5樹	被害新梢率
みなべ町	1	東岩代1	2.0	0.3	0.0	0.0	0.0	4.0	4.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	2	東岩代2	1.0	0.3	1.0	0.2	0.0	1.0	4.0	11.0	15.0	0.0	0.0
	3	東岩代3	0.0	0.0	8.0	1.7	0.0	2.0	0.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	4	東本庄1	6.0	1.0	1.0	0.2	0.0	0.0	4.0	9.0	10.0	0.0	0.0
	5	東本庄2	2.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	6.0	5.0	0.0	0.0
	6	東本庄3	0.0	0.0	1.0	0.3	0.0	1.0	10.0	12.0	24.0	0.0	0.0
	7	西本庄1	9.0	2.0	2.0	0.5	0.0	1.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0
	8	西本庄2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	12.0	16.0	25.0	0.0	0.0
	9	西本庄P1	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	1.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	10	西本庄P2	0.0	0.0	2.0	1.0	0.0	1.0	4.0	7.0	14.0	0.0	0.0
	11	西本庄P3	3.0	0.7	6.0	1.7	0.0	2.0	4.0	2.0	2.0	0.0	0.0
	12	井戸が谷	0.0	0.0	1.0	0.3	0.0	4.0	0.0	20.0	36.0	0.0	0.0
	13	埴田1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0	10.0	0.0	0.0
	14	埴田2	4.0	0.7	3.0	1.2	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	15	晩稲1	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.0	3.0	0.0	0.0
	16	晩稲2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	12.0	29.0	80.0	0.0	0.0
	17	晩稲3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.0	6.0	33.0	90.0	0.0	0.0
	18	晩稲4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	8.0	32.0	66.0	0.0	0.0
	19	晩稲5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.0	42.0	116.0	0.0	0.0
	20	岩代P1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	5.0	5.0	0.0	0.0
	21	岩代P2	1.0	0.2	10.0	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	22	高城1	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	23	高城2	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	24	高城3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	7.0	18.0	0.0	0.0
	25	清川1	0.0	0.0	2.0	0.3	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	26	清川2	4.0	0.8	3.0	0.7	0.0	6.0	0.0	11.0	20.0	0.0	0.0
	27	清川3	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	7.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
田辺市	1	下三栖1	1.0	0.2	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0
	2	下三栖2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	1.0	1.0	1.0	0.0
	3	上秋津1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	10.0	29.0	76.0	1.0	0.0
	4	上秋津2	3.0	0.5	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	2.0	3.0	0.0	1.0
	5	上秋津3	2.0	0.3	1.0	0.3	0.0	2.0	0.0	7.0	11.0	0.0	0.0
	6	団栗	10.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	8.0	10.0	16.0	0.0	0.0
	7	中芳養1	4.0	0.7	0.0	0.0	0.0	3.0	8.0	6.0	6.0	0.0	3.0
	8	中芳養2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.0	10.0	1.0	1.0	0.0	0.0
	9	津志野	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	3.0	4.0	0.0	0.0
	10	秋津川1	1.0	0.2	2.0	0.5	0.0	6.0	0.0	24.0	63.0	0.0	1.0
	11	秋津川2	0.0	0.0	5.0	0.8	0.0	5.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	12	秋津川3	1.0	0.3	2.0	0.5	0.0	7.0	0.0	14.0	30.0	0.0	0.0
	13	上芳養1	3.0	0.7	0.0	0.0	0.0	3.0	10.0	27.0	70.0	6.0	1.0
	14	上芳養2	0.0	0.0	7.0	1.7	0.0	2.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	平均		1.5	0.3	1.5	0.4	0.0	2.3	4.0	9.3	20.2	0.3	0.1
	発生ほ場数		20		19		0	33	23	33		4	4
	発生ほ場率(%)		48.8		46.3		0.0	80.5	56.1	80.5		9.8	9.8